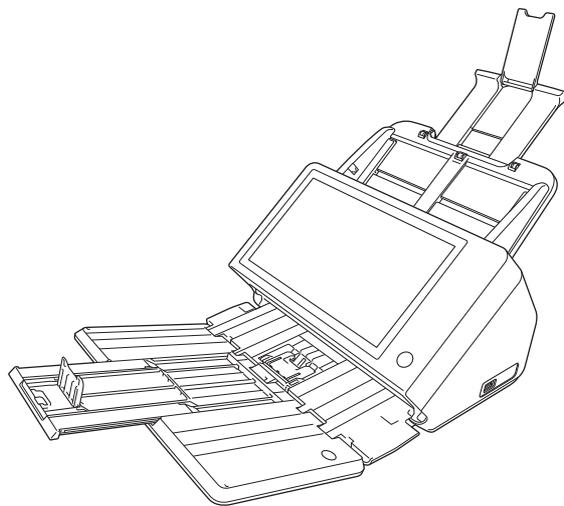


Canon

 **imageFORMULA**
ScanFront 400 Series

取扱説明書



ご使用前に必ず本書をお読みください。
将来いつでも使用できるように大切に保管してください。

■ 国際エネルギースタートプログラムについて

このプログラムは日本向けのもです。

当社は国際エネルギースタートプログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタートプログラムの「対象製品に関する基準を満たしていると判断します。」



本製品は、工場出荷時の設定では本体を操作しないまま12分経過するとローパワーモードに移行します。ローパワーモードに移行する時間は最長120分まで変更できますが、工場出荷時の設定での使用をお勧めします。移行時間を長くすると、消費電力が多くなります。

■ 電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

■ ご注意

- ・本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
- ・本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- ・本書の内容については万全を期して作成しましたが、運用した結果の影響につきましては、前項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

■ 複製についてのご注意

以下のもの(全てを網羅している訳ではありません。)を本物と偽って使用する目的で複製(スキャン)すること、あるいは、複製(スキャン)によりその本物と紛らわしいものを作成すると、法律により罰せられることがあります。

- ・紙幣、銀行券(外国のものを含む)
- ・郵便切手、印紙、その他の金券
- ・株券、社債券、手形、小切手、定期券、回数券、乗車券、その他の有価証券

- ・公務員または役所が作成したパスポート、免許証、登記簿謄本その他の証明書や文書
- ・権利、義務もしくは事実証明に関する私人が作成する文書、図画
- ・役所または公務員の印影、署名または記号
- ・私人の印影または署名

■ 商標および登録商標について

- ・imageFORMULAは、キヤノン電子株式会社の商標です。
- ・Microsoft、Windows、Internet Explorer、Active Directoryは、米国マイクロソフト社の米国および他の国における登録商標または商標です。
- ・Adobe、Acrobat、およびAdobe Readerは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- ・その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

■ 免責事項

本製品を用いて読み取る原稿、または読み取った画像イメージの保管や管理についてはお客様の責任で行ってください。また、読み取った原稿を破棄する場合は、必ず、読み取り画像イメージをしっかりと精査し、欠落のないことを確認した上でお客様の責任において行ってください。なお、当社が本製品に対して行う保証は、いかなる場合においても本製品の代金としてお客様が支払った金額を超えることはありません。予め、ご了承ください。

■ オープンソースライセンス情報について

本製品には、オープンソースソフトウェアが含まれます。各オープンソースソフトウェアのライセンス条件につきましては、ソフトウェアセットアップディスクのLICENSEフォルダの中に収録されているOpenSource.txtを参照してください。

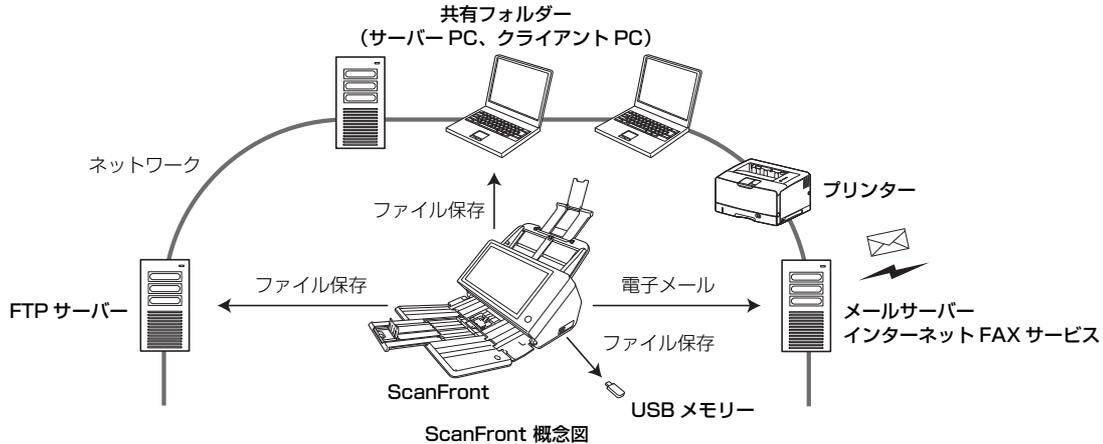
本製品は電気通信事業者(移動通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダ等)の通信回線(公衆無線LANを含む)に直接接続することができません。本製品をインターネットに接続する場合は、必ずルータ等を経由し接続してください。

はじめに

このたびはキヤノンネットワークスキャナー「imageFORMULA ScanFront 400」をお買い求めいただきありがとうございます。本機の機能を十分にご理解いただき、より効果的にご活用いただくために本機をご使用になるまえに本書をよくお読みいただくとともに、お読みになったあとは必ず保管してください。

□ ScanFront 400 について

ScanFront 400 は、コンピューターと接続しないでスキャンすることのできるネットワークスキャナーです。ScanFront 400 でスキャンした画像は、ネットワーク上のサーバーPC やクライアント PC の共有フォルダーや FTP サーバーに転送したり、プリンターに送信して印刷したり、電子メールまたはインターネット FAX サービスによる遠隔地への配信が可能です。また、ネットワーク環境のない場所でも USB メモリーに画像ファイルを保存できます。



□ ScanFront 400 の Web アプリモードについて

ScanFront 400 には Web アプリモードという動作モードが搭載されており、切り替えて使用することができます。Web アプリモードをご使用になる場合は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

□ SF400 Embedded SDK について

ScanFront 400 には SF400 Embedded SDK が用意されており、カスタム LXC というソフトウェアを使用してログイン機能や画像送信機能のカスタマイズ、内部 Web アプリを使用する機能が利用できます。SF400 Embedded SDK をご使用になる場合は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

□ マニュアルの構成について

本製品のマニュアルは以下の構成になっています。本製品をお使いになる前によくお読みください。

セットアップ・オペレーションガイド

セットアップガイド

ScanFront を使えるようにするまでのセットアップの手順について書かれています。ScanFront の詳細については以下のオペレーションガイドおよび取扱説明書（電子マニュアル）を参照してください。

オペレーションガイド

ScanFront の概要と、ユーザーが ScanFront を使用するための操作手順について書かれています。ScanFront の設定については以下の取扱説明書（電子マニュアル）を参照してください。

取扱説明書（電子マニュアル）：本書

取扱説明書は、付属の取扱説明書 / アプリケーションディスクに収納されている PDF 形式の電子マニュアルで、ScanFront の概要から取り扱い、メンテナンス、トラブルシューティングなど、ScanFront を取り扱う項目全般について説明しています。

□ マニュアル内の表記について

本製品のマニュアルで使用している記号・表示について説明します。マニュアルをお読みになる前に、ひととおり目を通して、その意味を理解しておいてください。

(→ P.xx)

参照ページを表します。カッコ内の数字は、書かれていることについての詳しい説明が記載されているページ数です。

警告

取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う恐れのある警告事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。

注意

取り扱いを誤った場合に、傷害を負う恐れや物的損害が発生する恐れのある注意事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの注意事項をお守りください。

重要

操作上必ず守っていただきたい重要事項や禁止事項が書かれています。機械の故障や損傷を防ぐために、必ずお読みください。

ヒント

操作の参考となることや補足説明が書かれています。必ずお読みください。

□ 本書の構成について

本書は以下の構成になっています。

第 1 章 お使いになる前に

ScanFront の概要について説明します。

第 2 章 ScanFront のセットアップ

ScanFront のセットアップ手順と ScanFront 本体での「管理者設定」について説明します。

第 3 章 ScanFront の取り扱い

使用できる原稿の種類と、ScanFront の基本操作について説明します。

第 4 章 ScanFront の使用方法

ユーザーによる ScanFront の操作手順について説明します。

第 5 章 管理者設定

管理者が設定するための「管理者設定」について説明します。

第 6 章 ユーザー設定

管理者が設定するための「ユーザー設定」について説明します。

第 7 章 ScanFront Administration Tool for SF400

ScanFront Administration Tool for SF400 のインストールおよび使用方法について説明します。

第 8 章 メンテナンス

清掃と、消耗品（搬送ローラーなど）の交換について説明します。

第 9 章 こんなときは

困ったときや、メッセージが表示されたときの対処方法について説明します。

第 10 章 付 録

仕様とサポート情報について説明します。

□ 目次

はじめに	3
ScanFront 400 について	3
ScanFront 400 の Web アプリモードについて	3
SF400 Embedded SDK について	4
マニュアル内の構成について	4
マニュアル内の表記について	4
本書の構成について	5

第 1 章 お使いになる前に

1. 安全にお使いいただくために	11
設置場所について	11
AC アダプターについて	11
スキャナーの移動	12
日常の取り扱いについて	12
廃棄について	13
2. ScanFront 400 の特長	14
ScanFront 400	14
3. 各部の名称と機能	17
前面、給排紙トレイ	17
背面	18
4. ネットワーク環境について	19
ネットワーク環境	19
その他	20

第 2 章 ScanFront のセットアップ

1. セットアップする前に	22
設置場所について	22
AC アダプターの接続	23
ネットワークケーブルの接続	24

2. 電源のオン / オフ	25
電源のオン	25
電源のオフ	26
3. ScanFront のセットアップ	27
管理者設定について	27
4. 管理者設定	29
管理者設定へのログイン	29
デバイスのネットワーク設定	30
管理者パスワード	31
設定情報のバックアップ / リストア	31
ログインタイプ選択	32
ローラーカウンターリセット	32
ScanFront の初期化	33
ネットワークテスト	33

第 3 章 ScanFront の取り扱い

1. 原稿について	35
普通紙	35
名刺	36
カード（プラスチック製）	36
パスポート	36
2. スキャナーの準備	37
給紙トレイ、排紙トレイの準備	37
給紙方法の切り替え	38
USB ポートスロットについて	38
3. 原稿のセット	40
原稿のセット	40
半折り原稿のセット	41
長尺紙のセット	42
カードのセット	42
キャリアシート of セット	43

パスポート用キャリアシートのセット.....	44
4. 紙詰まりや重送を検知したときの処理.....	46
第4章 ScanFront の使用方法	
1. 送信までの流れ.....	50
2. 電源のオン/オフ.....	51
電源のオン.....	51
電源のオフ.....	52
3. ログイン画面について.....	53
ログイン画面のタイプ.....	53
サーバー認証を使用する場合.....	54
「リスト選択型」ログイン画面.....	54
「文字入力型」ログイン画面.....	55
4. ログイン後の画面について.....	57
ホーム画面.....	57
ジョブボタン画面.....	58
5. ユーザー設定画面.....	59
ユーザー管理.....	59
アドレス帳設定.....	60
ジョブボタン設定.....	60
パスワード変更.....	60
操作履歴表示.....	61
6. スキャンの手順について.....	62
ホーム画面からのスキャン.....	62
ジョブボタン画面からのスキャン.....	63
アドレス選択画面について.....	63
USB メモリー画面について.....	65
プリンター画面について.....	66
スキャン.....	66
7. 宛先の登録と編集.....	72
宛先の新規登録.....	72

宛先の変更.....	77
宛先のコピー.....	78
8. 読取 / 送信設定.....	80
スキャン設定.....	81
ファイル形式.....	89
PDF ファイルのセキュリティ設定.....	91
送信設定.....	92
パッチコードシートを使用したパッチ区切り.....	95
パッチコードシートの使い方.....	95

第5章 管理者設定

1. 管理者設定について.....	98
2. ユーザー管理.....	100
ユーザーの新規登録.....	101
ユーザー編集.....	107
ユーザーの機能制限.....	108
ユーザーの削除.....	109
サーバーと同期して削除.....	109
ユーザーのエクスポート.....	110
ユーザーのインポート.....	111
3. アドレス帳設定.....	112
宛先の新規登録.....	112
宛先の変更.....	112
宛先のコピー.....	112
宛先の削除.....	113
アドレス帳のエクスポート.....	113
アドレス帳のインポート.....	114
4. ジョブボタン設定.....	116
ジョブボタンの新規登録.....	116
ジョブボタンのコピー.....	119
ジョブの編集.....	120

ジョブボタンのエクスポート	121
ジョブボタンのインポート	122
5. デバイス設定	123
デバイスのネットワーク設定	123
言語 / タイムゾーン	124
日付 / 時刻	124
自動ログアウト	125
SNMP 設定	125
6. 通信設定	132
メールサーバー	133
FAX	134
認証サーバー	135
アドレス帳サーバー	136
FTP サーバー	137
HTTP プロキシサーバー	138
FTP プロキシサーバー	138
7. システム設定	139
全ての設定をバックアップする	139
全ての設定のリストア	140
エラーログ出力	141
バージョン情報	141
バージョンアップ実行	141
8. システム管理	142
管理者設定	142
9. 証明書	143
証明書の削除	143
10. 秘密鍵	144
秘密鍵の削除	144
11. 「デバイス動作設定」画面	145
デバイス詳細設定	146

パスワード設定	147
IEEE802.1X 設定	147
外部の端末のウェブブラウザからのアクセス	148

第 6 章 ユーザー設定

1. ユーザー設定について	151
2. ユーザー管理	152
3. アドレス帳設定	154
宛先の新規登録	155
宛先の変更	155
宛先のコピー	155
4. ジョブボタン設定	156
ジョブボタンの新規登録	156
ジョブボタンのコピー	157
ジョブの編集	157
ジョブボタンのエクスポート	157
ジョブボタンのインポート	157

第 7 章 ScanFront Administration Tool for SF400

1. ScanFront Administration Tool for SF400 について	159
2. ScanFront Administration Tool for SF400 のインストール	160
動作条件	160
インストール方法	160
3. ScanFront Administration Tool for SF400 の初期設定	162
ScanFront Administration Tool for SF400 を起動する	162
ScanFront を登録する	162

4. ScanFront の管理	164
ScanFront を選択する	164
ScanFront の状態を確認する	164
パスワードを入力する	165
IP アドレスまたはデバイス名を変更する	166
ScanFront の詳細情報を確認する	166
Web メニューを表示する	167
一括処理	167
管理データのエクスポート／インポート	169
メイン画面の表示 / 非表示	170

送信先	196
AC アダプター (100 ~ 240V 型)	196
消耗品	196
オプション	196
フラットベッドスキャナーユニット 102 に ついて	196
外形寸法図 (単位 : mm)	197
2. 索引	198

第 8 章 メンテナンス

1. 日常のお手入れ	172
本体の清掃	172
タッチパネルの清掃	172
読み取りガラスとローラーの清掃	173
分離ローラーの清掃	175
給紙ローラーの清掃	177
2. 搬送ローラーの交換	179
交換ローラーキットについて	179
搬送枚数の確認とカウンターのリセット	180

第 9 章 こんなときは

1. 困ったときは	183
2. エラーメッセージ	188
3. ScanFront の初期化	192

第 10 章 付 録

1. 仕 様	194
本体仕様	194
ネットワーク仕様	195

第 1 章 お使いになる前に

1. 安全にお使いいただくために.....	11
設置場所について.....	11
ACアダプターについて.....	11
スキャナーの移動.....	12
日常の取り扱いについて.....	12
廃棄について.....	13
2. ScanFront 400 の特長.....	14
ScanFront 400.....	14
3. 各部の名称と機能.....	17
前面、給排紙トレイ.....	17
背面.....	18
4. ネットワーク環境について.....	19
ネットワーク環境.....	19
その他.....	20

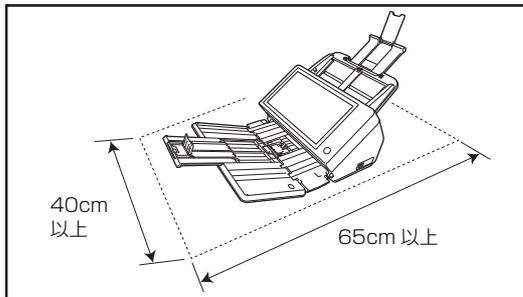
1. 安全にお使いいただくために

本製品を安全にお使いいただくため、以下の項目についての注意事項を必ずお読みください。

□ 設置場所について

本機の性能は、設置されている環境によって影響を受けることがあります。設置する場所が次の環境条件に合っていることを確認してください。

- 本機の周りには操作、保守、換気のためのスペースを十分確保してください。



- 直射日光の当たる場所は避けてください。やむをえない場合は、厚いカーテンなどで日光をさえぎってください。
- ほこりの多い場所は避けてください。ほこりは本体内部に悪影響を及ぼすことがあります。
- 水道の蛇口、湯沸器、加湿器など高温、多湿になる場所の近くや、アンモニアガス、シンナーなどが発生する場所は避けてください。

- 不安定な場所や、振動しやすい場所は避けてください。
- 温度が急激に変化する場所は避けてください。本体内部で結露が発生すると品質低下の原因になります。以下の環境下でお使いください。
室温 10℃—32.5℃
湿度 20%—80%RH
- スピーカーやテレビ、ラジオなど磁気を発生する機器の近くは避けてください。

□ AC アダプターについて

- 電源は必ず 100V のコンセントからとってください。
- 他の電気機器と同じコンセントを使用しないでください。また、延長コードを使う場合は、延長コードのアンペア数値に注意してください。
- AC アダプターの分解、改造は、危険ですので絶対に行わないでください。
- AC アダプターおよび電源コードの上に物を置いたり、踏みつけたりしないでください。
- 電源コードを束ねたまま使用しないでください。
- 電源コードを強く引っ張らないでください。電源プラグを抜くときは、電源プラグを持ち、そのまま抜いてください。
- 非常時に電源プラグが抜けるように、電源プラグの周りには物を置かないでください。

- 付属の AC アダプター以外は使用しないでください。また、付属の AC アダプターを他の製品に使用しないでください。
- 電源について不明な点があるときは、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

□ スキャナーの移動

- スキャナーを移動する場合は、本体を落とさないように必ず両手でしっかり持ってください。スキャナー本体の質量は約 4.5kg です。
- スキャナーを移動する場合は、トレイを収納し、インターフェースケーブルや AC アダプターを、必ず外してください。ケーブル類を付けたまま持ち運ぶと、無理な力が加わってプラグやコネクタが損傷することがあります。

□ 日常の取り扱いについて



警告

本製品をお使いになるときは、次の警告をお守りください。これらは火災や感電の原因になります。

- アルコール、シンナーなどの引火性溶剤の近くには設置しないでください。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げないでください。

- 同梱されている電源コードセットは本機専用です。本機以外の電気機器には使用できません。また、同梱されている電源コードセット以外の電源コードセットは、本機には使用しないでください。火災や感電の原因になります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
- タコ足配線をしないでください。
- 電源コードを結んだり、束ねたりしないでください。電源プラグは奥まで確実に差し込んでください。
- 本機を分解したり、改造しないでください。
- AC アダプターの分解、改造は、危険ですので絶対に行わないでください。
- 本機の近くでは可燃性のスプレーを使用しないでください。
- 清掃の際は電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
- 本機の清掃には、水を含ませて固くしぼった布を使用してください。アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。
- 異常音、発煙、発熱、異臭があったり、電源を入れても機械が動かないなどの異常が発生した場合は、直ちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そして、お買い求めの販売店または担当サービスにご連絡ください。
- 本機を落としたり、ぶつけたりして、強いショックを与えないでください。万一本機が破損した場合は、直ちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そして、お買い求めの販売店または担当サービスにご連絡ください。

- 本機を移動させる場合は、必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。



注意

- ぐらついた台の上や傾いたところなどの不安定な場所や、振動の多い場所には設置しないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因になることがあります。
- 通気孔をふさがしないでください。本機の内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
- 本機の上には、クリップ、ステイプルの針、ネックレスなどの金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入ると火災や感電の原因になることがあります。万一これらが本機の中に入ってしまった場合は、直ちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そしてお買い求めの販売店または担当サービスにご連絡ください。
- 湿気やほこりの多い場所には設置しないでください。火災や感電の原因になることがあります。
- 本機の上には物を載せないでください。置いたものが倒れたり、落下して、けがの原因になることがあります。
- AC100V以外の電源電圧で使用しないでください。火災や感電の原因になることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張ると、芯線の露出、断線などで、コードが傷つき、火災や感電の原因になることがあります。
- いつでも電源コードが抜けるように、コンセントの周りには物を置かないでください。非常時に電源コードが抜けなくなります。

- 本機の内部に、水や引火性溶剤（アルコール、シンナー、ベンジンなど）をこぼさないでください。火災や感電の原因になることがあります。
- 長時間ご使用にならないときは、安全のため、必ずACアダプターのプラグを本体から抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本機を操作するときは、ゆったりとした服装を避け、装飾品など動作中の本機に引っ掛かりそうなものを身につけないでください。本機に巻き込まれてけがの原因になることがあります。特にネクタイや長い髪などご注意ください。万一巻き込まれた場合は、直ちに電源を切って機械を停止してください。
- 原稿をセットするときや、詰まった紙を取り除くときは、慎重に扱ってください。紙の端で手を切るなど、思わぬけがをすることがあります。

□ 廃棄について

- 本機を廃棄する前に、初期化を行って登録したデータを必ず消去してください。
- 本機および付属品を廃棄するときは、必ず法律およびその地域の条例に従って廃棄するかお買い求めの販売店にご相談ください。

2. ScanFront 400 の特長

ScanFront 400 の主な特長は以下のとおりです。

□ ScanFront 400

- **コンパクトネットワークドキュメントスキャナー**
給紙トレイを外した状態で幅 305 mm× 奥行き 253 mm× 高さ 204 mm のコンパクト設計のネットワークドキュメントスキャナーで、名刺から A4/LTR サイズまでの原稿をスキャンできます。
- **多様な送信先をサポート**
スキャンした画像ファイルは、ネットワークを経由して以下の場所に送信できます。
 - 共有フォルダー
 - FTP サーバー
 - 電子メール
 - FAX (インターネット FAX サービス経由)
- **多様な読み取りモード**
読み取りモードとして、「白黒」、「白黒」、「誤差拡散」、「文字強調」、「グレー」、「カラー」の 5 種類の読み取りモードが用意されています。
- **長尺紙のスキャンに対応**
長尺紙のサイズを自動的に検知してスキャンするモードを搭載しています。
* 送信する画像のファイル形式によって選択できる読取モードが変わります。
- **高速原稿給紙**
A4 サイズの原稿を最大 45 枚 / 分で読み取ります。
* 読取条件：白黒 / 片面 / 200dpi
- **高画質**
光学解像度 600dpi センサーの採用により、原稿を高画質で読み取ることができます。
- **USB メモリーサポート**
USB メモリーへの画像ファイルの保存をサポートし、ネットワークに接続していない / ネットワークを使用していない場所への画像ファイルの移動が可能です。
- **タッチパネルオペレーション**
10.1 インチ TFT WSVGA (1024 x 600 ドット表示) タッチパネルの採用により、操作は全て画面に触れて行います。
- **マウス、キーボード対応**
タッチパネルによる操作に加え、マウス、キーボードによる操作が可能です。(→ P.38)
- **ScanFront Administration Tool for SF400**
同梱されている ScanFront Administration Tool for SF400 をインストールすることで、ネットワーク上の複数の ScanFront をまとめて管理できます。
* 「リモート操作を許可する。」を [ON] に設定してください。(→ P.146)
- **ジョブボタン**
送信先と読み取り条件をあらかじめジョブボタンに登録し、ジョブボタンを押してスキャンを行います。

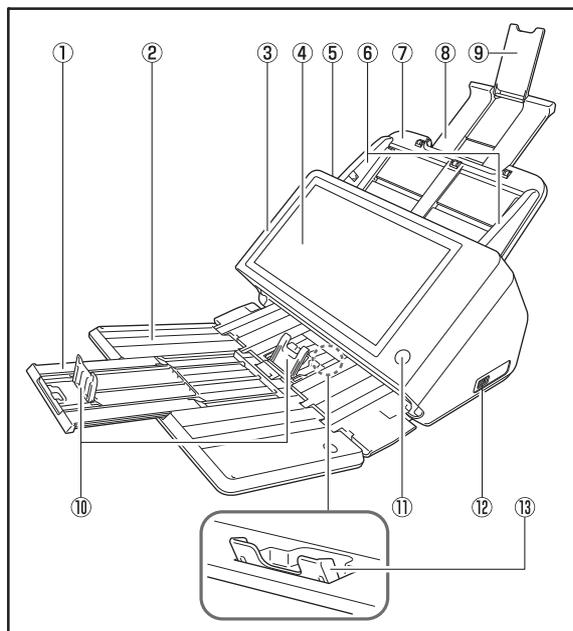
- **共有アドレス帳、共有ジョブボタン**
すべてのユーザーが使用することのできるアドレス帳（共有アドレス帳）と、ジョブボタン（共有ジョブボタン）です。
- **マイアドレス帳、マイジョブボタン**
すべてのユーザーが共有して使用するアドレス帳とジョブボタンの他に、ユーザーごとに使用する「マイアドレス帳」、「マイジョブボタン」が用意されています。
- **ディレクトリサービス対応**
ディレクトリサービス (Active Directory、OpenLDAP) に対応し、ドメインサーバーや LDAP サーバーに登録されているユーザーアカウントや電子メールアドレスを参照して利用することができます。
- **機能制限**
使用するユーザーに合わせて送信先やホーム画面の使用などを制限することができます。
- **自動サイズ検知**
スキャンした原稿のサイズを検知して、周りにできる白い部分を削除します。
- **カラー白黒検知**
原稿がカラーか白黒かを自動的に検知してスキャン画像を保存します。
- **半折りスキャン**
原稿を半折りにして両面スキャンし、1 つの画像に合成します。
- **長さによる重送検知機能**
原稿の長さの比較によって原稿の重なりを検知し、搬送を停止します。
* 1 枚目の原稿の長さを基準とし、長さの異なる原稿が搬送されたときに重送を検知します。
- **超音波重送検知機能**
原稿の長さによる重送検知機能の他に、超音波センサーによる重送検知機能を備えています。
- **分離リトライ**
重送した原稿を自動的に給紙口に戻して給紙し直します。
- **白紙スキップ機能**
原稿の両面をスキャンして、白紙として判断した面の画像の保存をスキップします。
- **斜行補正**
スキャンした画像から原稿が斜めに搬送されたことを検知したときに、画像をまっすぐに補正します。
- **画像回転**
スキャンした画像を 90 度単位で回転または、原稿内の文字の向きを検知して、文字の向きが正しくなるように画像を 90 度単位で回転します。
- **裏書き除去**
薄い原稿をスキャンしたときに起きる原稿の裏写りを除去します。
- **ドロップアウト / 色強調機能**
スキャン時に赤、青、緑色から 1 色を指定して読み取らないようにするドロップアウト機能または、指定した色を強調する機能を備えています。
- **文字強調モード**
原稿の下地や文字の背景色を処理し、文字の部分強調して読みやすくします。
* 原稿によっては有効に機能しない場合があります。

- **文字 / 線の太さ補正機能**
スキャンした画像の文字や線が判別しにくい場合に、文字や線の太さを補正してスキャンする機能を備えています。
- **カードスキャン**
ISO/JIS 規格に対応したクレジットカードや IC カードをスキャンすることができます。
- **パスポートスキャン**
オプションのキャリアシート (パスポート用) を使用して、パスポートをスキャンすることができます。
- **プレスキャン**
スキャンを開始したときに原稿を 1 枚スキャンして中断し、1 枚目の画像で明るさとコントラストを調整してからスキャンを行います。
- **自動スタート**
原稿を給紙口にセットすると、原稿を検知して自動的にスキャンを開始する自動スタート機能を備えています。

3. 各部の名称と機能

ScanFront の各部の名称と機能は以下のとおりです。

□ 前面、給排紙トレイ



- ① 補助トレイ
スキャンした原稿が飛散するようなときに開きます。
- ② 排紙トレイ
ScanFront を使用するときを開きます。
- ③ パネルユニット
紙詰まりやメンテナンスの際に開きます。(→ P.47)
- ④ タッチパネル
画面に触れて ScanFront を操作します。
- ⑤ ロックレバー
パネルユニットをロックし、レバーを手前に引くとパネルユニットのロックが解除されます。(→ P.47)
- ⑥ 原稿ガイド
原稿の幅に合わせて位置を調整します。(→ P.40)
- ⑦ 給紙トレイ
原稿をセットします。(→ P.37)
- ⑧ 給紙サポート
セットした原稿を支えるために、引き出して使用します。
- ⑨ 給紙補助サポート
長い紙をスキャナーにセットするときを開きます。
- ⑩ 排紙ストッパー
排紙トレイから原稿が飛び出すのを防ぎ、排紙された原稿の先端を揃えます。原稿の長さに合わせて、任意の位置に動かすことができます。排紙トレイ側の排紙ストッパーは、排紙された原稿の量によって傾きが変わります。

⑪ 電源ボタン

押すとスキャナーの電源が入ります。このとき、電源ボタンは点灯します。

電源をオフにするときはパネルに表示されている「電源オフ」ボタンで電源をオフにします。

電源ボタンは、スキャナーの状態に応じて次のように点灯または点滅します。

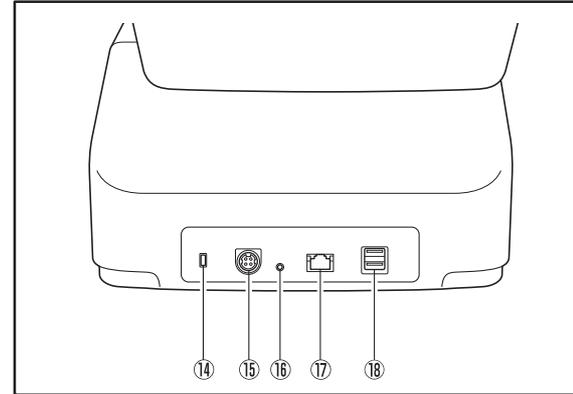
電源ボタンの表示	説明
点灯	電源オン
点滅	ローパワーモード

⑫ USB ポート (側面)

USB 1.1/Hi-Speed USB2.0 に対応した USB メモリーまたは USB キーボード、USB マウスを接続します。

⑬ 排紙トレイサポート

サイズが異なる原稿を一度にまとめてスキャンするときなどに開きます。排紙トレイを下から支えて持ち上げることで、排紙された原稿をトレイ上にそろえます。

□ 背面**⑭ ケンジントンスロット**

盗難防止用のスロットで、市販のキーチェーンなどを接続して盗難から防止します。

⑮ 電源コネクタ (DC24V)

付属の AC アダプターのプラグを接続します。(→ P.23)

⑯ サービス用スイッチ

サービス用のスイッチです。この穴には何も差し込まないでください。

⑰ LAN ポート (RJ-45)

RJ-45(10Base-T/100Base-TX/1000Base-T) に対応したネットワークケーブルを接続します。(→ P.24)

⑱ USB ポート (背面、右)

USB 1.1/Hi-Speed USB2.0 に対応した USB メモリーまたは USB キーボード、USB マウスを接続します。

4. ネットワーク環境について

ScanFront を使用するためには、以下のネットワーク環境が必要です。お使いのネットワーク環境についての詳細については、ネットワークシステムの管理部門にお問い合わせください。

□ ネットワーク環境

● ネットワークプロトコル

ScanFront をネットワークに接続するためのプロトコルには、TCP/IP プロトコルを使用します。

● IP アドレスの割り当て

TCP/IP プロトコルでは、ネットワークに接続する 1 台のデバイスに 1 つの IP アドレスを使用します。お使いのネットワークの管理部門に相談し、ScanFront に割り当てる IP アドレスを決定してください。

● DHCP 対応

ScanFront は、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) に対応しています。DHCP サーバーが用意されているネットワーク環境では、IP アドレスを DHCP サーバーから自動取得することができ、ScanFront 本体での IP アドレスの設定が不要になります。

* DHCP で取得できる IP アドレスの数は、管理部門で管理されています。詳細については、お使いのネットワークの管理部門にお問い合わせください。

● 1000Base-T 対応

ScanFront は 1000Base-T に対応しています。ただし、ネットワークに接続されている他のデバイスや、HUB の種類によっては、ネットワーク本来の通信速度を得られない場合があります。

● SMTP (電子メール) サーバー

SMTP サーバーに対応し、画像ファイルを ScanFront から直接電子メールで送信します。

● FTP サーバー

ファイアウォールの設定によっては、送信できない場合があります。

● FAX

スキャンした画像を添付ファイルとする電子メールをインターネット FAX サービスに送信することで、指定した宛先に FAX 文書としてスキャン画像を送信できます。このため、メッセージの書式や送信先の指定方法は、利用しているインターネット FAX サービスの規定に合わせる必要があります。

● プリンター

ScanFront と同じネットワークに接続されているプリンターの FTP 印刷機能を使い、スキャン画像を印刷できます。

□ その他

● Active Directory

Active Directory は Windows 2000 で採用されたディレクトリサービスで、Active Directory に登録されている情報を他のコンピューターが使用できます。

ScanFront では、認証サーバーとして登録したドメインサーバーに登録されているユーザー情報で認証を行い、ScanFront にログインすることができます。

* OSにWindows NT Serverを使用しているドメインサーバーは、認証サーバーとして登録できません。

● OpenLDAP サーバー

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) プロトコルで接続できるOpenLDAPサーバーに対応しています。OpenLDAP サーバーに登録されているユーザー情報を使用して、ScanFront のユーザー認証をしたり、メールアドレスを参照してアドレス帳に登録できます。

第2章 ScanFront のセットアップ

1. セットアップする前に.....	22
設置場所について.....	22
ACアダプターの接続.....	23
ネットワークケーブルの接続.....	24
2. 電源のオン/オフ.....	25
電源のオン.....	25
電源のオフ.....	26
3. ScanFront のセットアップ.....	27
管理者設定について.....	27
4. 管理者設定.....	29
管理者設定へのログイン.....	29
デバイスのネットワーク設定.....	30
管理者パスワード.....	31
設定情報のバックアップ/リストア.....	31
ログインタイプ選択.....	32
ローラーカウンターリセット.....	33
ScanFront の初期化.....	33
ネットワークテスト.....	34

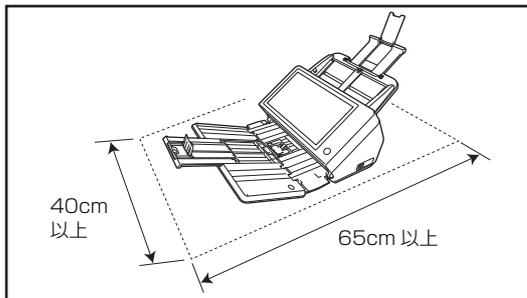
1. セットアップする前に

ScanFront をセットアップする前に ScanFront を設置場所に移動して、AC アダプターとネットワークケーブルを接続します。

□ 設置場所について

本機の性能は、設置されている環境によって影響を受けることがあります。設置する場所が次の環境条件に合っていることを確認してください。

- 本機の周りには操作、保守、換気のためのスペースを十分確保してください。



- 直射日光の当たる場所は避けてください。やむをえない場合は、厚いカーテンなどで日光をさえぎってください。
- ほこりの多い場所は避けてください。ほこりは本体内部に悪影響を及ぼすことがあります。
- 水道の蛇口、湯沸器、加湿器など高温、多湿になる場所の近くや、アンモニアガス、シンナーなどが発生する場所は避けてください。
- 不安定な場所や、振動しやすい場所は避けてください。

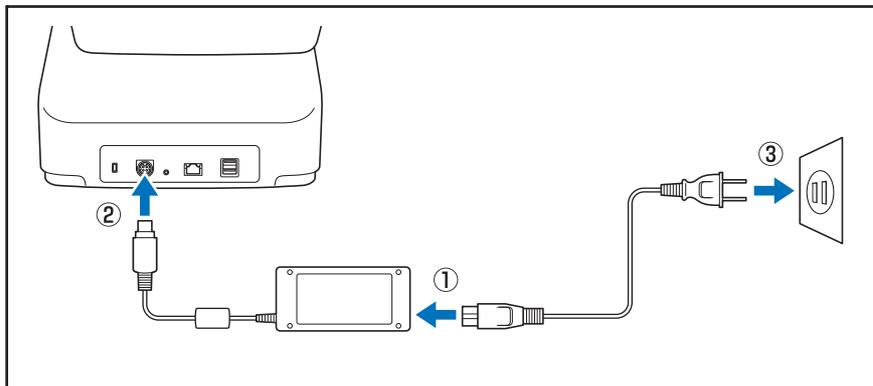
- 温度が急激に変化する場所は避けてください。本体内部で結露が発生すると品質低下の原因になります。以下の環境下でお使いください。
室温 10℃—32.5℃
湿度 20%—80%RH
- スピーカーやテレビ、ラジオなど磁気を発生する機器の近くは避けてください。

□ AC アダプターの接続

付属の AC アダプターを、下図の手順で接続します。



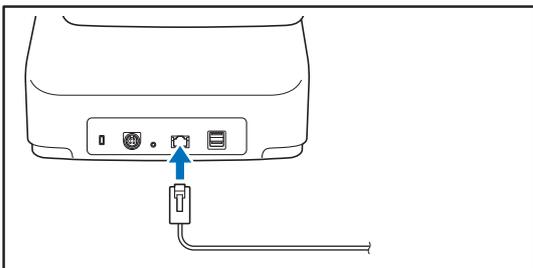
AC アダプタと電源コードは、必ず付属品を使用してください。



- ① 電源コードと AC アダプターを接続します。
- ② AC アダプターの電源プラグを電源コネクターに差し込みます。
- ③ 電源プラグをコンセントに接続します。

□ ネットワークケーブルの接続

ネットワークケーブルのコネクタ（RJ-45）を LAN ポートに差し込みます。

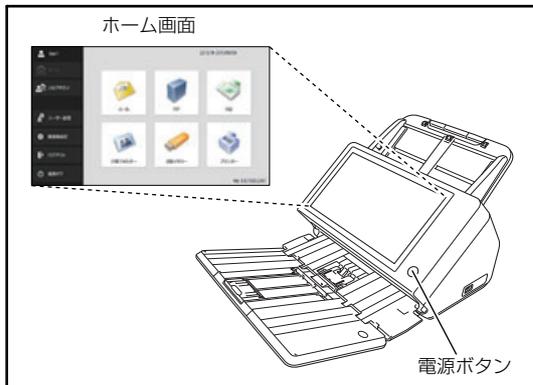


2. 電源のオン/オフ

ScanFrontの電源は、「電源ボタン」でオンにし、操作パネルに表示されている「電源オフ」ボタンで電源をオフにします。

□ 電源のオン

電源ボタンを押して、ScanFrontの電源をオンにします。電源ボタンが点灯し、ホーム画面が表示されます。



! 重要

- 電源ボタンが点滅した状態でパネルが表示されていないときは、ローパワーモードにより ScanFront の動作が停止しています。ローパワーモードから復帰するには、電源ボタンを押します。(→ P.146 「ローパワーモードまでの待ち時間を設定してください。」)
 - 画面が全体的に暗く表示される場合があります。タッチパネルにタッチすると解消され、通常の画面に戻ります。
- 電源ボタンをオンしてからホーム画面が表示されるまで時間がかかります。そのまましばらくお待ちください。
 - 電源ボタンが点灯した状態でパネルが表示されていないときは、ディスプレイオフモードによりパネルの表示がオフになっています。このようなときは、タッチパネルを押すことによりディスプレイオフモードから復帰します。(→ P.146 「ディスプレイオフまでの待ち時間を設定してください。」)

□ 電源のオフ

パネル左下にある「電源オフ」ボタンを押して電源をオフにします。



! 重要

- ScanFront の電源を入れ直すときは、電源をオフした後、約 5 秒間待ってから電源をオンにしてください。
- ScanFront が動作しなくなったときは、電源ボタンを長押しすることにより、強制終了することができます。この場合、設定していた内容や操作履歴、エラーログが破棄され、起動不能になる可能性があります。電源ボタンの長押しによる強制終了は、故障の原因になりますので、通常の操作では使用しないでください。
- ScanFront がネットワークに接続されていない状態でローパワーモードへ移行した後、操作が行われないまま約 8 分経過すると、自動的に電源がオフになります。

3. ScanFront のセットアップ

ScanFront のセットアップは、ホーム画面の「管理者設定」で行います。導入時のネットワーク設定や、ScanFront を使用するための設定を行います。

□ 管理者設定について

管理者設定には以下の設定項目があります。詳細については、「[管理者設定](#)」(→ P.29) を参照してください。



ヒント

ユーザーが設定する「ユーザー設定」では、設定できる機能が制限されます。

設定項目	設定内容	管理者設定	ユーザー設定
ユーザー管理	ユーザーの新規登録と編集を行います。ユーザー設定では設定の編集のみを行い、設定の一部の編集が制限されます。	○ (→ P.100)	△ (→ P.152)
アドレス帳設定	「共有アドレス帳」の登録と編集を行います。ユーザー設定では「共有アドレス帳」、「マイアドレス帳」の登録と編集を行います。管理者により機能制限されているユーザーは登録・編集することができません。	○ (→ P.112)	○ (→ P.154)
ジョブボタン設定	「共有ジョブボタン」の登録と編集を行います。ユーザー設定では「共有ジョブボタン」、「マイジョブボタン」の登録と編集を行います。管理者により機能制限されているユーザーは登録・編集することができません。	○ (→ P.116)	○ (→ P.156)
デバイス設定	ScanFront 本体の設定を行います。		
デバイスのネットワーク設定	ScanFront 本体に設定されている「デバイス名」と「IP アドレス」を確認します。	○ (→ P.123)	—
言語 / タイムゾーンの設定	ScanFront のパネルに表示させる言語と、使用する地域の設定を行います。	○ (→ P.123)	—
日付 / 時刻の設定	ScanFront 本体の日付 / 時刻を設定します。	○ (→ P.123)	—

設定項目	設定内容	管理者設定	ユーザー設定
ScanFront メンテナンス	ディスプレイオフの設定、ローラーカウンターのリセット、パスワードの設定を行います。	<input type="radio"/> (→ P.123)	—
ScanFront の初期化	ScanFront の使用環境を変更する時など、現在の設定をすべて消去するときに使用します。	<input type="radio"/> (→ P.192)	—
SNMP 設定	SNMPを使用してScanFrontを管理するための設定を行います。	<input type="radio"/> (→ P.125)	—
通信設定	メールサーバー、認証サーバーの登録を行います。		
メールサーバー、FAX	電子メールまたは FAX を送信するための SMTP サーバーを登録します。	<input type="radio"/> (→ P.133)	—
認証サーバー	Active Directory または OpenLDAP でユーザーを検索できるドメインサーバーを登録します。	<input type="radio"/> (→ P.135)	—
アドレス帳サーバー	電子メールのアドレス帳を検索できる LDAP サーバーを登録します。	<input type="radio"/> (→ P.136)	—
FTP サーバー	FTP サーバーへの画像ファイルの保存に関する設定を行います。	<input type="radio"/> (→ P.137)	—
HTTP プロキシサーバー	HTTP プロキシサーバー使用時のプロキシサーバーを設定します。	<input type="radio"/> (→ P.138)	—
FTP プロキシサーバー	FTP プロキシサーバーを経由して外部FTPサーバーに接続する場合に設定します。	<input type="radio"/> (→ P.138)	—
システム設定	ScanFront を管理するための設定を行います。		
全ての設定をバックアップする / 全ての設定のリストア	ScanFront の設定をバックアップおよび、リストアします。	<input type="radio"/> (→ P.139)	—
バージョン情報	ScanFront のモジュールのバージョン情報の表示および、バージョンアップを行います。	<input type="radio"/> (→ P.141)	—
システム管理	ScanFront のシステムの管理を行います。		
ログインタイプ選択	ユーザーのログイン画面を選択します。	<input type="radio"/> (→ P.53)	—
ネットワークテスト	ScanFront とネットワーク上の他のデバイスとの通信をテストします。	<input type="radio"/> (→ P.33)	—
管理者設定	管理者のパスワードとメールアドレスを登録します。	<input type="radio"/> (→ P.142)	—

4. 管理者設定

管理者設定は、管理者パスワードを入力してログインします。

□ 管理者設定へのログイン

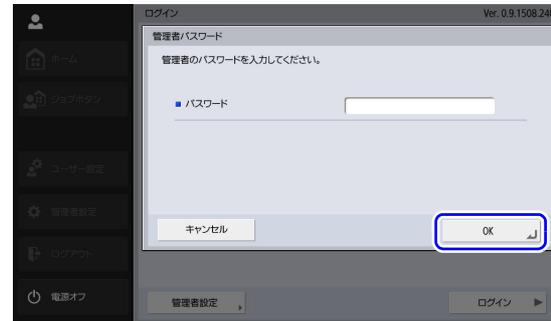
ScanFront をネットワークに接続するための「デバイス名」、「IP アドレス」の設定を以下の手順で行います。

1. 「管理者設定」を押します。



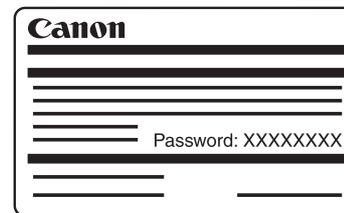
「管理者パスワード」の入力ボックスが表示されます。

2. 「OK」を押して「管理者設定」画面を表示します。

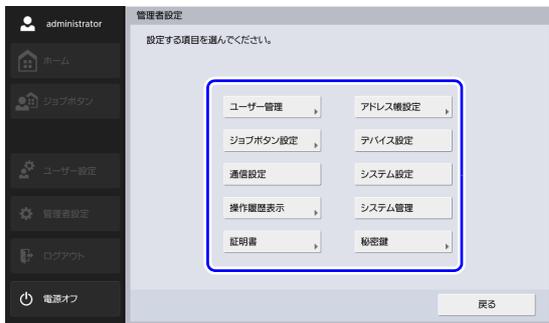


💡 ヒント

初期状態で、管理者パスワードは製品背面ラベルのパスワード欄に記載された文字列で設定されています。パスワード欄の記載がない場合、管理者パスワードは設定されていません。



3. 設定項目を選択して設定を行います。



□ デバイスのネットワーク設定

「デバイス設定」画面の「デバイスのネットワーク設定」では、ScanFront をネットワークに接続するためのデバイス名と IP アドレスの設定を行います。



! 重要

- ネットワーク設定は、ScanFrontにネットワークケーブルを接続した状態で行ってください。ScanFront にネットワークケーブルが接続されていないと、ネットワーク設定画面で設定を確認したり変更することができません。
- デバイス名は、ネットワーク上で使用される名称です。他のデバイスの名称と重複しないように設定を変更してください。
- デバイス名は、英字 (A-Z, a-z)、数字 (0-9) とハイフン (-) の組み合わせで 15 文字以内にしてください。
- デバイス名の先頭には英字 (A-Z, a-z) を使用し、末尾にハイフン (-) は使用できません。
- IP アドレスの割り当てに DHCP サーバーを使用しない場合は、[DHCP サーバー有効] のチェックをはずして固定アドレスを入力します。詳細についてはネットワークの管理部門にお問い合わせください。
- DHCP サーバーを有効にして DNS サーバーの情報が正常に取得できないときは、[自動取得] のチェックをはずしてそれぞれのサーバーのアドレスを入力します。



□ 管理者パスワード

「システム管理」画面の「管理者設定」では、「管理者設定」へのログインを制限するための管理者パスワードを設定します。



⚠ 注意

管理者パスワードを忘れた場合、ScanFront のフォーマットが必要になり、登録されている全てのデータが消去されます。管理者パスワードの管理には十分注意してください。

💡 ヒント

管理者パスワードで保護されるのは、アドレス帳、ジョブ情報、送信先のサーバー設定などの送信やユーザー管理などの管理に関するデータです。

□ 設定情報のバックアップ / リストア

設定情報のバックアップ / リストアは、ネットワーク上の共有フォルダーを使用して行い、以下のようなときに実行します。

ScanFront の増設時

ScanFront を増設したときなど、1 台目の ScanFront で設定した設定情報をバックアップして、残りの ScanFront に設定情報をリストアします。

ScanFront のバージョンアップ時

ScanFront をバージョンアップする前に設定情報をバックアップし、バージョンアップが終了したら設定情報をリストアします。

ScanFront の修理依頼時

ScanFront の修理を依頼するときには ScanFront の設定情報をバックアップします。

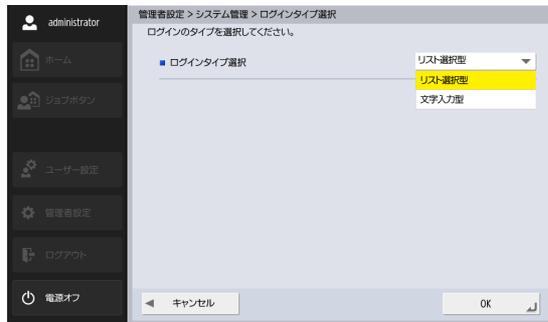
❗ 重要

- リストアを行う前に、「リモート操作を許可する。」(→ P.146) を [ON] に設定してください。[ON] にしないでリストアした場合、言語、タイムゾーン、SNMP 設定などの一部情報が反映されません。
- ScanFront を修理に出すときは、設定情報をバックアップし、ScanFront の初期化を実行してください。(→ P.192 「ScanFront の初期化」)



□ ログインタイプ選択

「システム管理」画面の[ログインタイプ選択]では、ユーザーがログインする際のログイン画面を設定します。詳細については、[第4章「ログイン画面について」](#)(→ P.53)を参照してください。



□ ローラーカウンターリセット

原稿の搬送性が低下してローラーを交換したときにカウンターをリセットします。詳細については、[第8章「搬送ローラーの交換」](#)(→ P.179)を参照してください。



□ ScanFront の初期化

ScanFront に登録されているユーザー情報をすべて消去します。



ScanFront の初期化は以下のように実行します。詳細については、[第 9 章「ScanFront の初期化」\(→ P.192\)](#) を参照してください。

ScanFront の修理依頼時

ScanFront の修理を依頼するときは、保存されているユーザー情報の保護のため ScanFront を初期化してから修理を依頼してください。

使用環境の変更

ScanFront の設置場所を変更して、使用者が変更になったときなど、ScanFront に登録されているユーザー情報をすべて消去します。

□ ネットワークテスト

ScanFront からネットワーク上の他のデバイスと通信できるかどうかを確認します。デバイスの IP アドレスを入力してから [接続テスト] ボタンを押すと、指定した IP アドレスへの ping が実行され、デバイスと通信できるかどうかを確認できます。



第3章 ScanFront の取り扱い

1. 原稿について	35
普通紙	35
名刺	36
カード (プラスチック製)	36
パスポート	36
2. スキャナーの準備	37
給紙トレイ、排紙トレイの準備	37
給紙方法の切り替え	38
USB ポートスロットについて	38
3. 原稿のセット	40
原稿のセット	40
半折り原稿のセット	41
長尺紙のセット	42
カードのセット	42
キャリアシートのセット	43
パスポート用キャリアシートのセット	44
4. 紙詰まりや重送を検知したときの処理	46

1. 原稿について

ScanFront は、名刺などの大きさのものから、A4/LTR サイズまでの原稿をスキャンすることができます。搬送できる原稿は、給紙方法によって以下のサイズ、紙厚の原稿が使用できます。

□ 普通紙

サイズ

幅 : 50 ~ 216mm

長さ : 54 ~ 356mm

(長尺紙のスキャン時は最大 3048mm)

紙厚 (分離 ON の場合)

27 ~ 209g/m² (0.04 ~ 0.25mm)

紙厚 (分離 OFF の場合)

27 ~ 255g/m² (0.04 ~ 0.30mm)

! 重要

読み取る原稿には一定の基準があります。次の項目をよくお読みください。

- 複数枚の原稿を一度に読み取るときは、原稿のサイズ、厚さ、紙質をそろえてください。異なる条件の原稿を給紙すると、紙詰まりの原因になります。
- インクが乾いていない原稿は、ローラーや読み取りガラスを汚し、画像にすじが入る原因になったり、他の原稿を汚す原因になります。必ず乾かしてから読み取りを行ってください。
- 鉛筆などで書かれた原稿は、ローラーや読み取りガラスを汚し、画像にすじが入る原因になったり、他の原稿を汚す原因になります。このような原稿を読み取ったあとは、スキャナーの内部を清掃してください。
- 薄い紙の両面原稿を読み取る場合、読み取ったときに裏写りすることがあります。あらかじめアプリケーションソフトウェアで読み取る明るさを調整してから実行してください。

- 薄い紙の原稿を読み取る場合、紙種によっては搬送エラーが起きたり、排紙の積載順が入れ替わることがあります。
- ラミネート加工された原稿は、原稿の状態によっては適切な画像が得られない場合があります。
- 次のような原稿を読み取ろうとすると、紙詰まりや故障の原因になりますのでご注意ください。このような原稿を読み込むときは、複写機でコピーしてから行るか、オプションのキャリアシートに入れて行ってください。



しわや折り目が入っている



カーボン紙



カール(巻き付け)がある



表面がコーティングされている



破れている



半透明の薄紙など極端に薄い



クリップやステープルの針が付いている



紙粉が出やすい

□ 名刺

サイズ

幅 50 mm× 長さ 85mm 以上

紙厚

380g/m² (0.35mm) 以下

! 重要

- 名刺は横向きにセットすることをお勧めします。縦向きにセットした場合、名刺の大きさによっては正常に給紙されないことがあります。
- 名刺の束をセットして正常に搬送できない場合は、セットする名刺の枚数を減らしてください。
- 名刺のサイズや厚さ、セットする方向によっては排紙時の積載順が狂うことがあります。

□ カード (プラスチック製)

サイズ

54×86mm (ISO/JIS 規格準拠)

カード厚

1.4mm 以下

挿入方向

横送りのみ

エンボス付き

可能

最大積載枚数

10 枚 (エンボスなし)、1 枚 (エンボス付き)

! 注意

- カードは横向きにセットしてスキャンしてください。縦向きにセットすると搬送時にカードに負荷がかかり、正常に排出されない場合があります。また、エラーになったカードを取り除くときに、カードが損傷することがあります。
- エンボス付きのカードは、エンボスの状態によっては適切な画像が得られない場合があります。
- カードをスキャンするときは、「詳細設定」画面の「超音波重送検知」を [OFF] にしてください。(→ P.82)

□ パスポート

サイズ

88mm×125mm (ISO 規格準拠)

スキャン時はパスポートを開き、オプションのキャリアシート (パスポート用) に入れて搬送のこと

紙厚

6mm 以下 (キャリアシート込み)

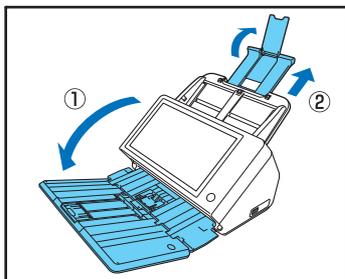
2. スキャナーの準備

原稿をセットするときは、スキャンする原稿のサイズに合わせて補助トレイを引き出し、必要に応じて排紙ストッパーを立ててください。セットした原稿に合わせて、ScanFrontの「詳細設定」画面で給紙方法（「非分離給紙」の[ON]、[OFF]）を切り替えます。

□ 給紙トレイ、排紙トレイの準備

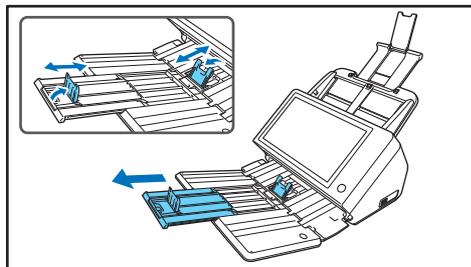
スキャンする原稿に合わせてトレイを準備します。

1. 排紙トレイを開きます ①。
2. 給紙サポートを引き出します ②。

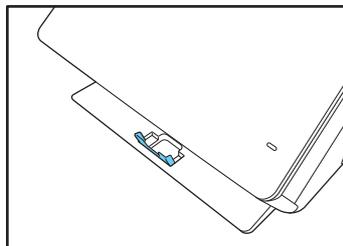


ヒント

- 排紙された原稿が飛散するようなときは中央の補助トレイを引き出します。



- サイズ異なる原稿を一度にまとめてスキャンしたときなど、スキャンが終わった原稿が排紙トレイ上にきれいに揃わないことがあります。この場合は排紙トレイサポートを開いてスキャンしてください。



□ 給紙方法の切り替え

原稿の給紙方法に合わせて、「詳細設定」画面の「非分離給紙」の [ON]、[OFF] を切り替えます。

非分離 OFF

複数枚の原稿を 1 枚ずつ分離しながら給紙するとき、「非分離給紙」を [OFF] にします。

非分離 ON

厚い原稿を 1 枚ずつ給紙するときや、複数枚綴りの伝票などを 1 枚ずつに分離しないで給紙するとき、「非分離給紙」を [ON] にします。

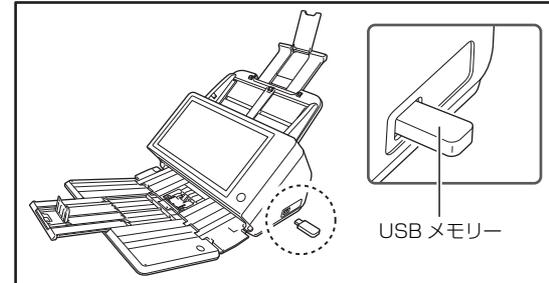


! 重要

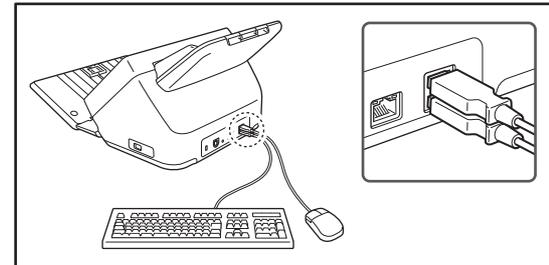
複数枚綴りの伝票などをセットするとき、綴じしろを下に向けて給紙口に挿入してください。

□ USB ポートスロットについて

画像ファイルを保存するために、USB ポートには USB メモリーを挿入できます。



また、USB ポートに USB キーボード、USB マウスを接続して ScanFront を操作することもできます。



! 重要

- USB メモリーを挿入したまま電源をオンにした場合、ScanFront を起動できません。USB メモリーの挿入は、ScanFront が起動し終わって、ホーム画面が表示されてから行ってください。
- USB メモリーは、書き込みが保護されていないUSBメモリーをお使いください。書き込みが保護されている場合、USB メモリーへの書き込みができません。
- パスワードによるセキュリティー機能やデータ暗号化機能など、データ記録以外の機能が搭載されたUSBメモリーには対応していません。
- FAT16、FAT32 または exFAT でフォーマットされた USB メモリーを使用してください。
- USB メモリーには、画像を保存するための空き容量を十分確保してください。

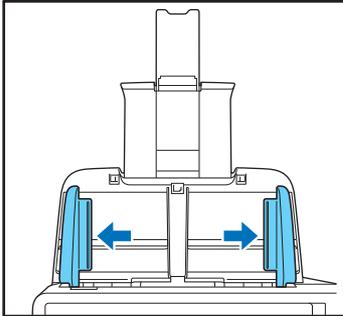
3. 原稿のセット

ScanFront に原稿をセットするときは原稿を裏返し、上端を下にしてセットします。

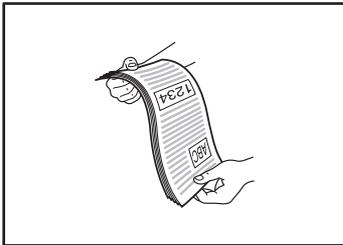
□ 原稿のセット

原稿を、以下の手順でセットします。

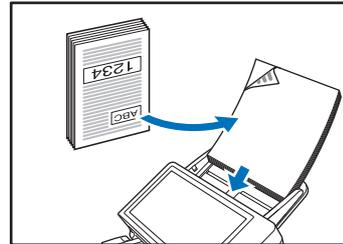
1. 原稿ガイドの位置を原稿の幅より広くします。



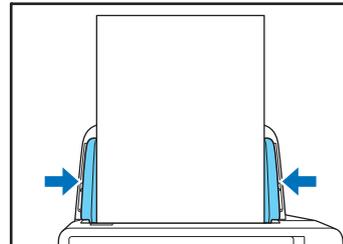
2. 原稿をよくさばきます。



3. 原稿を裏返し、上端を下にしてセットします。

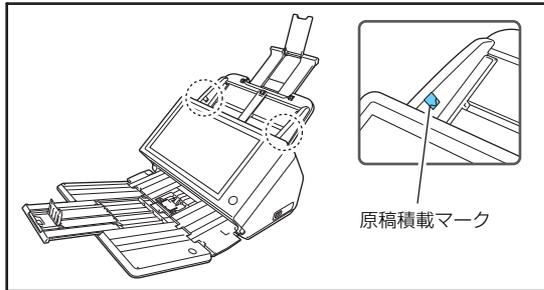


4. 原稿ガイドを原稿の幅に合わせて調整します。

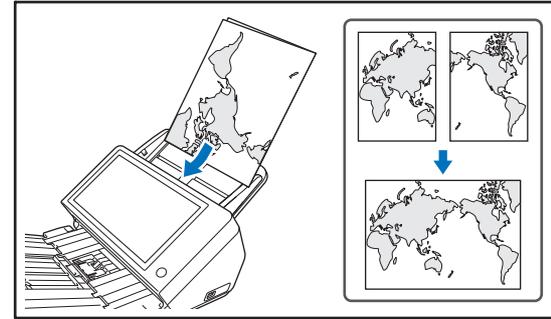


！ 重要

給紙トレイにセットする原稿の厚さが、原稿ガイドを超えないようにしてください。

**□ 半折り原稿のセット**

給紙口にセットすることができない A4 サイズより大きい原稿（最大 A3 サイズ）を読み取る方法として「半折りスキャン」があります。半折りスキャンでは、原稿を半折りにしてセットし、半折り原稿の両面を読み取ってできた表裏の画像を 1 つの画像に合成します。

**！ 重要**

- 原稿を折るときは、原稿の左右の端を揃えて、折り目をしっかり付けてください。原稿の折り方によっては、紙づまりや画像のズレの原因になります。
- 折り目の部分は、画像の一部が欠落します。折り目に文字や写真などがある原稿をスキャンするときは注意してください。
- 半折り原稿は「非分離給紙」を [ON] にしてスキャンします。原稿は 1 枚ずつセットしてください。
- 原稿ガイドは原稿の幅に合わせてください。原稿ガイドの位置が広がっていると斜行、画像のズレの原因になります。

💡 ヒント

- 半折り原稿をセットするときは、折り目を右側にして本機にセットします。半折り原稿の手前になる面の画像が、合成された画像の右半分になります。
- 半折り原稿をスキャンする場合は、スキャン時に [読み取り面] の設定を [半折り] にしてください。
- 合成される画像は最大 A3 サイズの画像です。非定形サイズ of 原稿を半折りスキャンする場合は、スキャン時に [用紙サイズ] の設定を [自動サイズ] にしてください。
- 半折り原稿をスキャンするときは、[解像度] の設定を [300dpi] 以下に設定してください。
- 半折り原稿をスキャンするときは、超音波重送検知は使用できません。

□ 長尺紙のセット

長さ 3048 mm までの長尺紙をセットしてスキャンできます。

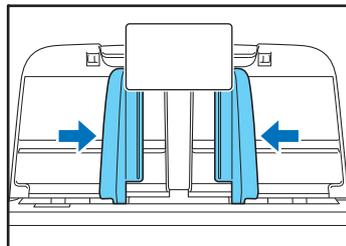
! 重要

- 長尺紙をスキャンするときは、スキャン時に [原稿サイズ] の設定を [自動 (長尺)] にしてください。
- 長尺紙をスキャンするときは、スキャン時に [解像度] の設定を [200dpi] 以下にしてください。
- 長尺紙をスキャンするときは、[読み取り面] を [半折り] に設定することはできません。

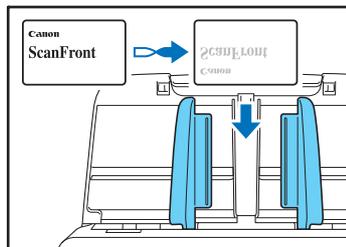
□ カードのセット

カードをスキャンするときは、以下の手順でセットします。

1. 「非分離給紙」を [ON] にします。
2. 原稿ガイドの位置をカードの横幅に合わせてます。

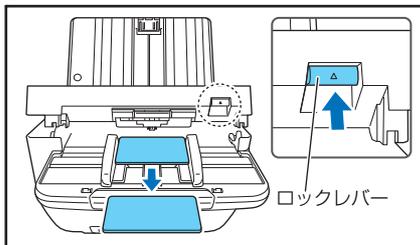


3. カードを裏返し、上端を下にしてセットします。



⚠ 注意

- カードは 1 枚ずつセットしてください。
- カードは横向きにセットしてスキャンしてください。縦方向にセットすると搬送時にカードに負荷がかかり、正常に排出されない場合があります。また、エラーになったカードを取り除くときに、カードが損傷することがあります。
- カードをスキャンするときは、「詳細設定」画面の【超音波重送検知】を【OFF】にしてください。(→P.83)
- セットしたカードを取り除くときはロックレバーを引き、パネルユニットを開いてから取り除いてください。パネルユニットを閉じた状態で指を差し込むとけがをする原因になります。



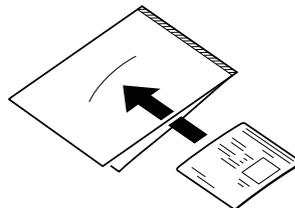
💡 ヒント

エンボスがないカードは、一度に 10 枚までスキャナーにセットできます。この場合は、「詳細設定」画面の「原稿の種類」で【非常に厚い紙/プラスチックカード】を選択してスキャンしてください。(→P.88)

□ キャリアシートのセット

原稿を傷付けずにスキャンしたいときは、オプションのキャリアシートに原稿を入れてから、スキャナーにセットします。

1. 「詳細設定」画面の「原稿の種類」で【キャリアシート】を選択します。(→P.88)
2. 原稿をキャリアシートに入れます。



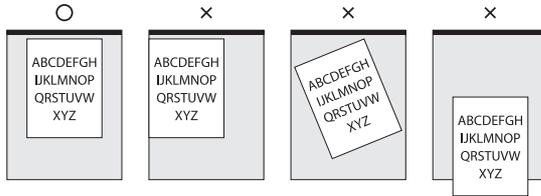
3. スキャンする面を下にして原稿をセットします。
原稿をセットしたら、原稿ガイドを原稿の両端に合わせてください。

⚠ 注意

- キャリアシートが正しくセットされていないと、原稿が詰まったり、きれいにスキャンされない場合があります。
- 【キャリアシート】を選択すると、「超音波重送検知」が自動的に【OFF】になります。

! 重要

- キャリアシートには、原稿をまっすぐ中央に入れてください。原稿が端に寄っていたり、傾いていたり、キャリアシートからはみ出していると、正常にスキャンできません。

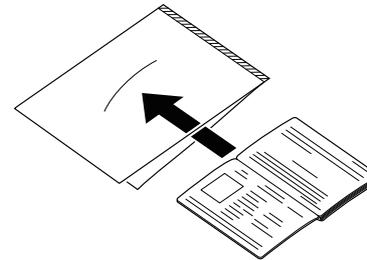


- スキャンが可能な紙厚は 127g/m^2 (0.15mm) 以下です。
 127g/m^2 (0.15mm) を超える原稿は、紙詰まりが発生するなど、本機の故障の原因になります。
- キャリアシートの状態によっては、画像が欠けたり、スキャナーの補正機能が正しく動作しない可能性があります。その場合は、[原稿サイズ] の設定を大きな用紙サイズ (A4 など) に指定してスキャンしてください。
- キャリアシートは消耗品です。傷や汚れが目立つ場合は、必要に応じて交換してください。キャリアシートの交換目安は、 80g/m^2 紙 1 枚を入れてスキャンした場合で 1,000 枚です。

□ パスポート用キャリアシートのセット

パスポートをスキャンするときは、オプションのパスポート用キャリアシートにパスポートを入れてから、スキャナーにセットします。

1. 「詳細設定」画面の「原稿の種類」で [キャリアシート (パスポート用)] を選択します。(→ P.88)
2. パスポートのスキャンする面を開きます。パスポートの厚い側をキャリアシートの綴じしろにできるだけ寄せて、キャリアシートにパスポートを入れます。



3. キャリアシートの綴じしろを先端に、スキャンする面を裏にして原稿をセットします。
原稿をセットしたら、原稿ガイドを原稿の両端に合わせてください。

! 注意

- キャリアシートやパスポートが正しくセットされていないと、原稿が詰まったり、きれいにスキャンされない場合があります。
- [キャリアシート (パスポート用)] を選択すると、「超音波重送検知」が自動的に [OFF] になります。

! 重要

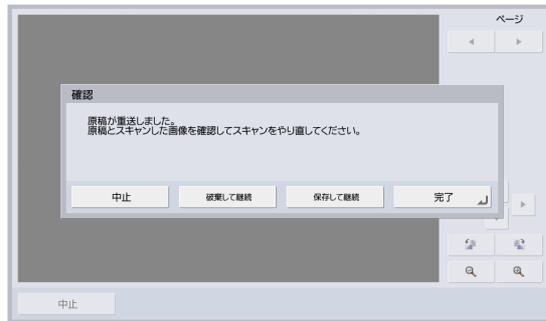
- キャリアシートやパスポートの状態によっては、画像が欠けたり、スキャナーの補正機能が正しく動作しない可能性があります。その場合は、[原稿サイズ] の設定を大きな用紙サイズ (A4 など) に指定してスキャンしてください。(→ P.81)
- パスポートのサイズがキャリアシートのサイズと大きく異なる場合は、原稿が詰まったり、スキャナーの補正機能が正しく動作しない可能性があります。
- スキャンが可能な紙厚は、パスポートをキャリアシートに入れた状態で 6mm 以下です。6mm を超える原稿は、紙詰まりが発生するなど、本機の故障の原因になります。
- パスポート以外の原稿はキャリアシートに入れてスキャンしないでください。本機の故障の原因になります。
- キャリアシートは消耗品です。傷や汚れが目立つ場合は、必要に応じて交換してください。

4. 紙詰まりや重送を検知したときの処理

紙詰まりや重送を検知したときは、搬送を停止し、スキャンを中断します。

1. 表示されたメッセージを確認します。

1枚目の原稿で紙詰まりや重送を検知したときは、以下のメッセージが表示されます。



ヒント

- スキャンを継続する場合は、画面を操作する前に原稿をセットし直してください。【継続】を押すとスキャンが再開されます。
- 【完了】を押すと、前画面に戻ります。

スキャンの途中で紙詰まりや重送を検知したときは、以下のメッセージが表示されます。





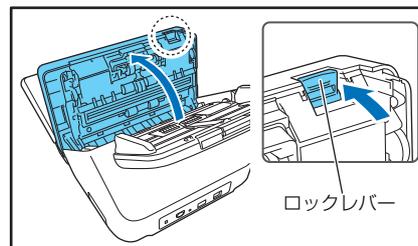
ヒント

- スキャンを継続するときは画面に触れずに原稿の処理を行います。原稿をセットし直してから【継続】を押すとスキャンを再開します。
- プレビュー表示されているページからスキャンをし直すときは、プレビュー画像のページからスキャナーにセットし、【破棄して継続】を押します。
- プレビュー表示されている画像をスキャン画像として保存し、残りの原稿をスキャンするには、続きの原稿をスキャナーにセットしてから【保存して継続】を押します。
- 【完了】を押すと、紙詰まりや重送を検知する前にスキャンした画像を保存して、送信画面になります。
- 【中止】を押すと、スキャンした画像を破棄して前画面に戻ります。

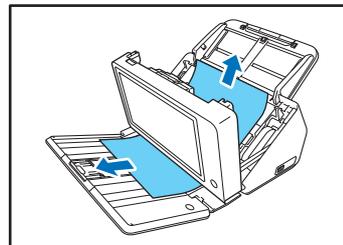
重要

上記のメッセージが表示されているとき ScanFront が「ローパワーモード」に移行すると、それまでにスキャンしたデータがすべて破棄されます。(→ P.146 「ローパワーモードまでの待ち時間を設定してください。」)

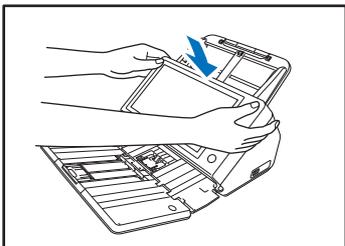
2. スキャンした原稿と、給紙トレイに残っている原稿を取り除きます。
3. ロックレバーを手前に引いて、パネルユニットを止まるところまで開きます。



4. 詰まっている原稿を取り出しやすい方向から引き出します。



5. パネルユニットを元に戻し、原稿をセットし直します。



6. [継続] ボタンを押して、スキャンを再開します。

! 重要

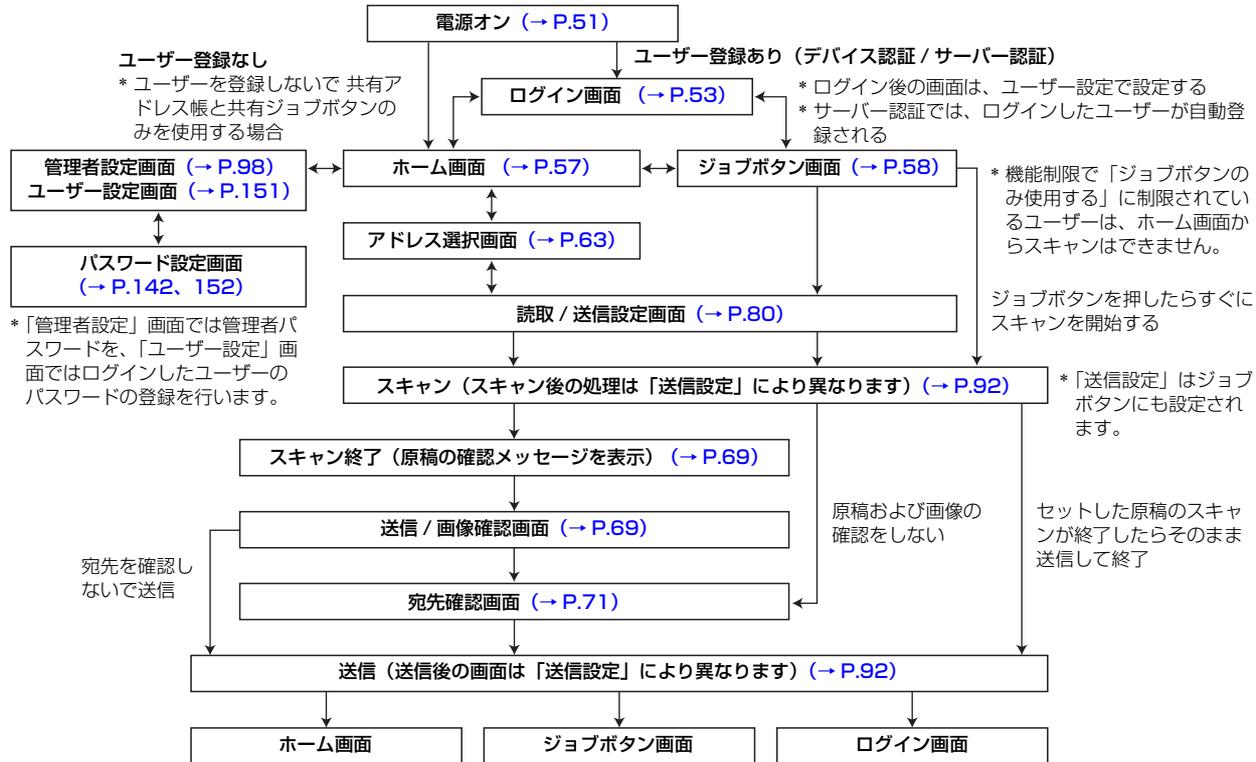
- 紙詰まりや重送が繰り返し起きるようなときは、「詳細設定」画面の「原稿の種類」で「非常に薄い紙」を選択してください。または、セットする原稿の枚数を 10 枚程度に減らしてください。
- 紙詰まりや重送が起きる原因として、静電気による原稿の密着、搬送ローラーの汚れや磨耗が原因になっている場合があります。搬送ローラーが汚れているときは、ローラーの清掃を行い、ローラーを清掃しても紙詰まりや重送が起きるようなときは、交換ローラーキットをお買い求めになり、搬送ローラー（給紙ローラー、分離ローラー）を交換してください。（→ P.179）

第4章 ScanFront の使用方法

1. 送信までの流れ	50	7. 宛先の登録と編集.....	72
2. 電源のオン / オフ	51	宛先の新規登録.....	72
電源のオン	51	宛先の変更.....	77
電源のオフ	52	宛先のコピー.....	78
3. ログイン画面について.....	53	8. 読取 / 送信設定	80
ログイン画面のタイプ.....	53	スキャン設定.....	81
サーバー認証を使用する場合	54	ファイル形式.....	89
「リスト選択型」ログイン画面.....	54	PDF ファイルのセキュリティ設定	91
「文字入力型」ログイン画面	55	送信設定	92
4. ログイン後の画面について.....	57	パッチコードシートを使用したパッチ区切り.....	95
ホーム画面	57	パッチコードシートの使い方.....	95
ジョブボタン画面.....	58		
5. ユーザー設定画面	59		
ユーザー管理.....	59		
アドレス帳設定.....	60		
ジョブボタン設定.....	60		
パスワード変更.....	60		
操作履歴表示.....	61		
6. スキャンの手順について.....	62		
ホーム画面からのスキャン	62		
ジョブボタン画面からのスキャン.....	63		
アドレス選択画面について	63		
USB メモリー画面について	65		
プリンター画面について	66		
スキャン	66		

1. 送信までの流れ

ScanFront の電源をオンにしてから画像ファイルを送信するまでの手順および画面の推移は、ユーザーやジョブボタンの設定によって以下ようになります。詳細についてはそれぞれの参照ページを参照してください。

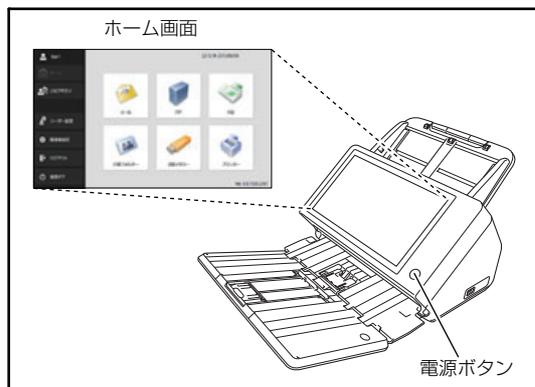


2. 電源のオン/オフ

ScanFront の電源は、ScanFront 本体の「電源ボタン」でオンにし、操作パネルに表示されている「電源オフ」ボタンで電源をオフにします。

□ 電源のオン

電源ボタンを押して、ScanFront の電源をオンにします。電源ボタンが点灯し、ホーム画面またはログイン画面が表示されます。



💡 ヒント

- 電源ボタンをオンにしてからホーム画面が表示されるまで時間がかかります。そのまましばらくお待ちください。
- ユーザーが登録されているときは、ログイン画面が表示されません。(→ P.53 「ログイン画面について」)

- 電源ボタンが点灯した状態でパネルが表示されていないときは、ディスプレイオフモードによりパネルの表示がオフになっています。このようなときは、タッチパネルを押すことによりディスプレイオフモードから復帰します。(→ P.146 「ディスプレイオフまでの待ち時間を設定してください」)
- 電源ボタンが点滅した状態でパネルが表示されていないときは、ローパワーモードにより ScanFront の動作が停止しています。ローパワーモードから復帰するには、電源ボタンを押します。(→ P.146 「ローパワーモードまでの待ち時間を設定してください」)
- 画面が全体的に暗く表示される場合があります。タッチパネルにタッチすると解消され、通常の画面に戻ります。

□ 電源のオフ

パネル左下にある [電源オフ] ボタンを押して電源をオフにします。



! 重要

- ScanFront の電源を入れ直すときは、電源をオフした後、約 5 秒間待ってから電源をオンにしてください。
- ScanFront が動作しなくなったときは、電源ボタンを長押しすることにより、強制終了することができます。この場合、設定していた内容や操作履歴、エラーログが破棄され、起動不能になる可能性があります。電源ボタンの長押しによる強制終了は、故障の原因になりますので、通常の操作では使用しないでください。
- ScanFront がネットワークに接続されていない状態でローパワーモードへ移行した後、操作が行われないまま約 8 分経過すると、自動的に電源がオフになります。

3. ログイン画面について

ScanFront の電源をオンにするとログイン画面で起動します。

□ ログイン画面のタイプ

ログイン画面には、登録されているユーザーを一覧から選択する「リスト選択型」と、ユーザー名とパスワードを入力する「文字入力型」の 2 種類のログイン画面があります。

「リスト選択型」ログイン画面



「文字入力型」ログイン画面

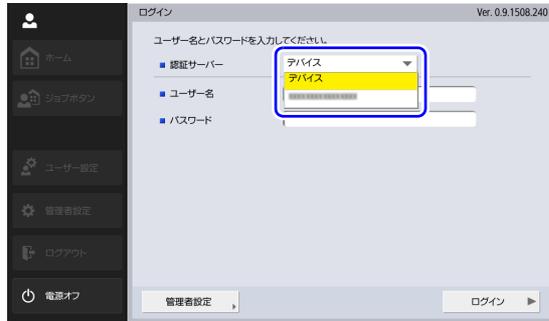


💡 ヒント

ログイン画面のタイプは、「管理者設定」画面の [システム管理] - [ログインタイプ選択] で設定します。

□ サーバー認証を使用する場合

サーバー認証を使用する場合のログイン画面は「文字入力型」で「デバイス認証」と「サーバー認証」を選択するためのリストボックスが有効になります。



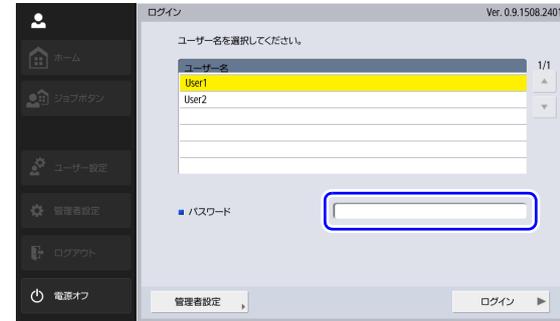
! 重要

サーバー認証でログインすると、サーバー認証のユーザーとして新規登録されます。

□ 「リスト選択型」ログイン画面

「リスト選択型」ログイン画面では以下の手順でログインします。

1. ログインするユーザーを選択して、「パスワード」入力ボックスを押します。



キーボード画面になります。

2. [パスワード] を入力して [OK] を押します。



! 重要

「パスワード」は登録されている大文字、小文字を正確に入力しないとログインできません。

3. [ログイン] を押しして ScanFront にログインします。



4. ホーム画面（またはジョブボタン画面）になります。

□ 「文字入力型」ログイン画面

「文字入力型」ログイン画面では「ユーザー名」と「パスワード」を入力してログインします。

1. 「ユーザー名」（「パスワード」）入力ボックスを押します。



キーボード画面になります。

2. 「ユーザー名」(「パスワード」)を入力して [OK] を押します。



! 重要

- デバイス認証で入力する「ユーザー名」と「パスワード」は登録されている大文字、小文字を正確に入力しないとログインできません。
- サーバー認証で入力する「ユーザー名」と「パスワード」についてはドメインサーバーの管理者にお問い合わせください。

3. [ログイン] を押して ScanFront にログインします。



4. ホーム画面 (またはジョブボタン画面) になります。

4. ログイン後の画面について

ユーザーがログインしたあとに表示される画面（「ホーム画面」または「ジョブボタン画面」）は、ユーザー設定の「デバイスのログイン後の画面」で設定した画面になります。（→ P.102、P.152）

□ ホーム画面



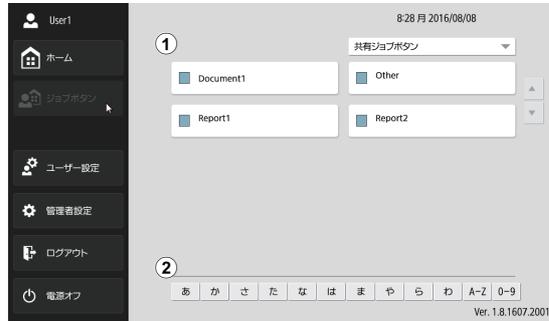
- ① 宛先選択ボタン（メール、FTP、FAX、共有フォルダー、USBメモリー、プリンター）
「アドレス選択」画面を開きます。（→ P.62 「スキャンの手順について」）
- ② 「ユーザー設定」ボタン
「ユーザー設定」画面を開きます。詳しくは「ユーザー設定画面」（→ P.59）を参照してください。
- ③ 「管理者設定」ボタン
「管理者設定」画面を開きます。詳しくについては「管理者設定」（→ P.29）を参照してください。

! 重要

ホーム画面の使用が制限されているユーザーがログインしたときは、ホーム画面が使用できません。詳細については管理者にお問い合わせください。

□ ジョブボタン画面

ジョブボタンを選択し、ジョブボタンに登録されている条件でスキャン、送信を実行します。(→ P.62 「スキャンの手順について」)



- ジョブボタンの編集ができないときは、管理者によりジョブボタンの編集が制限されています。詳細については管理者にお問い合わせください。

① ジョブボタン

「読取 / 送信設定」画面を開きます。(→ P.63 「ジョブボタン画面からのスキャン」)

② ジャンプキー

ジョブボタンの数が多く、ジョブボタン画面に表示されていないジョブボタンを表示させるときに使用し、指定したキーワードでジョブボタンを検索して表示します。

! 重要

- ジョブボタンでスキャンするときは、ジョブボタンを押す前に原稿をセットしてください。(→ P.40 「原稿のセット」)
- ジョブボタンの登録、編集は、「管理者設定」画面または「ユーザー設定」画面で行います。

5. ユーザー設定画面

ユーザー設定画面では、ログイン中のユーザー設定の変更、アドレス帳やジョブボタンの登録と管理、パスワードの変更を行います。詳細については、「[ユーザー設定について](#)」(→ P.151) を参照してください。



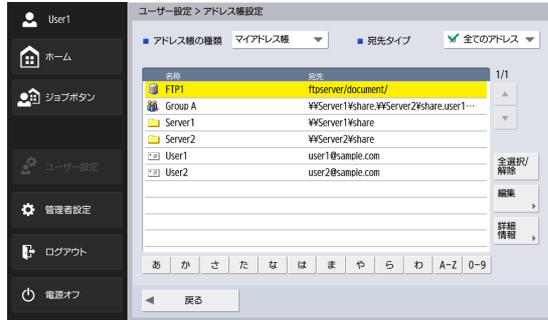
□ ユーザー管理

ユーザー名やメールアドレスの変更、デバイスログイン後の画面の選択などを行います。(→ P.152「ユーザー管理」)



□ アドレス帳設定

アドレス帳の登録・管理を行います。(→ P.154 「アドレス帳設定」)



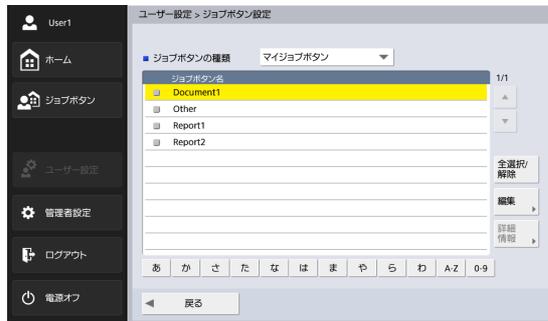
□ パスワード変更

ユーザーパスワードの新規登録または、登録したユーザーパスワードの変更を行います。



□ ジョブボタン設定

ジョブボタンの登録・管理を行います。(→ P.156 「ジョブボタン設定」)

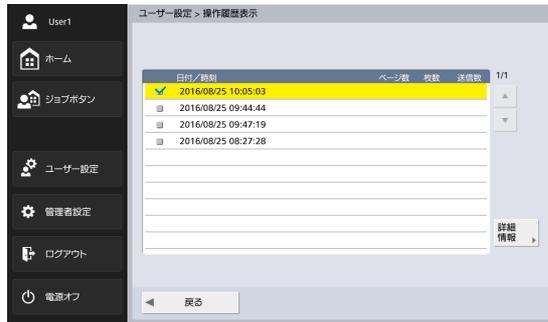


💡 ヒント

パスワードの変更に旧パスワードの入力は必要ありません。入力した新しいパスワードが登録されます。

□ 操作履歴表示

ログインしているユーザーの操作履歴を参照できます。

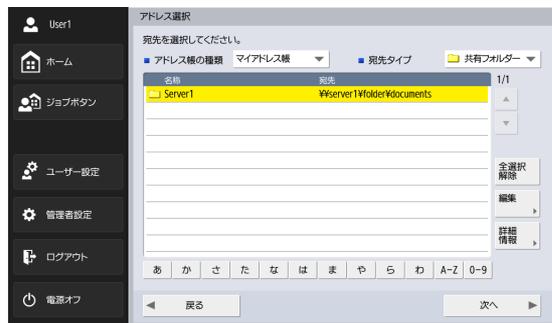


6. スキャンの手順について

ScanFront のスキャンは、「ホーム画面」または「ジョブボタン画面」から行います。(→ P.57 「ログイン後の画面について」)

□ ホーム画面からのスキャン

宛先選択ボタン（メール、FTP、FAX、共有フォルダー）を押すとアドレス選択画面が表示され、送信する宛先を選択します。



宛先選択ボタンで「USB メモリー」を押したときは、[下へ] を押して USB メモリーに保存するフォルダーを指定します。



宛先選択ボタンで「プリンター」を押したときは、プリンターの設定を行います。

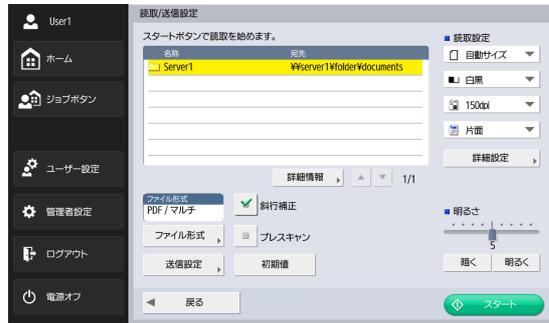


宛先を選択し、[次へ] を押すと「読取 / 送信設定」画面が表示され、読取条件を設定してからスキャンを行います。

□ ジョブボタン画面からのスキャン

ジョブボタンを押すと、「読取 / 送信設定」画面が表示され、ジョブボタンに登録されている宛先と読取設定を確認してからスキャンを行います。

スキャンの手順については手順5のスキャン条件の設定からお読みください。

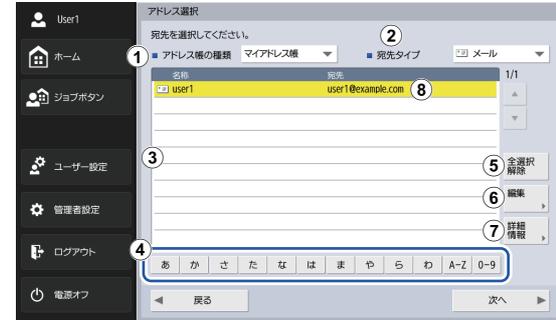


重要

- 設定画面の表示やスキャン後に表示される画面についてはジョブボタンの設定によって変わります。設定から送信までの全体の流れについては「送信までの流れ」(→ P.50) を参照してください。
- ジョブボタンから画像ファイルをUSBメモリーに保存したり、プリンターに送信して印刷することはできません。

□ アドレス選択画面について

アドレス選択画面では、送信する宛先の選択と、宛先の登録を行います。



① アドレス帳の種類

アドレス帳の種類（共有アドレス帳、マイアドレス帳）を選択します。アドレス帳サーバーの設定が有効になっているときは、[LDAP アドレス帳] が追加されます。

② 宛先タイプ

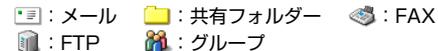
宛先一覧に表示させる宛先のタイプ（メール、共有フォルダー、FAX、FTP、グループ）の選択と、選択されている宛先の表示を行います。

③ 宛先一覧

登録されている宛先の表示と、送信する宛先の選択を行います。

ヒント

- 宛先は、宛先のタイプによって以下のアイコンで表示されます。



- 宛先を押すとアイコンにチェックマーク (☑) が付いて選択されます。選択されている宛先を再度押すと選択が解除されます。
- 宛先の背景に色が付いて選択されていても、アイコンにチェックマークがなければ宛先として選択されません。
- メールとグループのアイコンは、押すごとに送信条件 (To. CC. Bcc) が変わります。

☑ : To ☑ : CC. ☑ : Bcc. ☑ : 選択解除

④ ジャンプキー



宛先の件数が多く、宛先一覧に表示されていないアドレスを表示させるときに使用し、指定したキーワードで宛先を検索して表示します。

💡 ヒント

ジャンプキーによる検索は、宛先の「ふりがな」で検索されます。

⑤ 【全選択解除】ボタン

宛先をすべて選択解除します。

⑥ 【編集】ボタン

宛先の新規登録と編集を行います。

⑦ 【詳細情報】ボタン

宛先の詳細情報を表示します。

⑧ 自分の E-mail アドレス

ユーザーのメールアドレスが登録されており、かつ「ユーザー管理」で「ユーザー自身のメールアドレスに送信」(→ P.102) を有効にしている場合、ログインしているユーザーのメールアドレスが表示されます。

💡 ヒント

アドレス帳の種類が[LDPAD アドレス帳]の場合は表示されません。

FAX 直接送信機能が有効の場合

「管理者設定」の「ユーザー管理」-「機能制限」で、「FAX 直接送信機能を使用する」をチェックしているユーザーでログインした場合、アドレス選択画面で FAX 番号を直接入力することで、アドレス帳に登録されていない宛先にも送信できます。(→ P.108 「ユーザーの機能制限」)

🚨 重要

直接送信を行う場合は、FAX 番号を間違えないように注意してください。



「直接送信」を押すと、「FAX 番号」の入力ボックスが表示されます。

入力ボックスを押すと、テンキーキーボードが表示されます。



FAX 番号を入力し、[OK] を押すと、「読取 / 送信設定」画面に移行します。

□ USB メモリー画面について

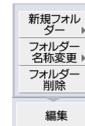
USB メモリー画面では、USB メモリーに保存するフォルダーを指定します。



- ① **パス**
USB メモリーのフォルダーのパスを入力します。または、[下へ] を押してフォルダーを選択します。
- ② **USB メモリー表示**
挿入されている USB メモリーを表示します。

ヒント

- USB メモリーを挿入したときは、任意の番号が割り振られます。
 - USB メモリー画面を開いているときに USB メモリーを挿入したり、USB メモリーを差し替えたときは、[戻る] を押してホーム画面に戻り、USB メモリーの情報を更新してから、USB メモリー画面を開き直してください。
- ③ **[上へ] ボタン**
USB メモリーの下位フォルダーが選択されているとき、上位フォルダーに移動します。
 - ④ **[下へ] ボタン**
USB メモリーの下位フォルダーに移動します。
 - ⑤ **[編集] ボタン**
フォルダーの新規登録、編集を行います。



- ⑥ **[フォーマット] ボタン**
USB メモリー内のファイルを全て削除します（ファイルシステムは変更されません）。

□ プリンター画面について

プリンター画面では、FTP 印刷を使用するプリンターを指定します。



- ① **プリンターの IP アドレス**
プリンターの IP アドレスを入力します。
- ② **ユーザー名**
プリンターの FTP 印刷で設定したユーザー名を入力します。
- ③ **パスワード**
プリンターの FTP 印刷で設定したパスワードを入力します。
- ④ **パスワードを保存**
入力したパスワードを保存します。
- ⑤ **パッシブモード**
FTP サーバーへの送信をパッシブモードで行います。

! 重要

印刷設定はプリンターによって異なります。ScanFront で印刷設定を変更することはできません。

□ スキャン

スキャンの手順について説明します。

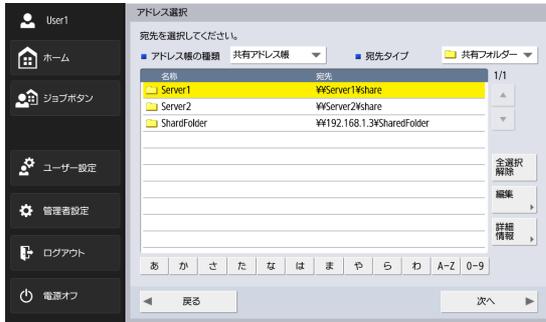
USB メモリーに保存する場合、手順 2 ～手順 4 では USB メモリーに保存するフォルダーの指定を行います。(→ P.65 「USB メモリー画面について」)

1. 宛先を選択します。

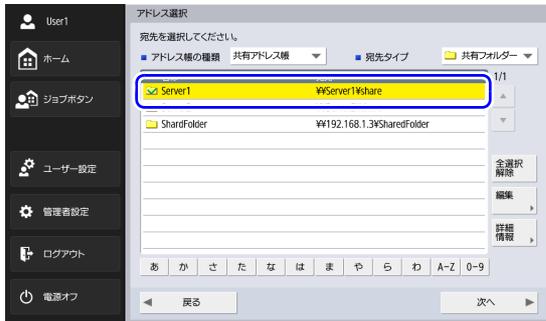
宛先ボタンを押して宛先を選択します。



「アドレス選択」画面が表示されます。



- 「アドレス帳の種類」と「宛先タイプ」で送信する宛先を表示します。
- 表示されている宛先を押して選択します。選択した宛先のアイコンにチェックマーク (☑) が付きます。選択されている宛先を押すと選択が解除されます。



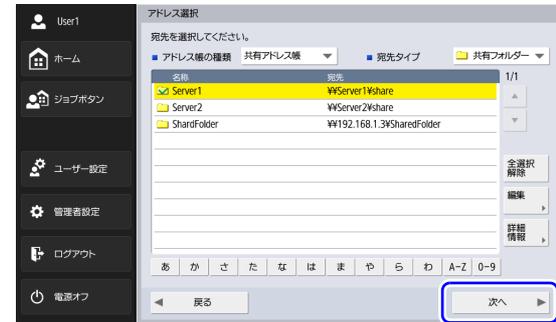
重要

宛先の背景に色が付いて選択されていても、チェックマークがなければ宛先として選択されていません。

- 選択したアドレスにチェックマークがついていることを確認し、[次へ] を押します。

ヒント

タイプの異なる宛先を選択しているときは、「宛先タイプ」の「選択中の宛先」で選択した宛先が確認できます。



「読取 / 送信設定」画面が表示されます。



5. スキャン条件を設定します。(→ P.80「読取 / 送信設定」)

! 重要

ジョブボタンでスキャンする場合、以降の手順は、ジョブボタンの設定によって以下ようになります。詳細については「[ジョブボタンの新規登録](#)」(→ P.116)を参照してください。

- 「ジョブボタンが選択された時の動作」が「読取設定画面をスキップする」に設定されている場合、ジョブボタンを押すと手順4の「読取 / 送信設定」画面を表示しないでスキャンが開始されます。
- 「スキャン後直ちに送信する」が [ON] に設定されている場合、手順7のスキャン継続の確認画面を表示しないでスキャンを終了し、手順10の宛先の確認画面になります。
- 「送信前に宛先を確認する」が [OFF] に設定されている場合、手順10の宛先の確認画面を表示しないで画像を送信、終了します。

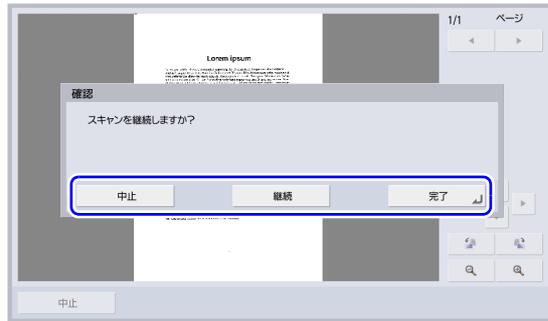
6. 「スタート」を押してスキャンを開始します。
原稿がなくなるとスキャンを終了します。



! 重要

- 読取 / 送信設定画面の「送信設定」の設定で、「スキャン後直ちに送信する」が [ON] に設定されている場合、スキャン継続の確認画面を表示しないでスキャンを終了し、手順10の宛先の確認画面に進みます。
- 確認画面を表示させたまま放置して ScanFront が「ローパワモード」に移行すると、それまでにスキャンしたデータがすべて破棄されます。(→ P.146)

7. 原稿を確認して次へ進みます。



- [完了] を押すと、送信画面に移ります。
- [継続] を押すと、スキャンを再開します。
- [中止] を押すと、スキャンした画像を破棄して「読取 / 送信設定」画面に戻ります。

8. スキャンした画像を確認します。

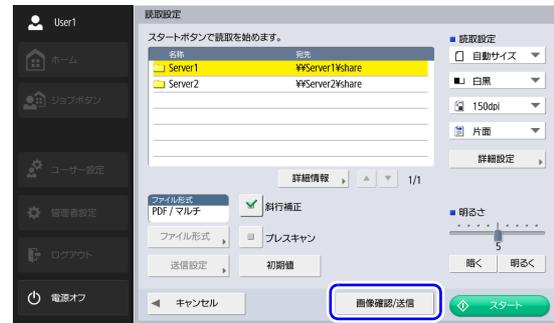


- ▶ : 次ページの画像を表示します。
- ◀ : 前ページの画像を表示します。
- ◀ ▶ : 拡大表示させた表示画像を移動します。
- 🔄 (逆時計方向) : 画像を反時計方向に 90 度回転します。
- 🔄 (時計方向) : 画像を時計方向に 90 度回転します。
- 🔍 (拡大) : 画像を拡大します。
- 🔍 (縮小) : 画像を縮小します。

! 重要

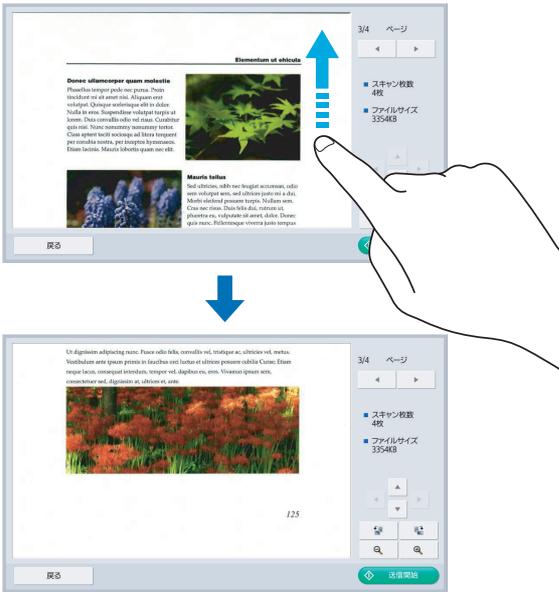
画像の回転、拡大は、送信画面に表示できるスキャンされた画像すべてに適用され、維持されます。

- [追加スキャン] を押すと、「読取設定」画面が表示され、スキャン条件の設定を変更できます。設定変更後、[画像確認 / 送信] を押すと、送信画面に戻ります。

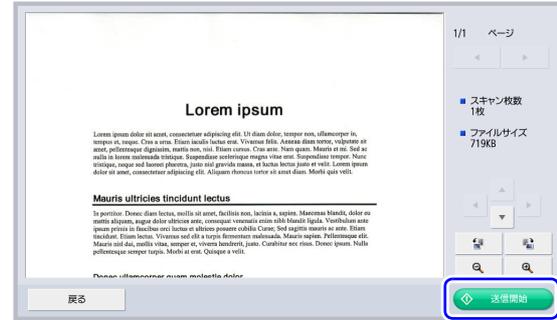


ヒント

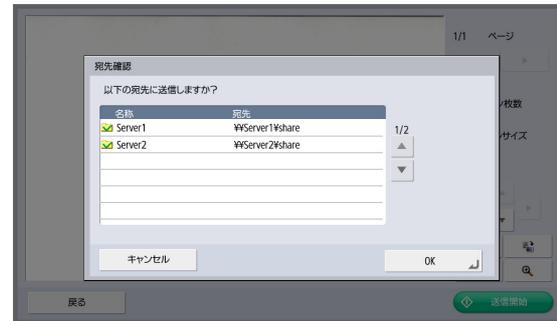
プレビュー画像を拡大表示しているときは、画像を指でドラッグしてスクロールできます。



9. [送信開始] を押します。



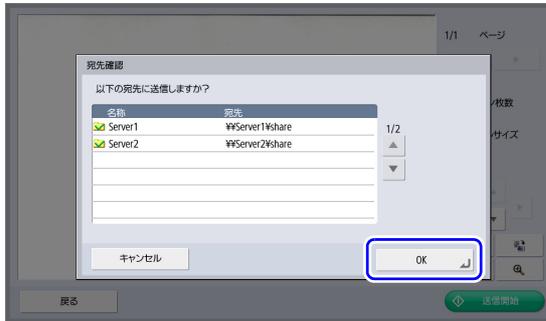
アドレスの確認メッセージが表示されます。



重要

読取 / 送信設定画面の「送信設定」の設定で、「送信前に宛先を確認する」が【オフ】に設定されている場合、宛先の確認画面を表示しないで画像を送信し、終了します。

10. [OK] を押してスキャンした画像を送信します。



! 重要

送信エラーが表示されたときは、宛先の設定および送信先を確認してからやり直してください。

11. 読取 / 送信設定画面の「送信設定」の設定で、「送信後の画面」で設定された画面に戻ります。

7. 宛先の登録と編集

送信する宛先がアドレス帳に登録されていないときや、登録されている宛先の情報が更新されていないときは、下の手順でアドレス帳の宛先の新規登録、変更を行います。

□ 宛先の新規登録

1. 「アドレス帳の種類」と「宛先タイプ」を選択し、[編集] - [新規登録] を押します。



2. 宛先タイプの設定条件に合わせて登録を行います。
「メール」登録画面



- 名称
アドレス帳に表示する名称を入力します。
- ふりがな
アドレス帳の表示をソートおよびジャンプキーで検索するためのふりがなを入力します。
- 電子メールアドレス
電子メールで送信するときの送信元のアドレスを入力します。

「共有フォルダー」登録画面

管理画面設定 > アドレス帳設定 > 共有アドレス帳 > 共有フォルダー > 新規登録

- プロトコル: SMB
- プロキシを使用する:
- 名称:
- ふりがな:
- ホスト名: 接続テスト
- フォルダへのパス: 参照
- ポート番号:

1/2

キャンセル OK

管理画面設定 > アドレス帳設定 > 共有アドレス帳 > 共有フォルダー > 新規登録

- ユーザー名:
- パスワード: パスワードを保存
- ドメイン/ワークグループ:

2/2

キャンセル OK

● プロトコル

共有フォルダーへのファイル送信に使用するプロトコルを選択します。「SMB」、「WebDAV」、「WebDAV over SSL」から選択できます。

● プロキシを使用する

HTTP プロキシサーバーを経由して外部ネットワークに接続します。

「プロトコル」が「SMB」以外に設定されている場合に有効になります。

● 名称

アドレス帳に表示する名称を入力します。

● ふりがな

アドレス帳の表示をソートおよびジャンプキーで検索するためのふりがなを入力します。

● ホスト名

共有フォルダーを公開しているコンピューター名を入力します。

● フォルダへのパス

共有フォルダーの名称と登録するサブフォルダーのパスを入力します。

ヒント

サブフォルダーのパスが不明なときは以下の手順でサブフォルダーを指定します。

1. 「ホスト名」と「ユーザー名」、「パスワード」、「ドメイン」を入力してから【参照】ボタンをクリックし、共有フォルダーを公開しているコンピューターにアクセスします。
2. 表示されたフォルダーから任意のサブフォルダーを指定します。
3. 選択したフォルダーの直下の階層に移動するときは【下へ】を押してフォルダーを移動します。新しいフォルダーを作成するときは、【編集】 - 【新規フォルダー】で新しいフォルダーを作成します。

● ポート番号

「プロトコル」で「WebDAV」または「WebDAV over SSL」を選択した場合、ポート番号を入力します。

- **ユーザー名、パスワード**
共有フォルダーに書き込み権限のあるアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
- **ドメイン/ワークグループ**
共有フォルダーを公開しているコンピューターがドメインに参加している場合、NetBIOSドメイン名を入力します。
- **パスワードを保存**
入力したパスワードを保存します。

「FTP」登録画面

- **プロトコル**
FTP 送信に使用するプロトコルを選択します。暗号化通信を行う場合、「FTP」、「FTPS(Explicit モード)」、「FTPS(Implicit モード)」、「SFTP」を選択できます。「SFTP」を選択した場合、「認証方法」を選択できます。
- **名称**
アドレス帳に表示する名称を入力します。
- **ふりがな**
アドレス帳の表示をソートおよびジャンプキーで検索するためのふりがなを入力します。
- **FTP サーバー**
FTP サーバーのアドレスを入力します。
- **フォルダーへのパス**
FTP サーバーのサブフォルダーを指定するときにサブフォルダーのパスを入力します。

 ヒント

サブフォルダーのパスが不明なときは以下の手順でサブフォルダーを指定します。

1. 「FTP サーバー」と「ユーザー名」、「パスワード」を入力してから [参照] ボタンをクリックして FTP サーバーにログインします。
2. 表示されたフォルダーの階層から任意のサブフォルダーを指定して [OK] をクリックします。

• 認証方法

「プロトコル」で「SFTP」を選択した場合、認証方法を「パスワード認証」、「秘密鍵認証」から選択します。

• ポート番号

ポート番号を入力します。標準のポート番号は 21 です。

• ユーザー名 / パスワード

FTP サーバーにログインするためのユーザー名とパスワードを入力します。

 重要

ユーザー名とパスワードは、FTP サーバーに書き込み権限のあるアカウントのユーザー名とパスワードを入力してください。

• パスワードを保存

入力したパスワードを保存します。

• パスフレーズを使用する

「認証方法」で「秘密鍵認証」を選択した場合、パスフレーズを使用します。

• パスフレーズ

パスフレーズを入力します。

• パスフレーズを保存

入力したパスフレーズを保存します。

• Fingerprint

秘密鍵のフィンガープリントを入力します。

 重要

「プロトコル」で「SFTP」を選択した場合は、必ず Fingerprint を入力してください。

• 確認

フィンガープリントを確認します。

• FTP プロキシを使用する

FTP プロキシサーバーを経由することで、ファイアウォールを越えて外部 FTP サーバーに接続します。経由するプロキシサーバーは、「FTP プロキシサーバー」画面 (→ P.138) で設定します。

• パッシブモード

FTP サーバーへの送信をパッシブモードで行います。FTP サーバーへのファイルが送信できない場合に使用します。

 重要

パッシブモードは FTP サーバーとの通信が正常でないときに使用します。ただし、ネットワークの状態によっては通信できない場合もあります。

「FAX」登録画面

- **名称**
アドレス帳に表示する名称を入力します。
- **ふりがな**
アドレス帳の表示をソートおよびジャンプキーで検索するためのふりがなを入力します。
- **FAX 番号**
送信先の FAX 番号を入力します。

「グループ」登録画面

- **名称**
アドレス帳に表示する名称を入力します。
- **ふりがな**
アドレス帳の表示をソートおよびジャンプキーで検索するためのふりがなを入力します。
- **[追加] ボタン**
「アドレス帳の種類」と「宛先タイプ」からグループに登録する宛先を選択します。選択した宛先がリストに表示されます。



重要

- 共有フォルダーをグループに追加する際、アクセス権の異なる共有フォルダーを1つのグループに複数追加しないでください。
- 共有サーバーなど、アクセス権の異なる複数の共有フォルダーにグループで同時に送信した場合、送信エラーになることがあります。

❑ 宛先の変更

宛先に登録されている送信先の情報が間違っている / 変更されていることによって送信エラーになるときは、宛先の変更を行います。

1. 変更する宛先を選択して【詳細情報】を押します。



宛先の詳細情報が表示されます。

2. 選択した宛先の【詳細情報】を確認します。

3. [編集] - [変更] を押します。



宛先の編集画面が表示されます。

4. 宛先を編集します。



編集項目については「[宛先の新規登録](#)」(→ P.72) を参照してください。

□ 宛先のコピー

登録されている宛先を、コピーして使用します。
宛先のコピーは、「マイアドレス帳」と「共有アドレス帳」で交互にコピーすることができます。

1. コピーする宛先を選択します。
2. 宛先を選択し、[編集] - [コピー] を押します。



「コピー先の指定と確認」画面が表示されます。

3. コピー先のアドレス帳の種類を選択し、[OK] を押します。



宛先がコピーされ、コピー先のアドレス帳が表示されます。



8. 読取 / 送信設定

ScanFront のスキャン設定および送信設定について説明します。



- ① 宛先表示
アドレス選択画面で選択または、ジョブボタンに登録されている宛先を表示します。
- ② ファイル形式
表示されているファイル形式を確認し、[ファイル形式] ボタンを押して設定を行います。(→P.89「ファイル形式」)
- ③ 送信設定
送信条件を設定します。(→P.92「送信設定」)
- ④ [戻る] ボタン
前画面に戻ります。
- ⑤ 詳細情報
背景に色の付いている宛先の詳細情報を表示します。
- ⑥ [斜行補正] ボタン
傾いた原稿の搬送をスキャンした画像で検知して、画像がまっすぐになるように補正します。

- ⑦ [プレスキャン] ボタン
スキャンを開始したとき、原稿を 1 枚スキャンして中断します。表示された 1 ページの画像で明るさとコントラストを確認 / 調整してからスキャンを続行します。

💡 ヒント

- スキャンを開始すると原稿を 1 枚スキャンしてスキャンを中断し、1 枚目の画像を表示します。
- 表示されている画像で明るさとコントラストを確認・調整します。「スキャン継続」を押すと調整した明るさとコントラストで 1 枚目の画像が確定してスキャンを続行します。

- ⑧ [初期値] ボタン
変更した内容を ScanFront の初期値に戻します。

⚠️ 重要

ジョブボタンから開いた「読取 / 送信設定」画面で [初期値] ボタンを押した場合、設定値は ScanFront の初期値になりジョブボタンに登録されている設定値には戻りません。

- ⑨ スキャン設定
スキャン条件を設定します。(→P.81「スキャン設定」)
- ⑩ 詳細設定
スキャン条件の詳細設定を行います。(→P.82「詳細設定」)
- ⑪ [スタート] ボタン
スキャンを開始します。

□ スキャン設定

スキャン設定にはスキャンの基本条件（用紙サイズ、モード、解像度、読み取り面、明るさ）の設定と、詳細設定があります。

基本条件設定



用紙サイズ

スキャンする原稿のサイズを選択します。

表示される用紙サイズは、「詳細設定」画面の「フィーダー・フラットベッド」の設定によって以下のように変わります。

- 「自動」および「フィーダー」の場合、ScanFront とフラットベッドスキャナーの両方が対応している用紙サイズが表示されます。
- 「フラットベッド」の場合、フラットベッドスキャナーが対応している用紙サイズが表示されます。



ヒント

- [自動サイズ] は、スキャンした原稿のサイズを自動検知してスキャンします。
- 長尺紙をスキャンするときは [自動 (長尺)] を選択します。

重要

- [自動 (長尺)] を選択した場合、[解像度] を [240dpi] 以上に設定することはできません。
- A3 フラットベッドスキャナー接続時の [自動サイズ]、[B4]、[A3]、[ダブルレター] を選択した場合、[解像度] は [300dpi] までに制限されます。

モード

スキャンするモードを選択します。

重要

- モードは、ファイル形式の設定 (→ P.89) の設定によって選択できるモードが限定されます。

TIFF/PDF/PNG 形式



JPEG 形式



- [文字強調] を選択した場合、詳細設定画面の [裏写り除去] はグレー表示され、設定することはできません。
- カラー白黒検知機能は、カラードロップアウトおよびプレスキャンと同時に使用することはできません。
- カラー白黒検知機能を使用すると、処理速度が低下することがあります。

解像度

スキャンする解像度を選択します。

重要

- [用紙サイズ] を [自動 (長尺)] に設定しているときは、[解像度] を [240dpi] 以上に設定することはできません。
- [読み取り面] を [半折り] に設定しているときは、[解像度] を [400dpi] 以上に設定することはできません。

読み取り面

原稿をスキャンする面を選択します。

ヒント

- [白紙スキップ] は、原稿の両面をスキャンして白紙と判断した画像の保存をスキップします。
- [白紙スキップ] を選択すると詳細設定の「白紙スキップ設定」が有効になります。(→ P.84 「白紙スキップの感度」)
- [半折り] を選択すると、半折りにして両面スキャンした原稿を1つの画像に合成できます。

重要

- [白紙スキップ] を選択した場合、処理速度が低下することがあります。
- [半折り] を選択したときは、[解像度] を [400dpi] 以上に設定することはできません。

明るさ

原稿の濃度に合わせて明るさを調整します。

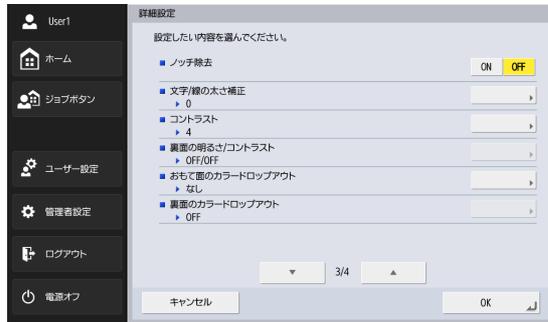
ヒント

原稿の表裏の濃淡に差がある原稿を両面スキャンする場合、詳細設定により、表面と裏面の明るさの設定を変えてスキャンすることができます。

詳細設定

[詳細設定] ボタンを押すと詳細設定画面が開きます。





超音波重送検知

重なって搬送された原稿の間隔を超音波によって検出し、重送と判断したときに搬送を停止します。

！重要

- 原稿の重なりが50mm以上の重送に対して有効です。重なり量の短い重送に対しては、重送検知は機能しません。
- [読み取り面] を [半折り] に設定しているときは、超音波重送検知はグレー表示され、設定はできません。

長さによる重送検知

原稿の長さによって重送を判断し、重送と判断したときに搬送を停止します。

！重要

- 1枚目の原稿の長さを基準とし、35mm以上長い/短い原稿を検知したときに重送として判断します。
- 用紙の長さの異なる原稿が混在しているときは、[長さによる重送検知] をオフにしてください。

非分離給紙

原稿の給紙方法に合わせて、「非分離給紙」の [ON]、[OFF] を切り替えます。(→ P.38)

白紙スキップの感度



読み取り面の設定で「白紙スキップ」を選択すると有効になり白紙をスキップする感度を調節します。

ヒント

- 白紙スキップの初期値は [90] に設定されています。
- [スキップしやすい] を押して設定値を低くすると、文字のある原稿でもスキップされやすくなる設定となります。
- [スキップしにくい] を押して設定値を高くすると、白紙原稿でもスキップされにくくなる設定となります。

自動給紙

[ON] に設定すると、スキャナーにセットされた原稿を自動的に検知し、給紙を開始します。
スキャンを終了するには、[中止] を押します。

ヒント

[ON] に設定中にフラットベッドスキャナーからスキャンを行う場合は、フラットベッドスキャナーのスキャンボタンを押します。

画像回転



スキャンした画像を指定した角度に回転させます。

ヒント

[自動] を選択したときは、原稿内の文字の向きを検知して、文字の向きが正しくなるように画像を回転させます。

重要

[自動] を選択した場合、処理速度が低下することがあります。

裏面を +180 度回転する

両面スキャン時に、裏面の画像を 180 度回転させます。

ヒント

「裏面を +180 度回転する」は、以下の 2 点が同時に設定されている場合に有効になります。

- 「読取 / 送信設定」画面の「読み取り設定」で、読み取り面の「両面」または「白紙スキップ」を選択する (→ P.82)
- 「詳細設定」の「画像回転」で「自動」以外を選択する (→ P.84)

斜行補正



傾いた原稿の搬送をスキャンした画像で検知して、画像がまっすぐになるように補正します。

- **搬送時の原稿の傾きを補正する**
搬送時の原稿の傾きを検知して傾き補正を行います。
- **画像の傾きを補正する**
搬送時の原稿の傾きとスキャンした画像の傾きを検知して、傾き補正を行います。

ヒント

次の場合、斜行補正は正常に機能しないことがあります。この場合は、斜行補正を無効にしてください。(下記以外の場合でも、原稿によっては正しく画像の傾きが補正されなかったり、画像の一部が欠落する場合がありますので、注意してください。)

- 周辺部に暗い部分がある原稿をスキャンする場合
- 光沢のある、光を反射するような原稿をスキャンする場合

背景スムージング

スキャン画像の背景の部分が滑らかに処理されます。

裏書き除去



裏面に文字などがある薄い原稿をスキャンするときなど、裏面の模様が画像に写り込むようなときに、写り込んだ裏面の模様の画像を除去します。

重要

モードで「文字強調」を選択しているときは、裏書き除去の設定はできません。

ヒント

裏書き除去を使用するときは、原稿の状態に合わせて裏書き除去のレベルを調整します。

影消し

スキャンした画像上の上下の影を自動的に除去します。

孤立点除去

白地の中で孤立した 3×3 ドットの黒い点（または黒地の中で孤立した 3×3 ドットの白い点）を自動的に除去します。

ノッチ除去

輪郭から飛び出している部分（ノッチ）がスキャン画像から除去されます。

文字 / 線の太さ補正



文字 / 線の太さの補正具合を調整します。

コントラスト



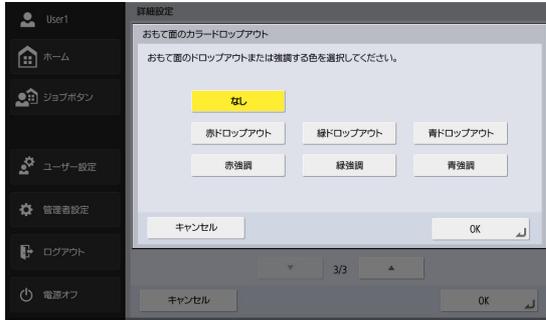
スキャンする画像のコントラストを調整します。

裏面の明るさ / コントラスト



両面スキャンのときに有効になり、原稿の表裏の濃淡に差があるときに使用します。[裏面の明るさ（コントラスト）を使用] をチェックすると、原稿の表裏で明るさとコントラストの設定を変えることができます。

おもて面（裏面）のカラードロップアウト



カラードロップアウトには、赤色、青色、緑色の指定した色を読み飛ばす「ドロップアウト」と、指定した色を強調する「色強調」の機能があり、おもて面と裏面でそれぞれ設定を行います。

! 重要

カラードロップアウトの設定はモードの設定が【カラー】のときは無効です。

カラー白黒検知設定



カラー白黒検知を選択したときに有効になり、原稿をカラーと白黒のどちらでスキャンするかを検知するための次の設定ができます。

● 検知モード

カラー白黒検知のモードを指定します。

ここでの設定に応じて、スキャンされた原稿の処理が次のように異なります。

設定値	原稿がカラーと判定された場合	原稿が白黒と判定された場合
[カラー、グレーまたは白黒]	カラー画像として保存	原稿の内容に応じてグレースケール画像または白黒画像として保存
[カラーまたはグレー]		グレースケール画像として保存
[カラーまたは白黒]		白黒画像として保存

● 白黒の場合のモード

原稿が白黒と検知されたときにどのモードでスキャンするかを指定します。

● カラーと判定する色合いの強さ

原稿上の色に対する感度を調整します。

● カラーと判定する領域の大きさ

原稿上のカラーの部分の割合を指定します。

● グレーの階調の範囲

原稿のグレー部分の階調に対する検知の感度を調整します。

● グレーと判定する領域の大きさ

原稿のグレー部分を検知する領域の大きさを調整します。

❗ 重要

- カラー白黒検知機能は、カラードロップアウトおよびプレスキャンと同時に使用することはできません。
- カラー白黒検知機能を使用すると、処理速度が低下することがあります。

原稿の種類

スキャンする原稿の種類を選択します。「普通紙」、「非常に薄い紙」「非常に厚い紙 / プラスチックカード」、「キャリアシート」、「キャリアシート (パスポート用)」から選択できます。

💡 ヒント

「非常に厚い紙 / プラスチックカード」、「キャリアシート」、「キャリアシート (パスポート用)」を選択すると、「超音波重複検知」が自動的に [OFF] になります。



フィーダー・フラットベッド

フラットベッドスキャナーを接続している場合、ScanFront でスキャンするか、フラットベッドスキャナーでスキャンするかを選択できます。[自動] を選択すると、ScanFront に原稿がセットされている場合は ScanFront (ADF) でスキャンし、ScanFront に原稿がセットされていない場合はフラットベッドスキャナーでスキャンします。

! 重要

- [自動] を選択した場合、スキャンする解像度は 300dpi までに制限されます。
- フラットベッドスキャナーユニット 102 を ScanFront に接続して使用する際は、フラットベッド本体の矢印に原稿の左上角がそろうように原稿を置いてください。

□ ファイル形式

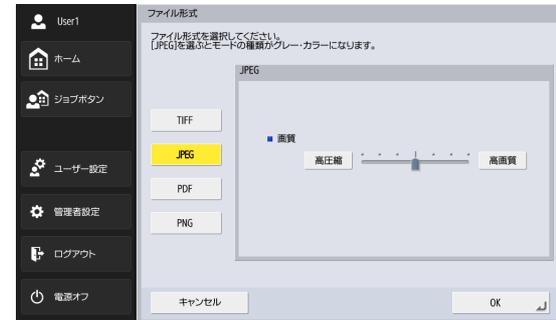
ファイル形式は、TIFF、JPEG、PDF、PNG の 4 種類のファイル形式から選択でき、ファイル形式の設定によってスキャンできるモードが限定されます。(→P.81「モード」)

TIFF 形式



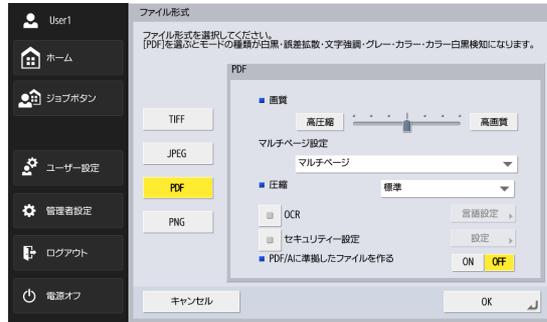
複数ページスキャンした画像ファイルを [シングルページ (表裏別ファイル)]、[シングルページ (表裏同一ファイル)]、[マルチページ (複数ページ同一ファイル)] のどの形式で保存するか選択します。

JPEG 形式



JPEG 圧縮の圧縮率を選択します。

PDF 形式



PDF 形式で保存するための以下の設定を行います。

- **圧縮**
圧縮の方法を選択します。
- **画質**
指定した圧縮方法に対する画質を調整します。
- **マルチページ設定**
複数ページスキャンした画像ファイルを [シングルページ (表裏別ファイル)]、[シングルページ (表裏同一ファイル)]、[マルチページ (複数ページ同一ファイル)] のどの形式で保存するか選択します。
- **OCR (文字認識)**
OCR をチェックすると、スキャンした原稿内の文字の部分が文字認識され、テキスト情報として PDF ファイルに埋め込まれます。
[言語設定] ボタンは、文字認識を行う言語を選択します。

• セキュリティー設定

セキュリティー設定をチェックして [設定] ボタンを押すと、「セキュリティー設定」画面になり、PDF ファイルにセキュリティーを設定できます。詳細については「PDF ファイルのセキュリティー設定」(→ P.91) を参照してください。

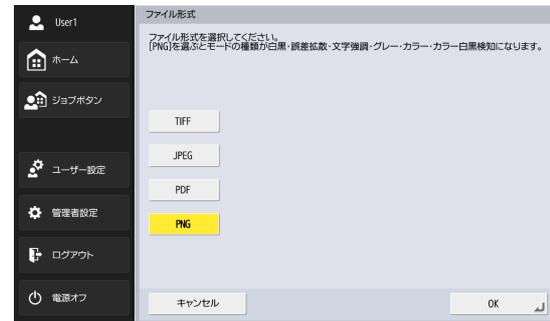
• PDF/A に準拠したファイルを作る

[ON] に設定すると、PDF/A ファイルを作成します。

! 重要

- [OCR] の [言語設定] で PDF/A に対応していない言語 (日本語、英語+日本語、トルコ語、ロシア語) を選択している場合、対応している言語に変更されます。
- PDF/A ファイルを作成する場合、「セキュリティー設定」は設定できません。

PNG 形式



□ PDF ファイルのセキュリティー設定

セキュリティー設定では、PDF ファイルにセキュリティーを施します。



暗号化レベル

暗号化レベルには、高（128-bit RC4）レベルと低（40-bit RC4）レベルの設定があります。

! 重要

暗号化レベルは、高（128-bit RC4）レベルでの設定を推奨します。低（40-bit RC4）レベルでは暗号化レベルが低下します。

文書を開く時にパスワードが必要

文書の閲覧をパスワードで制限します。

! 重要

パスワードを忘れると文書が開けなくなります。パスワードを設定したときは、忘れないように注意してください。

権限パスワードを使用してセキュリティー設定の編集を制限

以下の設定を権限パスワードで制限します。

- **印刷を許可**
プリンターによる PDF ファイルの印刷を許可します。
- **変更を許可**
ページの追加や削除など、PDF ファイルの編集を許可します。
- **画像とテキストのコピーとアクセシビリティを有効にする**
OCR により埋め込まれたテキスト情報のコピーや、音声ソフトによる PDF ファイルの読み上げを有効にします。

! 重要

- PDF ファイルの権限を制限した場合、パスワードで保護することを推奨します。
- パスワードで保護された PDF ファイルは、Adobe Acrobat など PDF ファイルを編集することのできるアプリケーションで権限の変更やパスワードを解除することができます。

□ 送信設定

メール設定 (件名、本文)

メールで送信する場合の件名と、メールの本文を設定します。

ファイル名

送信する画像ファイルのファイル名を設定します。

自動的にファイル名をつける

指定したファイル名の後に日付と時間を表す 17 桁のファイル名を付加します。

例) 2016年5月14日15時40分30秒の場合

yyymmdd: ファイル + 20160514154030123

mmddyyyy: ファイル + 05142016154030123

ddmmyyyy: ファイル + 14052016154030123

* 末尾の3桁は、ミリ秒を表します。

「管理者設定」または「ユーザー設定」でカスタムファイル名を設定しているときは、[カスタム] を選択することで、スキャン画像のファイル名にカスタムファイル名を付加できます。(→ P.103)

! 重要

- 「ファイル名」と「自動的にファイル名をつける」は必ずどちらかを設定してください。ファイル名を入力しないで「自動的にファイル名をつける」を [なし] に設定した場合メッセージが表示されます。
- JPEG 形式または PNG 形式を選択した場合や、TIFF 形式または PDF 形式を選択してシングルページ設定にした場合、ファイル名の末尾に「0001」から始まる4桁の連番が自動で付加されます。
- カスタムファイル名に次の文字を使用することはできません。
/:?*" <> |

同名のファイル名が存在した場合

送信先に同名のファイルが存在したときの処理方法を設定します。

- **メッセージを表示する**
ファイルの上書きを確認するメッセージを表示します。
- **処理を中断する**
送信を中止します。
- **上書きする**
送信先にあるファイルに上書きします。



スキャン後直ちに送信する

スキャンが終了したら画像の確認を行わないで画像を送信します。

送信前に宛先を確認する

スキャンが終了し、画像を送信する前に宛先の確認を行います。

送信後の画面

画像を送信後に表示する画面を選択します。

- **ホーム画面 (ジョブボタン画面)**
画像を送信後、ホーム画面 (ジョブボタン画面) に戻ります。

重要

- ホーム画面 (ジョブボタン画面) の設定は、ユーザー設定の「デバイスログイン後の画面」の設定が適用されます。
- 管理者によりホーム画面の使用が制限されているユーザーは、「ジョブボタン画面」になります。

ログアウト

画像を送信後、ログアウトします。

送信終了後の画面を選択する

画像を送信後、画面を選択するダイアログボックスを表示します。

ヒント

ユーザーを登録しないで使用する場合、[ログアウト] は表示されません。

インデックスファイルを送信する

画像といっしょにインデックスファイル (メタデータ) も送信するかどうかを指定します。

インデックスファイルを送信するときは、インデックス文字列を入力して指定します。

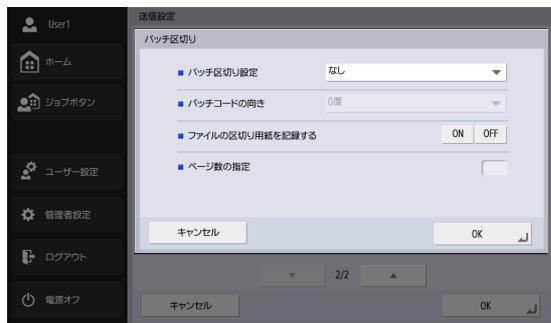
インデックスファイルは、「管理者設定」または「ユーザー設定」の設定に従って作成されます。(→ P.104)

重要

インデックスファイルに含める文字列に次の文字を使用することはできません。

& " ' < >

バッチ区切り



白紙やバッチコードシートを検知してバッチ区切りを行うことができます。

重要

バッチ区切りを有効にするには、以下の2点を設定する必要があります。

- 「カスタムファイル名設定」画面で、「カウンター」の [有効] チェックボックスをオンにする (→ P.103)
- 「送信設定」画面の「自動的にファイル名をつける」で [カスタム] を選択する (→ P.92)

バッチ区切り設定

「白紙」を選択すると、白紙の原稿をスキャンした場合に、その原稿をバッチ区切り用紙と判定してバッチ区切り(自動ファイル区切り)を行ったマルチページファイルが作成されます。

「バッチコード」を選択すると、原稿の間に挿入されたバッチコードシートを検知したときにバッチ区切りを行

います。詳細については「[バッチコードシートを使用したバッチ区切り](#)」(→ P.95)を参照してください。

「指定ページ数ごと」を選択すると、指定した枚数ごとにバッチ区切りを行ったマルチページファイルが作成されます。

バッチコードの向き

「バッチ区切り設定」を [バッチコード] にした場合に設定します。

給紙トレイにバッチコードシートをセットする際のバッチコードの向きに合わせて設定します。

ヒント

「バッチコードの向き」は、原稿内のバッチコードに合わせて以下のように設定します。

PATCH T				
PATCH II				
バッチコードの向き	0度	90度	180度	270度

ファイルの区切り用紙を記録する

「バッチ区切り設定」を [バッチコード] にした場合に設定します。

[ON] を選択すると、バッチコードのパターンに係わらず、バッチコードシートの画像を保存してスキャンします。

[OFF] を選択すると、PATCH T のパターンを認識した場合にはパッチコードシートの画像を保存せずにスキャンします。

• ページ数の指定

「パッチ区切り設定」を「指定ページ数ごと」にした場合に、パッチ区切りを行うページ数を設定します。

□ パッチコードシートを使用したパッチ区切り

パッチコードシートは、スキャンを中断することなくファイルを区切るための特殊なパターンを印刷したシートです。このシートがスキャナーから読み込まれてパターンが認識されると、シートはパッチコードシートとして機能し、ファイル区切りを行います。

パッチコードシートの印刷

パッチコードシートは、PDF 形式のファイルに対応したアプリケーションで開き、必ず等倍で印刷してください。パッチコードシートは、取扱説明書/アプリケーションディスクに PDF 形式で同梱されています。

! 重要

- [PATCH T (A4)]、[PATCH II (A4)] は A4 サイズの用紙、[PATCH T (LTR)]、[PATCH II (LTR)] はレターサイズの用紙に等倍で印刷してください。
- パッチコードシートを拡大、縮小して印刷した場合、パッチコードとして正常に認識できない場合があります。

パッチコードパターンの機能

パッチコードは「PATCH T」、[PATCH II] の 2 種類のパターンに対応し、パターンによって機能が異なります。

• PATCH T



このパターンが印刷されたシートを認識すると、このシートの次の原稿の画像からファイルが区切られます。「ファイルの区切り用紙を記録する」(→ P.94) で、シートの画像を保存するかしないかを設定します。

• PATCH II



このパターンが印刷されたシートを認識すると、このシートの画像からファイルが区切られます。このシートの画像は、「ファイルの区切り用紙を記録する」の設定に係わらず常に保存されます。

□ パッチコードシートの使い方

パッチコードシートを使用したパッチ区切りによるスキャン方法を説明します。

1. パッチコードシートをプリンターで印刷します。

パッチコードシートは、取扱説明書/アプリケーションディスクの下記のフォルダーに格納されています。

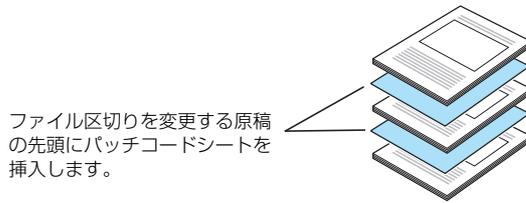
Q: ¥ Documents

(「Q:」は CD-ROM ドライブのドライブ文字)

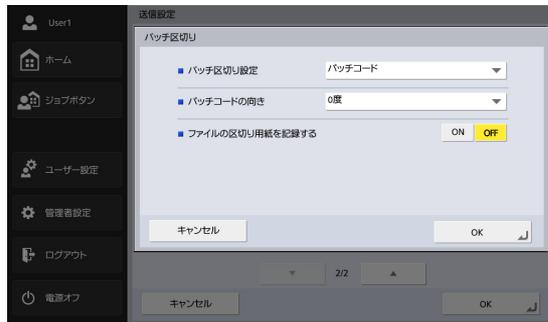
! 重要

- [PATCH T (A4)]、[PATCH II (A4)] は A4 サイズの用紙、[PATCH T (LTR)]、[PATCH II (LTR)] はレターサイズの用紙に等倍で印刷してください。

- パッチコードシートを拡大、縮小して印刷した場合、パッチコードとして正常に認識できない場合があります。
2. ファイルを区切る原稿の前にパッチコードシートを挿入し、給紙トレイにセットします。



3. 「送信設定」画面の「パッチ区切り」で「パッチ区切り」画面を開きます。
4. 「パッチ区切り設定」を「パッチコード」にし、「パッチコードの向き」および「ファイルの区切り用紙を記録する」を設定します。
詳細については「パッチ区切り」(→ P.94) を参照してください。



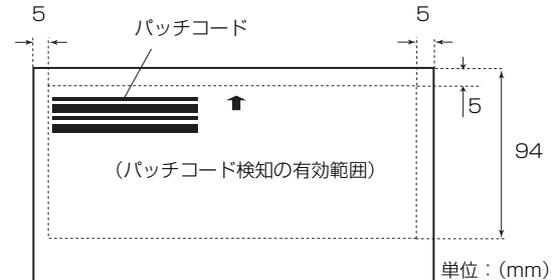
5. スキャンを実行します。

パッチコードシートの作成

パッチコードパターンをコピーして他のサイズのパッチコードシートを作成する場合は、以下の点に注意してください。

! 重要

- パッチコードは、以下の有効範囲に入るように調整してください。



- パッチコードパターンをコピーするときは、オリジナルのパターンと同サイズになるようにしてください。
- 印刷または作成したパッチコードシートは、汚さないように注意してください。また、折り曲げたものや、しわのあるシートの使用は避け、印刷または作成し直したものを使用してください。

第 5 章 管理者設定

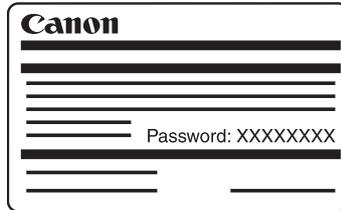
1. 管理者設定について	98	SNMP 設定	125
2. ユーザー管理	100	6. 通信設定	132
ユーザーの新規登録	101	メールサーバー	133
ユーザー編集	107	FAX	134
ユーザーの機能制限	108	認証サーバー	135
ユーザーの削除	109	アドレス帳サーバー	136
サーバーと同期して削除	109	FTP サーバー	137
ユーザーのエクスポート	110	HTTP プロキシサーバー	138
ユーザーのインポート	111	FTP プロキシサーバー	138
3. アドレス帳設定	112	7. システム設定	139
宛先の新規登録	112	全ての設定をバックアップする	139
宛先の変更	112	全ての設定のリストア	140
宛先のコピー	112	エラーログ出力	141
宛先の削除	113	バージョン情報	141
アドレス帳のエクスポート	113	バージョンアップ実行	141
アドレス帳のインポート	114	8. システム管理	142
4. ジョブボタン設定	116	管理者設定	142
ジョブボタンの新規登録	116	9. 証明書	143
ジョブボタンのコピー	119	証明書の削除	143
ジョブの編集	120	10. 秘密鍵	144
ジョブボタンのエクスポート	121	秘密鍵の削除	144
ジョブボタンのインポート	122	11. 「デバイス動作設定」画面	145
5. デバイス設定	123	デバイス詳細設定	146
デバイスのネットワーク設定	123	パスワード設定	147
言語 / タイムゾーン	124	IEEE802.1X 設定	147
日付 / 時刻	124	外部の端末のウェブブラウザからのアクセス	148
自動ログアウト	125		

1. 管理者設定について

「管理者設定」では、以下の設定を行うことができます。

ヒント

- 管理者設定を変更したとき、デバイスパスワードの入力を要求される場合があります。
- 初期状態で、パスワードは製品背面ラベルのパスワード欄に記載された文字列で設定されています。ただし、パスワード欄の記載がないデバイスもあります。この場合、パスワードは設定されていません。



- ① **ユーザー管理** (→ P.100 「ユーザー管理」)
ScanFront を使用するユーザーを登録・管理し、ScanFront を使用するユーザーに合わせて使用できる機能を制限します。
- ② **アドレス帳設定** (→ P.112 「アドレス帳設定」)
すべてのユーザーが共有して使用するための「共有アドレス帳」の登録と管理を行います。
- ③ **ジョブボタン設定** (→ P.116 「ジョブボタン設定」)
すべてのユーザーが共有して使用するための「共有ジョブボタン」の登録と管理を行います。
- ④ **デバイス設定** (→ P.123 「デバイス設定」)
ScanFront 本体の設定を行います。
- ⑤ **通信設定** (→ P.132 「通信設定」)
ScanFront から電子メールを送信するためのメールサーバーの設定と、ディレクトリサービスに対応した認証サーバー、LDAP に対応したアドレス帳サーバー、FTP サーバーへの送信時にスキャン結果のログを送信する機能の設定を行います。
- ⑥ **システム設定** (→ P.139 「システム設定」)
ScanFront を管理するための以下の設定を行います。
 - ScanFront 全設定のバックアップとリストア。
 - ScanFront のバージョン情報の確認。
- ⑦ **操作履歴表示**
対象ユーザーを指定して、操作履歴を参照できます。

ヒント

履歴を選択して「詳細情報」を押すと、詳細な履歴情報が表示されます。

- ⑧ システム管理 (→ P.142 「システム管理」)
ログイン画面や表示言語の設定、ネットワークテスト、管理者のパスワードとメールアドレスの設定を行います。
- ⑨ 証明書 (→ P.143 「証明書」)
証明書の表示、削除を行います。
- ⑩ 秘密鍵 (→ P.144 「秘密鍵」)
SFTP 送信の秘密鍵認証に使用する秘密鍵の表示、削除を行います。

2. ユーザー管理

「ユーザー管理」では、ScanFront を使用するユーザーを登録・管理し、ユーザーに合わせて使用できる機能を制限することができます。



① ユーザー一覧

- **チェックボックス**：ユーザーを選択するときにチェックします。複数のユーザーをまとめてチェックすると、機能制限や削除を一括して行うことができます。
- **名称**：登録されているユーザーの名称を表示します。<既定のユーザー>は、ユーザーを新規登録する場合の初期設定です。
- **アドレス【編集】ボタン**：ユーザーごとに使用する「マイアドレス帳」の登録と編集を行います。アドレス帳の設定については「[アドレス帳設定](#)」(→ P.112)を参照してください。

- **ジョブ【編集】ボタン**：ユーザーごとに使用する「マイジョブボタン」の登録と編集を行います。ジョブボタンの設定については「[ジョブボタン設定](#)」(→ P.116)を参照してください。

② ジャンプキー

ユーザーの件数が多く、ユーザー一覧に表示されていないユーザーを表示させるときに使用し、指定したキーワードでユーザーを検索して表示します。



ヒント

ジャンプキーによる検索は、ユーザーの「ふりがな」で検索されません。

③ 【全選択 / 解除】ボタン

ユーザーをすべて選択、または選択をすべて解除します。

④ 【編集】ボタン

ユーザーの新規登録と編集を行います。

□ ユーザーの新規登録

新しいユーザーを登録します。

! 重要

- 認証サーバー (→ P.135) を使用する場合、認証サーバーのアカウントでログインしたユーザーは自動登録されます。
- 認証サーバーのアカウントにメールアドレスが登録されている場合は、メールアドレスも自動登録されます。
- 認証サーバーのアカウントにメールアドレスが登録されていない場合は、メールアドレスが登録されません。ユーザー編集 (→ P.107) でメールアドレスを登録してください。

1. [編集] - [新規登録] を押します。



「新規登録」画面が表示されます。

2. 各項目に必要な事項を入力して、[OK] を押します。



ヒント

- ユーザーを登録すると ScanFront 本体の表示が「ホーム」画面から「ログイン」画面になります。(→ P.53「ログイン画面について」)



● 認証サーバー：デバイス

新規登録されるユーザーはすべて「デバイス」になり、ScanFront (デバイス) でユーザー認証を行います。



ヒント

認証サーバーのアカウントでログインして自動登録されたユーザーは認証サーバーのドメイン名になります。

• ユーザー名 / パスワード

ScanFront にログインするためのユーザー名とパスワードを入力します。

• パスワード (確認用)

入力したパスワードと同じパスワードを入力します。

• メールアドレス

ScanFront から送信した電子メールの送信元のアドレスです。

• SMTP/POP Before SMTP 認証

メールサーバーの設定 (→ P.133) で「メールサーバー認証方法」を標準 SMTP 以外にしたときに表示され、メールサーバーで認証を行うための「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。



重要

- インデックスファイルにユーザー名を含めるように設定し、インデックスファイルのファイル形式を XML に設定した場合、XML で使用できない文字をユーザー名に使用することはできません。
- 「ユーザー名」と「パスワード」はユーザーに確認して入力します。または、ユーザー設定のユーザー管理 (→ P.152) でユーザーが直接入力します。
- 初期アドレス帳
ホーム画面から「アドレス選択」画面を開いたときに、「マイアドレス帳」、「共有アドレス帳」のどちらが表示されるかを選択します。

• 初期ジョブボタン

ログイン後にジョブボタン画面を表示させたときに、「マイジョブボタン」、「共有ジョブボタン」のどちらが表示されるかを選択します。

• デバイスログイン後の画面

ユーザーがログインしたときに表示される初期画面を「ホーム画面」、「ジョブボタンリスト画面」から選択します。



重要

ログイン後の初期画面の設定は、スキャンした画像を送信後の動作に反映します。(→ P.80 「8. 読取 / 送信設定」の「送信設定」)

• ユーザー自身のメールアドレスに送信

ログインしているユーザーのメールアドレスをアドレス帳に表示させる場合、[はい] に設定します。

ユーザーにメールアドレスが設定されていれば、アドレス帳にユーザーのメールアドレスを登録していなくても表示します。

ユーザーのメールアドレスは、宛先一覧の一番上に表示されます。

• カスタムファイル名

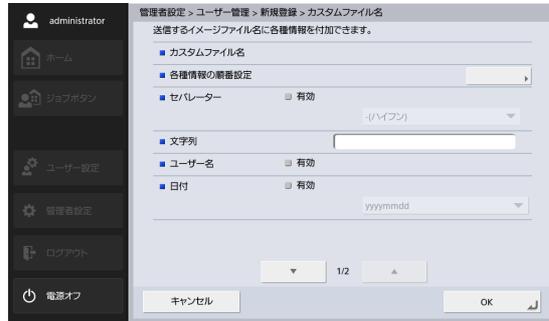
「カスタムファイル名設定」画面を表示します。(→ P.103 「カスタムファイル名設定」)

• インデックス設定

「インデックス設定」画面を表示します。(→ P.104 「インデックス設定」)

カスタムファイル名設定

スキャン画像の保存時に適用するファイル名の付け方を指定します。スキャン時にカスタムファイル名を使用する設定にした場合に、ここで設定したファイル名で画像ファイルが保存されます。カスタムファイル名に含める項目の順番は、「カスタムファイル名項目設定」画面で設定できます。



重要

カスタムファイル名に次の文字を使用することはできません。

/:?* "<>!

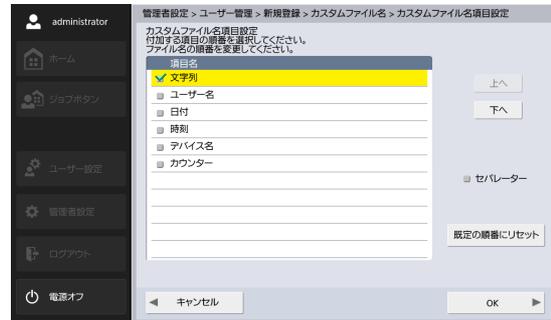
• カスタムファイル名

カスタムファイル名に含める項目が、設定されている順番で表示されます。

• 各種情報の順番設定

「カスタムファイル名項目設定」画面を表示します。

カスタムファイル名に含める項目の順番を設定できます。



項目を選択し、[上へ] / [下へ] ボタンを押して順番を変更します。

ヒント

- 「カスタムファイル名」画面で [有効] に設定されている項目は、チェックボックスがオンになっています。この画面でチェックボックスをオン / オフすると、「カスタムファイル名」画面の [有効] チェックボックスも連動してオン / オフされます。

- 「文字列」は、順番の変更はできますが、チェックボックスのオフはできません。
- **セパレーター**
ファイル名に含めるように設定した各文字列の間に区切り文字を入れる場合に [有効] チェックボックスをオンにし、区切り文字をリストボックスで選択します。
- **文字列**
ファイル名に含める文字列を指定します。
- **ユーザー名**
ファイル名にユーザー名を含める場合に [有効] チェックボックスをオンにします。
- **日付**
ファイル名に日付を含める場合に [有効] チェックボックスをオンにし、日付の表記方法をリストボックスで選択します。
- **時刻**
ファイル名に時刻を含める場合に [有効] チェックボックスをオンにし、時刻の表記方法をリストボックスで選択します。



ヒント

ScanFront 本体の時間が適用されます。

- **デバイス名**
ファイル名にデバイス名を含める場合に [有効] チェックボックスをオンにします。
- **カウンター / 開始番号 / 桁数**
ファイル名にカウンターを含める場合に [有効] チェックボックスをオンにします。この場合はカウンターの開始番号と桁数を指定できます。

インデックス設定

スキャン画像に添付するインデックスファイル（メタデータ）の内容を指定します。インデックスファイルに含める項目の順番は、「インデックス項目設定」画面で設定できます。





重要

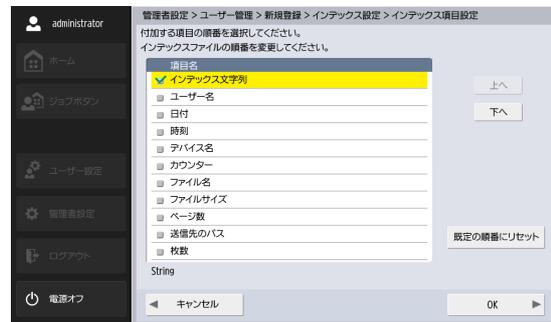
インデックスファイルに含める文字列に次の文字を使用することはできません。

& " ' < >

情報の順番

インデックスファイルに含める項目が、設定されている順番で表示されます。

- **インデックスファイルのフォーマット**
インデックスファイルのファイル形式を指定します。
- **各種情報の順番設定**
「インデックス項目設定」画面を表示します。
インデックスファイルに含める項目の順番を設定できます。



項目を選択し、[上へ] / [下へ] ボタンを押して順番を変更します。

ヒント

- 「インデックス設定」画面で[有効]に設定されている項目は、チェックボックスがオンになっています。この画面でチェックボックスをオン/オフすると、「インデックス設定」画面の[有効] チェックボックスも連動してオン/オフされます。
- 「インデックス文字列」は、順番の変更はできませんが、チェックボックスのオフはできません。
- **インデックス文字列 / フィールド名**
インデックス文字列を入力します。フィールド名は初期設定値「String」を必要に応じて変更できます。

- **ユーザー名**

インデックスファイルにユーザー名を含める場合に [有効] チェックボックスをオンにします。フィールド名は初期設定値「User」を必要に応じて変更できます。

- **日付**

インデックスファイルに日付を含める場合に [有効] チェックボックスをオンにし、日付の表記方法を [フォーマット] リストボックスで選択します。フィールド名は初期設定値「Date」を必要に応じて変更できます。

- **時刻**

インデックスファイルに時刻を含める場合に [有効] チェックボックスをオンにし、時刻の表記方法を [フォーマット] リストボックスで選択します。フィールド名は初期設定値「Time」を必要に応じて変更できます。



ヒント

ScanFront 本体の時間が適用されます。

- **デバイス名**

インデックスファイルにデバイス名を含める場合に [有効] チェックボックスをオンにします。フィールド名は初期設定値「Device」を必要に応じて変更できます。

- **カウンター / 開始番号 / 桁数**

インデックスファイルにカウンターを含める場合に [有効] チェックボックスをオンにします。この場合はカウンターの開始番号と桁数を指定できます。フィールド名は初期設定値「Counter」を必要に応じて変更できます。

- **ファイル名**

インデックスファイルにファイル名を含める場合に [有効] チェックボックスをオンにします。フィールド名は初期設定値「FileName」を必要に応じて変更できます。

- **ファイルサイズ**

インデックスファイルにファイルサイズを含める場合に [有効] チェックボックスをオンにします。フィールド名は初期設定値「FileSize」を必要に応じて変更できます。

- **ページ数**

インデックスファイルにスキャン画像のページ数を含める場合に [有効] チェックボックスをオンにします。フィールド名は初期設定値「PageNumber」を必要に応じて変更できます。

- **送信先のパス**

インデックスファイルに送信先のパスを含める場合に [有効] チェックボックスをオンにします。フィールド名は初期設定値「Folder」を必要に応じて変更できます。

- **枚数**

インデックスファイルにスキャン画像のページ数を含める場合に [有効] チェックボックスをオンにします。フィールド名は初期設定値「SheetNumber」を必要に応じて変更できます。

□ ユーザー編集

登録されているユーザーの設定を変更します。

1. ユーザーを選択し、[編集] - [変更] を押します。



「編集」画面が表示されます。

2. ユーザーの設定を変更して、[OK] を押します。



各設定項目については「ユーザーの新規登録」(→ P.101)を参照してください。



ヒント

- <既定のユーザー>を編集する場合、ユーザー設定で変更できるのは「初期アドレス帳」、「初期ジョブボタン」、「デバイスログイン後の画面」の設定の既定値のみです。
- サーバー認証で自動登録されたユーザーを編集する場合、「編集」画面でメールアドレスを設定します。
- 機能制限で「ジョブボタンのみ使用する」が有効になっている場合、デバイスログイン後の画面の設定は「ジョブボタンリスト」のみの表示になります。

□ ユーザーの機能制限

ユーザーの使用できる機能を制限します。

重要

<既定のユーザー>の機能を制限すると、新規に登録するユーザー、サーバー認証で自動登録されるユーザーの機能制限に反映します。

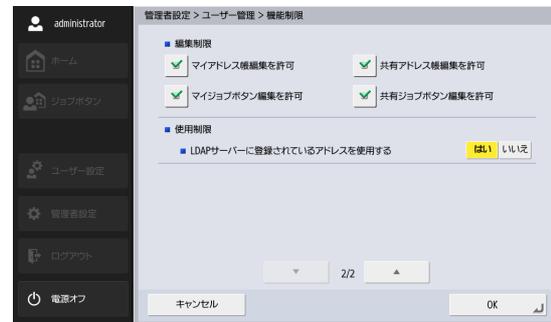
ヒント

複数のユーザーが選択されていると、選択されているすべてのユーザーの機能制限が一括して設定されます。

1. ユーザーを選択し、[編集] - [機能制限] を押します。



2. 制限する機能を設定して、[OK] を押します。



• ジョブボタンのみ使用する

ホーム画面からのスキャンが無効になり、ログインしたときにジョブボタン画面になります。

• 送信制限

画像の送信先を制限し、チェックをはずした送信先は使用できなくなります。

● 編集制限

アドレス帳とジョブボタンの編集を制限し、チェックをはずしたアドレス帳とジョブボタンの編集はできなくなります。



ヒント

ユーザーに既存のアドレスとジョブボタンのみを使用させる場合に設定します。

● 使用制限

[通信設定](#) (→ P.132) でアドレス帳サーバーの使用が有効になっているときに、LDAP アドレス帳の使用を制限します。

□ ユーザーの削除

登録されているユーザーを削除します。ただし、<既定のユーザー>は削除できません。

1. ユーザーを選択し、[編集] - [削除] を押します。



確認のメッセージが表示されます。

2. [はい] を押します。

□ サーバーと同期して削除

認証サーバーを有効にしている (→ P.132 「通信設定」) 場合に、認証サーバーに登録されていないユーザーをユーザー一覧から削除します。

1. [編集] - [サーバーと同期して削除] を押します。



確認のメッセージが表示されます。

2. [はい] を押します。

□ ユーザーのエクスポート

ユーザーのデータを、指定したフォルダーに保存します。

ヒント

ユーザーのバックアップをとる場合や、サーバーの変更などで別のサーバーにユーザーのデータを移す場合にエクスポートします。

1. エクスポートするユーザーを選択し、[編集] - [エクスポート] を押します。



「エクスポート」画面が表示されます。

2. 保存場所の情報を入力します。



ヒント

- [接続テスト] を押すと、入力したホスト名での接続を確認できます。
- [参照] を押すと、「共有フォルダ」画面が表示され、ホストと共有フォルダーを指定できます。

3. [OK] を押します。
エクスポートを開始します。
完了すると、メッセージが表示されます。
4. [はい] を押します。

□ ユーザーのインポート

エクスポートしたユーザーのデータをインポートします。

1. [編集] - [インポート] を押します。



「インポート」画面が表示されます。

2. 各項目に必要な事項を入力して、エクスポートしたユーザーの設定ファイルを指定します。



ヒント

- [接続テスト] を押すと、入力したホスト名での接続を確認できます。
- [参照] を押すと、「共有フォルダ」画面が表示され、設定ファイルを指定できます。

3. 「データの扱い」で、ユーザーの設定ファイルをインポートする際の処理方法を選択します。

- 上書きする：現在登録されているユーザーが上書きされ、インポートするユーザーのデータに置き換えられます。
- 処理を中断する：同名のユーザーがあった場合にインポート処理を中止します。

4. [OK] を押します。

インポートを開始します。
完了すると、メッセージが表示されます。

5. [はい] を押します。

3. アドレス帳設定

管理者設定の「アドレス帳設定」では、すべてのユーザーが共有して使用するための「共有アドレス帳」の登録を行います。



アドレス帳設定画面の詳細については、[P.63](#)「6. スキャンの手順について」の「アドレス選択画面について」を参照してください。

ただし、この画面で管理するのは「共有アドレス帳」のみです。ユーザー別に使用する「マイアドレス帳」の管理は、ユーザー管理画面のユーザー一覧のアドレス列にある「編集」ボタンで行います。

□ 宛先の新規登録

送信する宛先がアドレス帳に登録されていないときは、宛先の新規登録を行います。

新規登録の方法については、[P.72](#)「7. 宛先の登録と編集」の「宛先の新規登録」を参照してください。

ヒント

- 共有アドレス帳（マイアドレス帳）に登録できる宛先の数は、共有ジョブボタン（マイジョブボタン）に含まれる宛先の総数と合わせて 1000 件以下です。
- 上記の件数に於いて、1 グループに登録される件数は最大 100 件です。
- 宛先は、宛先のタイプ（メール、共有フォルダー、FTP サーバー、FAX、グループ）によって設定項目が変化します。

□ 宛先の変更

宛先に登録されている送信先の情報が間違っている / 変更されていることによって送信エラーになるときは、宛先の変更を行います。

変更の方法については、[P.77](#)「7. 宛先の登録と編集」の「宛先の変更」を参照してください。

□ 宛先のコピー

宛先をコピーして、新しい宛先として登録します。コピーの方法については、[P.78](#)「7. 宛先の登録と編集」の「宛先のコピー」を参照してください。

ヒント

- 宛先のコピーは、共有アドレス帳と同じ宛先をコピーし、設定の一部を変更して別の宛先として登録するときに使用します。

- ユーザー管理画面のユーザー一覧で、アドレス列の [編集] ボタンを押して表示させる個別ユーザーのアドレス帳設定では、「共有アドレス帳」と「マイアドレス帳」で相互に宛先をコピーすることができます。

□ 宛先の削除

登録されている宛先を削除します。

1. 削除する宛先を選択し、[編集] - [削除] を押します。



確認のメッセージが表示されます。

2. [はい] を押します。

□ アドレス帳のエクスポート

アドレス帳のデータを、指定したフォルダーに保存します。

💡 ヒント

- 保存した CSV ファイルは、CSV ファイルに対応した表計算ソフトウェアなどで開くことによりファイルの構造を確認することができます。
- 他のメーラーで作成した CSV ファイルの構造をアドレス帳のエクスポートで保存した CSV ファイルの構造に合わせることで、他のメーラーのアドレス帳を ScanFront にインポートして使用することができます。

1. [編集] - [エクスポート] を押します。



「エクスポート」画面が表示されます。

2. 各項目に必要な事項を入力します。



ヒント

- [接続テスト] を押すと、入力したホスト名での接続を確認できます。
- [参照] を押すと、「共有フォルダ」画面が表示され、ホストと共有フォルダを指定できます。

3. [OK] を押します。

エクスポートを開始します。
完了すると、メッセージが表示されます。

4. [はい] を押します。

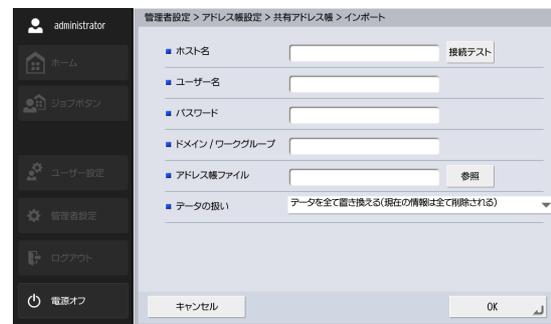
□ アドレス帳のインポート

エクスポートしたアドレス帳のデータをインポートします。

1. [編集] - [インポート] を押します。



2. 各項目に必要な事項を入力して、エクスポートしたユーザーの設定ファイルを指定します。



 ヒント

- [接続テスト] を押すと、入力したホスト名での接続を確認できます。
 - [参照] を押すと、「共有フォルダ」画面が表示され、ホストと共有フォルダーを指定できます。
3. 「データの扱い」で、アドレス帳の設定ファイルをインポートする際の処理方法を選択します。
 - データを全て置き換える：現在登録されているアドレス帳がすべて削除され、インポートするアドレス帳のデータに置き換えられます。
 - データを全て追記する：現在登録されているアドレス帳に、インポートするアドレス帳のデータが追記されます。
 4. [OK] を押します。
インポートを開始します。
完了すると、メッセージが表示されます。
 5. [はい] を押します。

4. ジョブボタン設定

管理者設定の「ジョブボタン設定」では、すべてのユーザーが共通して使用するための「共有ジョブボタン」の登録を行います。



① ジョブボタンの種類

「共有ジョブボタン」を管理します。

ユーザー別に使用する「マイジョブボタン」の管理は、ユーザー管理画面のユーザー一覧のジョブ列にある【編集】ボタンで行います。

② ジョブボタン一覧

登録されているジョブボタンを表示します。

③ 【全選択 / 解除】 ボタン

ジョブボタンをすべて選択、または選択をすべて解除します。

④ 【編集】 ボタン

ジョブボタンの新規登録と編集を行います。

⑤ 【詳細情報】 ボタン

ジョブボタンの詳細情報を表示します。

⑥ ジャンプキー

ジョブボタンの数が多く、ジョブボタン画面に表示されていないジョブボタンを表示させるときに使用し、指定したキーワードでジョブボタンを検索して表示します。

□ ジョブボタンの新規登録

新しいジョブボタンを登録します。

1. 【編集】 - 【新規登録】 を押します。



「新規登録」画面が表示されます。

2. 各項目に必要な事項を入力して、[OK] を押します。



• ジョブボタン名

本体のパネルに表示するジョブボタンの名称を入力します。

ヒント

- ジョブボタンはジョブボタン名でソートして表示します。ジョブボタンを任意の順番で表示させるためには名称の前に英字または数字を入れて登録します。 例) O1_xxxx
- ジョブボタン名を2行にすると、ジョブボタンの表示も2行になります。

• ボタンの色

ジョブボタンの色を指定します。

• ジョブボタンが選択された時の動作

• 読取設定画面を表示する

ジョブボタンを押したときに「読取設定」画面を表示します。

• 読取設定画面をスキップする

ジョブボタンを押したときに「読取設定」画面を表示しないでスキャンを開始します。

重要

「読取設定画面をスキップする」を選択した場合、ジョブボタンを押すと原稿の有無に関係なくスキャンを開始します。

• カスタムファイル名設定

「カスタムファイル名設定」画面を表示します。(→P.118「カスタムファイル名設定」)

• 読取 / 送信設定

「読取 / 送信設定」画面を表示します。(→ P.80「読取 / 送信設定」)

ヒント

新規登録の場合、読取 / 送信設定画面のスキャン設定にある「送信設定」では、以下の項目は表示されません。

- ファイル名
 - 自動的にファイル名をつける
 - インデックスファイルを送信する
- #### • インデックス設定
- 「インデックス設定」画面を表示します。(→ P.118「インデックス設定」)

カスタムファイル名設定

スキャン画像の保存時に適用するファイル名の付け方を指定します。



- **ファイル名**
送信する画像ファイルのファイル名を指定します。
- **ジョブボタンが選択された時の動作**
ジョブボタンでスキャンを開始したときに、ファイル名入力画面を表示するかどうかを指定します。
- **ファイル名に日付けと時間を付加する**
送信する画像ファイルに日付けと時間を表す 17 桁のファイル名を付加します。
例) 2016年5月14日15時40分30秒の場合
yyyymmdd : ファイル +20160514154030123
mmddyyyy : ファイル +05142016154030123
ddmmyyyy : ファイル +14052016154030123
* 末尾の3桁は、ミリ秒を表します。
[カスタム] を選択すると、付加するファイル名を詳細に設定できます。設定内容はユーザー管理の「[カスタムファイル名設定](#)」(→ P.103) と同じです。

インデックス設定

スキャン画像にメタデータ (インデックスファイル) を添付するかどうかを指定します。



- **インデックスファイルを送信する**
[ON] を選択すると、インデックスファイルを送信します。
インデックスファイルは、ユーザー管理の「インデックス設定」の設定に従って作成されます。(→ P.104)
- **ジョブボタンが選択された時の動作**
ジョブボタンでスキャンを開始したときに、インデックス文字列の入力画面を表示するかどうかを指定します。

□ ジョブボタンのコピー

ジョブボタンをコピーして、新しいジョブボタンとして登録します。

ヒント

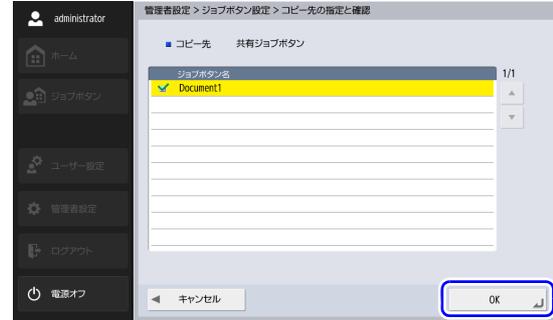
- ジョブボタンのコピーは、共有ジョブボタンに同じジョブボタンをコピーして、設定の一部を変更して別のジョブボタンとして登録するときに使用します。
- ユーザー管理画面のユーザー一覧で、ジョブ列の【編集】ボタンを押して表示させる個別ユーザーのジョブボタン設定では、「共有ジョブボタン」と「マイジョブボタン」のジョブボタンを相互にコピーすることができます。

1. コピーするジョブボタンを選択し、【編集】 - 【コピー】を押します。



コピー画面が表示されます。

2. 【OK】を押します。



コピー元と同じ名称のジョブボタンが複製されます。

3. コピーしたジョブボタンの名称と設定を変更し、新しいジョブボタンとして登録します。

□ ジョブの編集

登録されているジョブの内容を編集します。

1. 編集するジョブボタンを選択し、[編集] - [変更] を押します。



「編集」画面が表示されます。

2. ジョブボタンの設定を変更して、[OK] を押します。



各設定項目については「[ジョブボタンの新規登録](#)」(→ P.116) を参照してください。

□ ジョブボタンのエクスポート

ジョブボタンのデータを、指定したフォルダーに CSV 形式のファイルで保存します。

ジョブボタンのバックアップをとる場合や、サーバーの変更などで別のサーバーにジョブボタンのデータを移す場合にエクスポートします。

1. [編集] - [エクスポート] を押します。



「エクスポート」画面が表示されます。

2. 各項目に必要な事項を入力します。



💡 ヒント

- [接続テスト] を押すと、入力したホスト名での接続を確認できます。
- [参照] を押すと、「共有フォルダ」画面が表示され、ホストと共有フォルダーを指定できます。

3. [OK] を押します。

エクスポートを開始します。

完了すると、メッセージが表示されます。

4. [はい] を押します。

□ ジョブボタンのインポート

エクスポートしたジョブボタンのデータを ScanFront にインポートします。

1. [編集] - [インポート] を押します。



「インポート」画面が表示されます。

2. 各項目に必要な事項を入力して、エクスポートしたジョブボタンの設定ファイルを指定します。



💡 ヒント

- [接続テスト] を押すと、入力したホスト名での接続を確認できます。
 - [参照] を押すと、「共有フォルダ」画面が表示され、ホストと共有フォルダーを指定できます。
- ### 3. 「データの扱い」で、ジョブボタンの設定ファイルをインポートする際の処理方法を選択します。
- データを全て置き換える：現在登録されているジョブボタンがすべて削除され、インポートするジョブボタンに置き換えられます。
 - データを全て追記する：現在登録されているジョブボタンに、インポートするジョブボタンが追加されます。
- ### 4. [OK] を押します。
- インポートを開始します。
完了すると、メッセージが表示されます。
- ### 5. [はい] を押します。

5. デバイス設定

デバイス設定画面では、ScanFront 本体の設定を行います。



- ① デバイスのネットワーク設定
ScanFront 本体に設定したネットワーク設定を確認 / 変更します。(→ P.123 「デバイスのネットワーク設定」)
 - ② 言語 / タイムゾーンの設定
ScanFront のパネルに表示する言語と、使用している地域の設定を行います。(→ P.124 「言語 / タイムゾーン」)
- ！ 重要**
タイムゾーンの設定は、メールの送信時間の設定に反映します。
- ③ 日付 / 時刻の設定
ScanFront 本体の日付 / 時刻を設定します。(→ P.124 「日付 / 時刻」)
 - ④ 自動ログアウト
自動でログアウトする時間を設定します。(→ P.125 「自動ログアウト」)

- ⑤ ScanFront メンテナンス
「デバイス動作設定」画面を表示します。(→ P.145 「デバイス動作設定」画面)
- ⑥ ScanFront の初期化
ScanFront に登録されているユーザー情報をすべて消去します。(→ P.192 「ScanFront の初期化」)
- ⑦ SNMP 設定
SNMP を使用するための設定を行います。(→ P.125 「SNMP 設定」)

□ デバイスのネットワーク設定

ScanFront をネットワークに接続するためのデバイス名と IP アドレスの設定を行います。(→ P.30 「デバイスのネットワーク設定」)





重要

デバイス名は、英数字とハイフン (-) の組み合わせで 15 文字以内で設定し、末尾にハイフン (-) は使用できません。

言語 / タイムゾーン

ScanFront 本体に表示する言語および地域の設定の確認と変更を行います。



① デバイスの表示言語

ScanFront 本体に表示する言語を設定します。

重要

表示言語の設定を変更したときは ScanFront を再起動してください。

② タイムゾーン

ScanFront を使用する地域を設定します。(日本の場合: 東京時間)

③ サマータイムを有効にする

タイムゾーンで設定した地域のサマータイムを適用します。

重要

- タイムゾーンが正しく設定されていないと、メールの送信時間や、保存された画像ファイルのタイムスタンプが正しく保存されません。
- サマータイムを有効にするをチェックしたときに、正しい時刻が反映されない場合があります。この場合は、正しい時刻に再設定してください。

日付 / 時刻

ScanFront 本体の日付 / 時刻を設定します。カスタムファイル名などの日付 / 時刻に反映します。



□ 自動ログアウト

ScanFront にログインした後、一定時間操作しないときにログアウトする時間を設定します。



! 重要

ユーザー登録せずに本機を使用している場合でも、[自動ログアウト] で指定した待ち時間が経過すると、自動ログアウトは実行されません。

□ SNMP 設定

SNMPv1 および SNMPv3 を使用して ScanFront を管理する場合の各設定を行います。

SNMPv1 および SNMPv3 での設定は、この画面で OK ボタンを押すと反映されます。



SNMPはMIBと呼ばれる管理情報データベースをもとに、ネットワーク上の通信機器を監視・制御するためのプロトコルで、PC を使って本機の状態やエラー情報などを確認することができます。本機はSNMPv1と、セキュリティ機能が強化されたSNMPv3に対応しており、いずれか一方を使用することも、両方を使用することもできます。使用目的や環境に合わせて設定してください。

💡 ヒント

SNMP 管理ソフトウェアを利用できる場合は、PC から本機の設定や監視、制御できます。詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

① SNMPv1 設定



SNMPv1 はコミュニティ名と呼ばれる情報で通信範囲を決定しますが、コミュニティ名は平文でネットワークに流されるため、セキュリティ面では脆弱です。安全性を確保したい場合は SNMPv1 を無効にし、SNMPv3 を利用してください。

! 重要

[SNMP エージェント] と [SNMP セキュリティ-認証トラップ] の設定は SNMPv1 と SNMPv3 で共通です。SNMPv1 で変更すると SNMPv3 にも反映され、同様に SNMPv3 で変更すると SNMPv1 にも反映されます。そのほかの設定は、SNMPv1 と SNMPv3 にそれぞれ独自に設定することができます。

SNMP サービス

SNMPv1 を使用する場合、[ON] に設定します。

SNMP エージェント

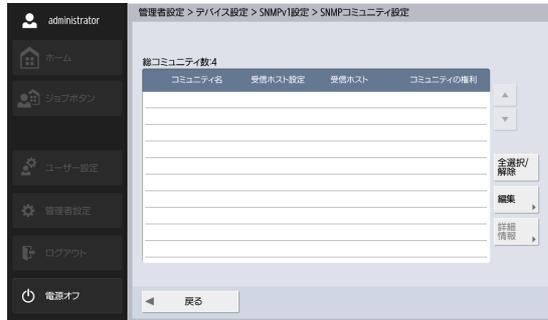


SNMP エージェントの設置場所を入力します。

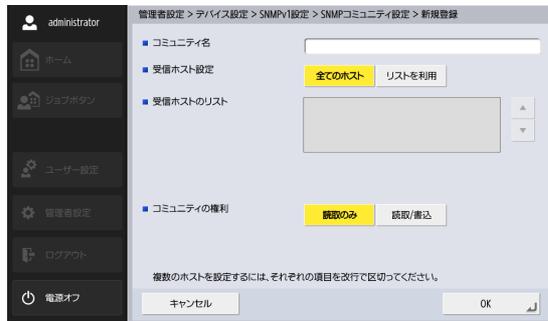
! 重要

SNMPv3 にも同じ設定が反映されます。

SNMP コミュニティ設定



SNMP エージェントへの SNMP 要求の送信が許可される SNMP ホストが属するコミュニティを表示します。SNMP 要求を許可するコミュニティを登録する場合は、[編集] - [新規登録] を押し、コミュニティ名と受信ホスト、コミュニティの権利を設定します。



- **コミュニティ名**
コミュニティ名を入力します（英数半角で 32 文字以内、記号は「-」と「_」のみが使用できます）。
- **受信ホスト設定**
「全てのホスト」を選択すると、「SNMP コミュニティ設定」に登録されているコミュニティに属するすべての SNMP ホストからのパケットを受け付けます。
- **受信ホストのリスト**
「受信ホスト設定」で「リストを利用」を選択した場合、SNMP パケットを受け付けるホストの IP アドレスを入力します。

! 重要

受信ホストのリストに default という文字列が含まれていると、すべてのホストを指定すると解釈されますので、注意してください。

💡 ヒント

登録されているコミュニティの設定を変更する場合は、「SNMP コミュニティ設定」画面でコミュニティを選択して [編集] - [変更] を押し、「変更」画面で変更します。

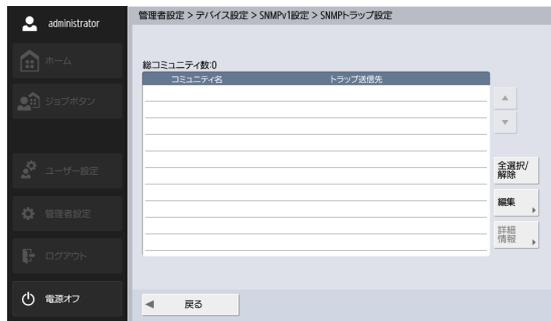
SNMP セキュリティ認証トラップ

[ON] に設定すると、「SNMP コミュニティ設定」に登録されていないコミュニティから SNMP 要求を受けた場合、トラップ送信先にメッセージを送信します。

! 重要

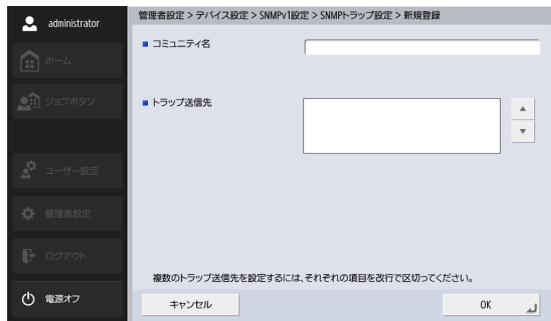
SNMPv3 にも同じ設定が反映されます。

SNMP トラップ設定



SNMP トラップが設定されているコミュニティを表示します。

SNMP トラップを登録する場合は、[編集] - [新規登録] を押し、トラップ送信先に使用されるコミュニティ名と SNMP トラップの送信先を設定します。



② SNMPv3 設定



SNMPv3 を使用すると、強固なセキュリティ機能を持つネットワーク機器管理を実現できます。

! 重要

[SNMP エージェント] と [SNMP セキュリティ認証トラップ] の設定は SNMPv1 と SNMPv3 で共通です。SNMPv1 で変更すると SNMPv3 にも反映され、同様に SNMPv3 で変更すると SNMPv1 にも反映されます。そのほかの設定は、SNMPv1 と SNMPv3 にそれぞれ独自に設定することができます。

SNMP サービス

SNMPv3 を使用する場合、[ON] に設定します。

SNMP エージェント

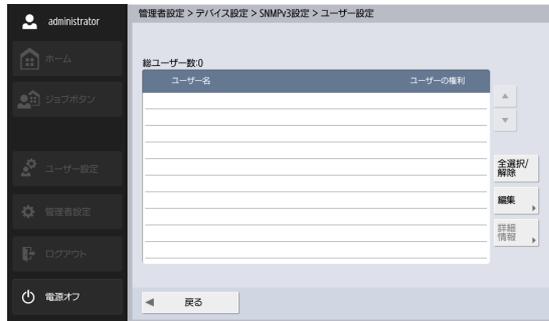


SNMP エージェントの設置場所を入力します。

重要

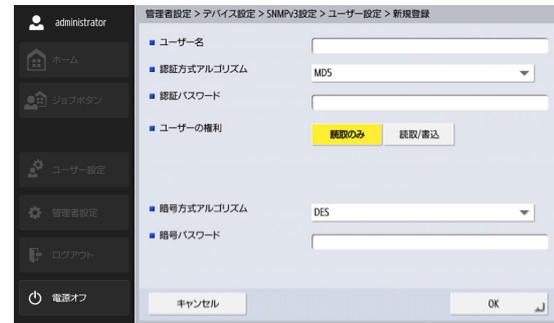
SNMPv1 にも同じ設定が反映されます。

SNMP ユーザー設定



SNMPv3 で利用できるユーザーを表示します。

[編集] - [新規登録] を押し、ユーザーの登録と設定を行います。



ユーザー名

ユーザー名を入力します（英数半角で 32 文字以内、記号は「-」と「_」のみが使用できます）。[トラップ設定] で登録したユーザー名と同じユーザーは登録できません。

認証方式アルゴリズム

認証パスワードの暗号化アルゴリズムを指定します。[MD5] と [SHA1] のいずれかを選択します。

認証パスワード

ユーザー名を認証するためのパスワードを入力します（英数半角で 8 文字以上 16 文字以下、記号は「-」と「_」のみが使用できます）。

ユーザーの権利

ここで登録されたユーザー名でアクセスするとき、読み取りのみ可能か、読み取り・書き込みの両方が可能かを選択します。

- **暗号方式アルゴリズム**

暗号パスワードの暗号化アルゴリズムを指定します。
[DES] と [AES] のいずれかを選択します。

- **暗号パスワード**

送受信データの暗号に使うパスワードを入力します（英数半角で 8 文字以上 16 文字以下、記号は「-」と「_」のみが使用できます）。

SNMP セキュリティー認証トラップ

[ON] に設定すると、「SNMP ユーザー設定」に登録されていないユーザーから SNMP 要求を受けた場合、トラップ送信先にメッセージを送信します。

重要

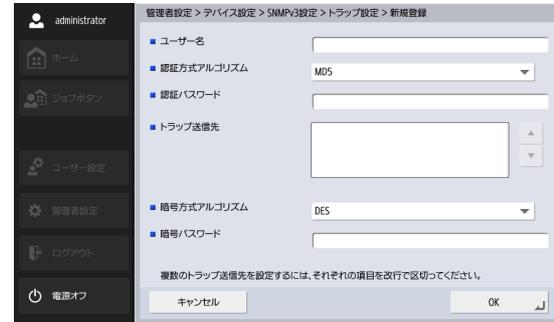
SNMPv1 にも同じ設定が反映されます。

SNMP トラップ設定



SNMP トラップを利用できるユーザーを表示します。

[編集] - [新規登録] を押し、ユーザー登録と設定を行います。



- **ユーザー名**

ユーザー名を入力します（英数半角で 32 文字以内、記号は「-」と「_」のみが使用できます）。[SNMP ユーザー設定] で登録したユーザー名と同じユーザーは登録できません。

- **認証方式アルゴリズム**

認証パスワードの暗号化アルゴリズムを指定します。
[MD5] と [SHA1] のいずれかを選択します。

- **認証パスワード**

ユーザー名を認証するためのパスワードを入力します（英数半角で 8 文字以上 16 文字以下、記号は「-」と「_」のみが使用できます）。

- **トラップ送信先**

トラップを送信する先のホストを設定します。必ず 1 つ以上設定してください。

- **暗号方式アルゴリズム**

暗号パスワードの暗号化アルゴリズムを指定します。
[DES] と [AES] のいずれかを選択します。

- 暗号パスワード

送受信データの暗号に使うパスワードを入力します（英数半角で 8 文字以上 16 文字以下、記号は「-」と「_」のみが使用できます）。

6. 通信設定

通信設定画面では、電子メールで画像を送信するためのメールサーバーの設定、ディレクトリサービスに対応した認証サーバーが用意されているネットワーク環境において、認証サーバーにアクセスするための設定を行います。



① メールサーバー

電子メールの送信に使用しているメールサーバーを設定します。(→ P.133 「メールサーバー」)

② FAX

FAX 送信に使用しているインターネット FAX サービスのプロバイダーを設定します。(→ P.134 「FAX」)

③ 認証サーバー

Active Directory でユーザーアカウントが登録されているドメインサーバー（認証サーバー）を設定します。(→ P.135 「認証サーバー」)

④ アドレス帳サーバー

LDAP サーバーを使用する場合に設定します。(→ P.136 「アドレス帳サーバー」)

⑤ FTP サーバー

FTP サーバーへの送信時に画像ファイルと共にスキャン結果のログを送信する機能を設定します。(→ P.137「FTPサーバー」)

⑥ HTTP プロキシサーバー

共有フォルダーへのファイル送信時にHTTPプロキシサーバーを使用する場合に設定します。(→ P.138 「HTTP プロキシサーバー」)

⑦ FTP プロキシサーバー

FTP プロキシサーバーを経由して外部 FTP サーバーに接続する場合に、経由するプロキシサーバーを設定します。(→ P.138 「FTP プロキシサーバー」)

□ メールサーバー

メール送信を行うためのメールサーバーの設定を行います。

ヒント

ScanFront は、大量のデータを電子メールで送信します。メールサーバーの設定を行うときは必ずお使いのメールシステムの管理者の方に確認の上、設定を行ってください。



● プロトコル

メール送信に使用するプロトコルを選択します。暗号化通信を行う場合、「SMTPS」、「STARTTLS」を選択できます。

ヒント

- 暗号化通信を行う場合は、証明書のインポートが必要です。証明書については「[証明書](#)」(→ P.143)を参照してください。
- 「SMTPS」、「STARTTLS」を選択した場合、「メールサーバー認証方法」は「SMTP 認証」のみ使用できます。
- ホスト名 (アドレス)
SMTP サーバー (送信用) の名称またはアドレスを入力します。

ヒント

「接続テスト」を押すと、入力したホスト名での接続を確認できます。

- ポート番号
ポート番号を変更するときに入力します。標準は25です。
- メールの分割サイズ
メールに添付する画像ファイルが大きくなったときに、画像ファイルを指定したサイズに分割して送信します。

重要

- 10MB 以上の画像ファイルは、1 回では送信できません。
- 送信先のメーラーが添付ファイルの分割に対応していない場合、分割して送信した画像ファイルが結合できない場合があります。このようなときは、添付ファイルの分割を「なし」にし、スキャンを分割して送信してください。
- メールサーバー認証方法
お使いのメールサーバーの認証方法に合わせて設定します。メールサーバーの認証方法についてはメールシステムの管理者にお問い合わせください。

重要

- メールサーバー認証方法で[標準 SMTP]以外を選択した場合、ユーザー毎にメールサーバーで認証を行うための設定を行います。(→ P.102)
- [標準 SMTP]以外を使用する場合は、必ずユーザーを登録して使用してください。
- [POP before SMTP]を選択したときは、使用している POP サーバーのホスト名(またはアドレス)とポート番号、POP 認証後の待ち時間も指定してください。
- [SMTP 認証]を選択した場合は、SMTP 認証の中から、強度の高い認証方式が自動で選択されます。

□ FAX

利用するインターネット FAX サービスに関する次の項目を設定します。

• プロバイダー名

インターネット FAX サービスの利用に際しプロバイダー名の指定が必要な場合に、プロバイダーから連絡されたプロバイダー名を入力します。

• ユーザー名

インターネット FAX サービスの利用に際しユーザー情報の指定が必要な場合に、プロバイダーに登録したユーザー名を入力します。

• パスワード

[ユーザー名] で指定したユーザーのパスワードをここで指定する場合に、[パスワードを変更する] をオンにし、パスワードを入力します。

• To、件名、本文

インターネット FAX サービスに送信するメールの宛先 (To)、件名および本文をそれぞれ入力します。いずれの設定項目も、下記の文字を入力することで、FAX 送信時に所定の文字に置き換えられます。

入力文字	置き換え文字
%n%	画像ファイルの送信時に選択する、アドレス帳に登録された FAX 番号
%h%	プロバイダー名
%u%	ユーザー名
%pw%	パスワード

たとえば、FAX 番号「001112222」、プロバイダー名「FaxService」ユーザー名「SFUser」の場合の置き換え後の文字列は下記ようになります。

入力文字	置き換え文字
%n% @ %h%	001112222@FaxService
FAX 送信のお知らせ (from %u%)	FAX 送信のお知らせ (from SFUser)

□ 認証サーバー

Active Directory または OpenLDAP に対応したドメインサーバーを使用している場合、ドメインサーバーに登録されているユーザーアカウントで ScanFront にログインすることができます。

認証サーバーの設定では、認証サーバーとして使用するドメインサーバーの登録と、アカウント情報にメールアドレスが含まれている場合に、メールアドレスを参照して登録するための設定を行います。

認証サーバーは 4 つまで登録できます。

! 重要

- 認証サーバーを設定した場合、ScanFrontを再起動してScanFrontの表示を更新してください。
- 認証サーバーの利用および設定については、サーバーの管理者に必ず相談してください。



- **認証サーバー**
設定する認証サーバーを選択します。
- **サーバー認証を有効にする**
認証サーバーのユーザーでのログオンを許可する場合にチェックします。
- **SSL 通信を使用する**
認証サーバーとの通信に SSL を使用する場合にチェックします。
- **認証方法**
認証サーバーが採用しているディレクトリサービスに合わせて次のどちらかを選択します。
 - 認証サーバーのディレクトリサービスが OpenLDAP の場合は [Simple] を選択します。
 - 認証サーバーのディレクトリサービスが Active Directory の場合は [Active Directory] を選択します。
- **サーチベース**
認証サーバーに登録されているメールアドレスを参照するためのサーチベースを入力します。

重要

データベースの入力文字列については、システムの管理部門にお問い合わせください。

- **ホスト名 (アドレス)**

認証サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。

ヒント

- 「認証方式」で [Active Directory] を選択した場合は、IP アドレスではなく、完全なドメイン名 (FQDN) を入力してください。IP アドレスでは動作しません。
- [接続テスト] を押すと、入力したホスト名での接続を確認できます。
- **ドメイン**
Active Directory に対応したドメイン名を入力します。
- **ポート番号**
LDAP プロトコルが使用するポート番号を入力します。標準のポート番号は 389 です。

ヒント

「SSL 通信を使用する」が有効の場合、標準のポート番号は 636 になります。

- **ユーザー名**

認証サーバーをアドレス帳サーバーとして使用する場合に、メールアドレスを参照するためのユーザー名を入力します。

- **パスワードを変更する**

上記ユーザーのパスワードを設定する場合は、チェックしてパスワードを入力します。

ヒント

パスワード変更は、ScanFront に保存されるパスワードの情報を更新し、サーバーに登録されているパスワードは変更されません。

サーバー認証を設定すると、ログイン画面に、デバイスとサーバーのどちらで認証するかを選択するリストボックスが追加されます。

□ アドレス帳サーバー

アドレス帳サーバー (LDAP サーバー) を利用する場合に選択し、認証サーバーとアドレス帳サーバーが異なる場合にすべての設定を入力します。

設定項目については「[認証サーバー](#)」(→ P.135) の設定を参照してください。

ヒント

認証サーバーとは別のアドレス帳サーバーを利用する場合、[認証方法] として [Anonymous] を選択できます。

管理者設定 > 通信設定 > アドレス帳サーバー

アドレス帳サーバー: アドレス帳サーバー-1

■ アドレス帳サーバー設定: 使用しない

■ SSL通信を使用する: 有効

■ 認証方法: Anonymous

■ サーチベース: (例) cn=users,dc=country,dc=domain,ou=org_unit

■ ホスト名(アドレス): 接続テスト

■ ドメイン:

1/2

キャンセル OK



□ FTP サーバー

FTP サーバーへの送信時に画像ファイルと共にスキャン結果のログを送信する機能を使用することができます。この機能を有効にすると、画像ファイルを送信するFTPフォルダーに、スキャン結果のログが画像ファイルと同一のファイル名で送信されます。ログファイルの拡張子は .log となります。



□ HTTP プロキシサーバー

共有フォルダーへのファイル送信時にHTTPプロキシサーバーを使用して外部ネットワークに接続する場合 (→ P.73)、使用するプロキシサーバーを設定します。



□ FTP プロキシサーバー

FTP プロキシサーバーを経由することでファイアウォールを越えて外部 FTP サーバーに接続する場合に、経由するプロキシサーバーを設定します。(→ P.138)



ヒント

- FTP プロキシサーバー経由で接続するには、FTPの宛先登録画面 (→ P.75) で、「FTP プロキシを使用する」の【有効】チェックボックスをオンにする必要があります。
- ユーザー名、パスワードが必要なプロキシサーバーには対応していません。

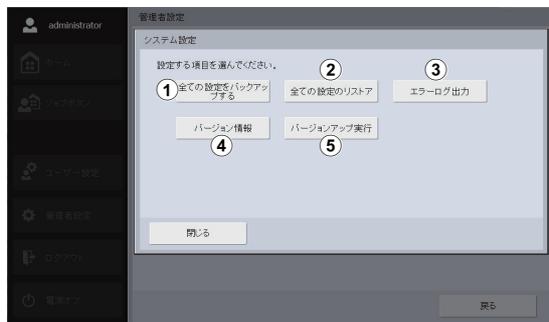


- **ホスト名 (アドレス)**
FTP プロキシサーバーのアドレスを入力します。
- **ポート番号**
FTP プロキシサーバーのポート番号を入力します。

7. システム設定

システム設定画面では、ScanFront の設定情報のバックアップとリストアを行います。

外部の端末のウェブブラウザから ScanFront にアクセスした場合、エラーログのエクスポートと ScanFront のバージョンアップが行えます。アクセス方法については、「[外部の端末のウェブブラウザからのアクセス](#)」(→ P.148)、または「[Web メニューを表示する](#)」(→ P.167) を参照してください。



- ① 全ての設定をバックアップする
ScanFront の設定をバックアップします。(→ P.139「[全ての設定をバックアップする](#)」)
ただし、以下の設定についてはバックアップされません。
 - IP アドレス
 - デバイス名
 - タッチパネル調整値
- ② 全ての設定のリストア
ScanFront の設定をリストアします。(→ P.140「[全ての設定のリストア](#)」)

- ③ エラーログ出力
エラーログをエクスポートします。外部の端末のウェブブラウザからアクセスした場合には表示されます。(→ P.141「[エラーログ出力](#)」)
- ④ バージョン情報
ScanFront の OS およびモジュールのバージョン情報を表示します。
- ⑤ バージョンアップ実行
ScanFront のバージョンアップを実行します。外部の端末のウェブブラウザからアクセスした場合には表示されます。(→ P.141「[バージョンアップ実行](#)」)

□ 全ての設定をバックアップする

ScanFront の設定をバックアップします。

! 重要

以下の設定は、ScanFront 固有の設定になるためバックアップデータには含まれません。

- IP アドレス
- デバイス名
- タッチパネル調整値

1. [全ての設定をバックアップする] を押します。
「バックアップ」画面が表示されます。

2. 保存場所の情報を入力します。



ヒント

- [接続テスト] を押すと、入力したホスト名での接続を確認できます。
- [参照] を押すと、「共有フォルダー」画面が表示され、ホストと共有フォルダーを指定できます。

3. [OK] を押します。

バックアップを開始します。

完了すると、メッセージが表示されます。

4. [はい] を押します。

□ 全ての設定のリストア

バックアップしたデータをScanFrontにリストアします。

重要

リストアを行う前に、「リモート操作を許可する。」(→ P.146) を [ON] に設定してください。[ON] にしないでリストアした場合、言語、タイムゾーン、SNMP 設定などの一部情報が反映されません。

1. [全ての設定のリストア] を押します。

「リストア」画面が表示されます。

2. 保存場所の情報を入力して、バックアップデータを指定します。



ヒント

- [接続テスト] を押すと、入力したホスト名での接続を確認できます。
- [参照] を押すと、「共有フォルダー」画面が表示され、バックアップデータを指定できます。

3. [OK] を押します。

リストアを開始します。

完了すると、メッセージが表示されます。

4. [はい] を押します。

□ エラーログ出力

障害発生時の全ての情報を、ZIP形式のファイルで外部端末の任意の場所に保存します。



ヒント

- 外部の端末のウェブブラウザからアクセスした場合は表示されます。
- [エラーログ出力] をクリックすると、保存先の指定画面が表示されます。

□ バージョン情報

ScanFront に使用しているモジュールのバージョン情報を表示します。



重要

バージョン情報は、ScanFront に不具合が発生し、サポート窓口にお問い合わせを行う際に必要になります。



□ バージョンアップ実行

本体にアップロードされたバージョンアップ用のファイルを使用して、本体のバージョンアップを行います。



ヒント

外部の端末のウェブブラウザからアクセスした場合は表示されません。



重要

- バージョンアップを行う前に、必ずScanFrontのデータのバックアップを行ってください。
- バージョンアップには時間がかかります。バージョンアップを開始したら、ScanFront が再起動するまで本体には手を触れないでください。
- ネットワークの通信速度が遅い場合、タイムアウトによってバージョンアップに失敗する場合があります。

8. システム管理

システム管理画面では、ログイン画面や表示言語の設定、ネットワークテスト、管理者のパスワードとメールアドレスの設定を行います。



- ① ログインタイプ選択
ユーザーのログイン画面のタイプを設定します。(→ P.32
[ログインタイプ選択])
- ② ネットワークテスト
ScanFront からネットワーク上の他のデバイスと通信できるかどうかを確認します。(→ P.33「ネットワークテスト」)
- ③ 管理者設定
「管理者設定」画面にログインするための管理者パスワードを設定します。(→ P.142「管理者設定」)

□ 管理者設定

管理者のパスワードとメールアドレスを設定します。



- 管理者パスワード
管理者パスワードを変更する場合は、[パスワードを変更する] をチェックして、新しいパスワードを入力します。
- 管理者メールアドレス
管理者のメールアドレスを登録します。

! 重要

送信したメールがアドレスのミスなどによりエラーになった場合、メールサーバーからのエラー通知は管理者のメールアドレスに配信されます。

9. 証明書

ScanFront にインポートされている証明書を表示します。



下記のプロトコルを使用した通信のためにScanFrontにインポートした証明書を表示します。

対応プロトコル：LDAP、SMTPS、STARTTLS、FTPS(Explicit モード /Implicit モード)、WebDAV over SSL

! 重要

証明書のインポートは、外部の端末のウェブブラウザからScanFront にアクセスして証明書画面を開き、表示されている[証明書のインポート]で行います。

💡 ヒント

- 外部の端末のウェブブラウザからのアクセス方法については、[「外部の端末のウェブブラウザからのアクセス」](#) (→ P.148)、または [「Web メニューを表示する」](#) (→ P.167) を参照してください。

- インポートできる証明書は、x509 形式に則った証明書ファイルである必要があります。
- 証明書は 50 個までインポートできます。

□ 証明書の削除

1. 証明書の一覧画面で、削除する証明書を選択します。
2. [削除] を押します。

10. 秘密鍵

ScanFront に登録されている秘密鍵を表示します。



秘密鍵は SFTP でスキャン画像を送信する際に使われます。本メニューでは、SFTP サーバーに公開鍵認証用に登録された公開鍵とペアとなる秘密鍵を選択してください。

重要

秘密鍵の登録は、外部の端末のウェブブラウザから ScanFront にアクセスして秘密鍵画面を開き、表示されている「ファイル名」で秘密鍵のファイルを指定して行います。

ヒント

- 外部の端末のウェブブラウザからのアクセス方法については、「[外部の端末のウェブブラウザからのアクセス](#)」(→ P.148)、または「[Web メニューを表示する](#)」(→ P.167)を参照してください。
- 秘密鍵は 1 つのみ登録できます。

秘密鍵の削除

[削除] を押すと、秘密鍵が削除されます。

11. 「デバイス動作設定」画面

ディスプレイオフの設定、ローラーカウンターのリセット、パスワードの設定を行います。

「デバイス動作設定」画面は、管理者設定の「デバイス設定」画面から表示させることができます。(→ P.123)



① デバイス詳細設定

ディスプレイオフの設定、ローパワーモードの設定、スキヤナードライバーの縮率の調整についての操作を行います。

② ローラーカウンターリセット

原稿の搬送性が低下してローラーを交換したときにカウンターをリセットします。(→ P.179 「搬送ローラーの交換」の「搬送枚数の確認とカウンターのリセット」)

③ パスワード設定

デバイス設定を制限するためのパスワードを設定します。(→ P.147 「パスワード設定」)

④ Web アプリモードへ

Web アプリモードへの切り替えを行います。外部 / 内部 Web アプリサーバーと連携して本機を使用する場合に使用する機能です。

! 重要

本機を標準モードで使用する場合は、このボタンで本機を Web アプリモードに切り替えないようにご注意ください。本機を Web アプリモードに切り替えて使用する場合は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

⑤ IEEE802.1X 設定

ネットワーク接続に IEEE802.1X 認証を使用する場合に設定します。(→ P.147 「IEEE802.1X 設定」)

⑥ タッチパネル調整

タッチパネルを押した位置と反応する位置がズれている場合、タッチパネルの調整を行います。



💡 ヒント

- [タッチパネル調整]を行うと、再度ログインする必要があります。
- お使いのデバイスによっては [タッチパネル調整] が表示されない場合があります。この場合、タッチパネルは自動調整されます。

□ デバイス詳細設定



- ディスプレイオフまでの待ち時間を設定してください。ScanFront を一定時間操作しなかったときにパネル表示をオフにします。

! 重要

ディスプレイオフでパネルの表示がオフになったときは、パネルを押すと復帰します。

- ローパワーモードまでの待ち時間を設定してください。ScanFront を一定時間操作しなかったときにローパワーモードに移行します。

! 重要

- ローパワーモードに移行するとパネルの表示がオフになり電源ボタンが点滅します。ローパワーモードから復帰するには、電源ボタンを押します。
- スキャンを開始してセットした原稿がなくなったときや、紙詰まりや重送でスキャンが中断しているときに ScanFront がローパワーモードに移行すると、中断する前にスキャンした送信前の原稿はすべて破棄されるので注意してください。
- ローパワーモードから復帰した直後は、しばらく操作ができない時間があります。最大 15 秒ほど待つと操作できるようになります。
- ローパワーモードに移行すると、接続されているすべての USB 機器のバスパワー給電を中止します。ローパワーモードからの復帰後、認識できない機器があった場合は、次にローパワーモードに移行する前にその機器を取り外してください。
- 移行時間を長くすると、消費電力が多くなります。
- リモート操作を許可する。

[ON] にすると、外部の端末のウェブブラウザや ScanFront Administration Tool for SF400 から ScanFront へのアクセスを許可します。(→ P.148)

! 重要

[リモート操作を許可する] を [ON] にした場合、パスワードの入力なしにリモート操作が行えるようになります。セキュリティを確保するために「パスワード設定」画面でデバイスのパスワードも合わせて設定することを推奨します。

- 縮率調整 (%)
搬送ローラーが磨耗すると、スキャン画像が縦方向に伸張されるようになることがあります。この場合は、縮率調整によって画像の伸張を抑えることができます。調整値は -3.0% から 3.0% の範囲で設定できます。

□ パスワード設定

デバイス設定を制限するためのパスワードを設定します。パスワードを設定すると、デバイス設定を行う際にパスワード確認を行います。

💡 ヒント

- 初期状態で、パスワードは製品背面ラベルのパスワード欄に記載された文字列で設定されています。ただし、パスワード欄の記載がないデバイスもあります。この場合、パスワードは設定されていません。
- デバイスのパスワードで保護されるのは、デバイスの IP アドレス、タイムゾーンや Web アプリモードのサーバー URL などデバイス管理に関するデータです。

❗ 重要

- 管理者設定画面内でもデバイスのパスワードが要求される場合があります。
- 製品背面ラベルにパスワード欄があるデバイスは初期状態でパスワードが設定されています。パスワードが設定されている場合は、[リモート操作を許可する] の初期状態は [ON] になっています。

□ IEEE802.1X 設定

IEEE 802.1X 認証を使用する場合、認証方式の選択と設定を行います。

- IEEE 802.1X 認証**
[ON] を選択すると、認証方式 (EAP-TLS、EAP-TTLS、PEAP) が選択可能になります。「EAP-TLS」、「EAP-TTLS」、「PEAP」のいずれかを選択し、必要項目を設定します。
- ログイン名**
認証に必要となるログイン名を入力します。

- **パスワード**
「EAP-TTLS」または「PEAP」のどちらかを選択した場合に、ログイン名に対応したパスワードを入力します。
- **CA 証明書**
「EAP-TLS」または「PEAP」のどちらかを選択した場合に、認証に用いる CA 証明書をインポートします。CA 証明書ファイル (ca_cert.cer) を USB メモリーのルートフォルダーに保存して本機に接続してから [インポート] を押すと、証明書ファイルが読み込まれます。CA 証明書ファイルを更新するときは、[削除] を押して登録済みの証明書ファイルを削除してからインポートし直します。
- **クライアント証明書**
「EAP-TLS」を選択した場合に、認証に用いるクライアント証明書をインポートします。クライアント証明書ファイル (cli_cert.pfx) を USB メモリーのルートフォルダーに保存して本機に接続してから [インポート] を押すと、証明書ファイルが読み込まれます。クライアント証明書ファイルを更新するときは、[削除] を押して登録済みの証明書ファイルを削除してからインポートし直します。
- **TTLS 内部プロトコル**
「EAP-TTLS」を選択した場合に、使用する内部プロトコル (MSCHAPv2 または PAP) を指定します。

□ 外部の端末のウェブブラウザからのアクセス

外部の端末のウェブブラウザから ScanFront にアクセスして、ユーザーやアドレス、ジョブを登録したり、デバイスの設定変更などが行えます。

1. 「リモート操作を許可する。」を [ON] にします。(→ P.146)
2. 外部の端末のウェブブラウザを起動します。
3. URL に次のように入力して、ScanFront にアクセスします。

http://xxx.xxx.xxx.xxx:50080/

* [xxx.xxx.xxx.xxx]には ScanFront の IP アドレスを入力します。
「:」(コロン) の後はポート番号です。

ヒント

- SSL 通信の場合は、「https://xxx.xxx.xxx.xxx:50443/」と入力します。
- SSL 通信を行う際は、ScanFront Administration Tool for SF400 を使用して、正しいサーバー証明書をインポートしてください。(→ P.168) インポートしない場合、ウェブブラウザの動作によってはメニューが正しく動作しないことがあります。
- ポート番号は ScanFront Administration Tool for SF400 で変更が可能です。詳しくは [ポート番号と LXC の状態を変更する] (→ P.169) をご覧ください。

ScanFront のログイン画面が表示されます。

重要

ScanFront へのアクセス中に、アクセスしている外部の端末がスリープ状態になると、スキャン中と誤検知されてしまう可能性があります。外部の端末をスリープさせるときや、スリープを設定した状態で離席するときは、必ず ScanFront にアクセスしているウェブブラウザを終了してください。



ヒント

- 操作履歴のエクスポートは、外部の端末のウェブブラウザからのみ可能です。
- 外部の端末のウェブブラウザからアクセスした場合は、ファイルのダウンロード先／アップロード元に端末のストレージを選択できます。そのため、次の各画面で操作したときに表示されるダイアログ画面が本体で表示される画面と異なります。
 - 「ユーザー管理」、「アドレス帳設定」、「ジョブボタン設定」の各「エクスポート」、「インポート」
 - 「システム設定」の「バックアップ」、「リストア」
- 本体での操作と外部の端末のウェブブラウザからのアクセスでは、「管理者設定」画面で表示される設定項目が一部異なります。
 - 外部の端末のウェブブラウザからのアクセスで表示されない設定項目：
 - 「デバイス設定」の [ScanFront メンテナンス]、[ScanFront 初期化]
 - 「システム設定」 - 「バージョン情報」の一部項目 (OS、Web サービス)
 - 外部の端末のウェブブラウザからのアクセスでのみ表示される設定項目：
 - 「証明書」の [証明書のインポート]
 - 「秘密鍵」の [ファイル名]
 - 「システム設定」の [エラーログ出力]、[バージョンアップ実行]

第6章 ユーザー設定

1. ユーザー設定について.....	151
2. ユーザー管理	152
3. アドレス帳設定	154
宛先の新規登録.....	155
宛先の変更	155
宛先のコピー	155
4. ジョブボタン設定	156
ジョブボタンの新規登録	156
ジョブボタンのコピー	157
ジョブの編集	157
ジョブボタンのエクスポート	157
ジョブボタンのインポート	157

1. ユーザー設定について

「ユーザー設定」では、デバイス認証でログインしたユーザーの情報を変更します。



ヒント

履歴を選択して【詳細情報】を押すと、詳細な履歴情報が表示されます。

- ① **ユーザー管理** (→ P.152 **「ユーザー管理」**)
ユーザー設定を変更します。
- ② **アドレス帳設定** (→ P.154 **「アドレス帳設定」**)
すべてのユーザーが共有して使用する「共有アドレス帳」とユーザーごとに使用する「マイアドレス帳」の登録と管理を行います。
- ③ **ジョブボタン設定** (→ P.156 **「ジョブボタン設定」**)
すべてのユーザーが共有して使用する「共有ジョブボタン」とユーザーごとに使用する「マイジョブボタン」の登録と管理を行います。
- ④ **操作履歴表示**
ログインしているユーザーの操作履歴を表示します。

2. ユーザー管理

「ユーザー管理」画面で、ユーザー情報の編集を行います。

• ユーザー名

登録されたユーザー名が表示されます。ユーザー名を変更する場合は、管理者に連絡してください。

• パスワード変更

[パスワードを変更する] チェックボックスをチェックし、新しいパスワードと確認用のパスワードを入力します。

• メールアドレス

登録されたメールアドレスが表示されます。メールアドレスを変更する場合は、管理者に連絡してください。

• SMTP/POP Before SMTP 認証

管理者が設定するメールサーバーの設定 (→ P.133) で「メールサーバー認証方法」が標準 SMTP 以外に設定されているときに表示され、メールサーバーで認証を行うための「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。

! 重要

- 「パスワード」を入力するときは、[パスワードを変更する] をチェックしてパスワードを入力します。
- サーバー認証でログインしたユーザーの場合、メールアドレスが登録されない場合があります。メールアドレスの設定については管理者にお問い合わせください。

• 初期アドレス帳

ホーム画面から「アドレス選択」画面を開いたときに、「マイアドレス帳」、「共有アドレス帳」のどちらが表示されるかを選択します。

• 初期ジョブボタン

ログイン後にジョブボタン画面を表示させたときに、「マイジョブボタン」、「共有ジョブボタン」のどちらが表示されるかを選択します。

- デバイスログイン後の画面

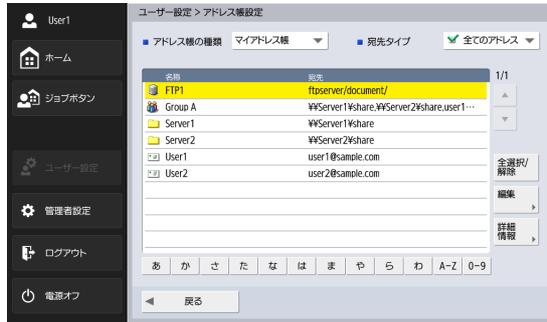
ユーザーがログインしたときに表示させる初期画面を「ホーム画面」、「ジョブボタン画面」から選択します。

! 重要

- ログイン後の初期画面の設定は、スキャンした画像を送信後の動作に反映します。(→ P.80「8. 読取/送信設定」の「送信設定」)
- 管理者によりホーム画面の使用が制限されている場合、「デバイスログイン後の画面」の設定は「ジョブボタン画面」のみの表示になります。詳細については、管理者にお問い合わせください。
- ユーザー自身のメールアドレスに送信
ログインしているユーザーのメールアドレスをアドレス帳に表示させる場合、[はい] に設定します。
ユーザーにメールアドレスが設定されていれば、アドレス帳にユーザーのメールアドレスを登録していなくても表示します。
ユーザーのメールアドレスは、宛先一覧の一番上に表示されます。
- カスタムファイル名設定
「カスタムファイル名設定」画面を表示します。(→ P.103「カスタムファイル名設定」)
- インデックス設定
「インデックス設定」画面を表示します。(→ P.104「インデックス設定」)

3. アドレス帳設定

ユーザー設定の「アドレス帳設定」では、すべてのユーザーが共有して使用する「共有アドレス帳」とユーザーごとに使用する「マイアドレス帳」の登録を行います。



アドレス帳設定画面の詳細については、P.63「6. スキャンの手順について」の「アドレス選択画面について」を参照してください。

重要

管理者により、アドレス帳の編集が制限されている場合、アドレス帳設定は以下ようになります。詳細については、管理者にお問い合わせください。

- 「マイアドレス帳」と「共有アドレス帳」で片方のアドレス帳の編集が制限されている場合、編集が制限されたアドレス帳は宛先のコピーのみ可能で、編集が制限されていないアドレス帳に貼り付けることができます。
- 「マイアドレス帳」と「共有アドレス帳」の両方の編集が制限されている場合、[編集] ボタンが使用不能になります。



□ 宛先の新規登録

送信する宛先がアドレス帳に登録されていないときは、宛先の新規登録を行います。

新規登録の方法については、[P.72](#)「7. 宛先の登録と編集」の「宛先の新規登録」を参照してください。

ヒント

- 共有アドレス帳（マイアドレス帳）に登録できる宛先のは数は、共有ジョブボタン（マイジョブボタン）に含まれる宛先の総数と合わせて 1000 件以下です。
- 上記の件数に於いて、グループはグループに登録される件数（最大 99 件）+ グループ名でカウントされ、宛先が 99 件登録されているグループでは 1 つのグループで 100 件としてカウントされます。
- 宛先は、宛先のタイプ（メール、共有フォルダー、FTP サーバー、FAX、グループ）によって設定項目が変化します。

□ 宛先の変更

宛先に登録されている送信先の情報が間違っている / 変更されていることによって送信エラーになるときは、宛先の変更を行います。

変更の方法については、[P.77](#)「7. 宛先の登録と編集」の「宛先の変更」を参照してください。

□ 宛先のコピー

宛先をコピーして、新しい宛先として登録します。
コピーの方法については、[P.78](#)「7. 宛先の登録と編集」の「宛先のコピー」を参照してください。

ヒント

宛先のコピーは、「共有アドレス帳」と「マイアドレス帳」で相互に宛先をコピーしたり、設定の一部を変更して別の宛先として登録するときに使用します。

4. ジョブボタン設定

ユーザー設定の「ジョブボタン設定」では、すべてのユーザーが共有して使用する「共有ジョブボタン」とユーザーごとに使用する「マイジョブボタン」の登録を行います。



- ① **ジョブボタンの種類**
編集するジョブボタン（共有ジョブボタン、マイジョブボタン）を選択します。
- ② **ジョブボタン一覧**
登録されているジョブボタンを表示します。
- ③ **【全選択 / 解除】ボタン**
ジョブボタンをすべて選択、または選択をすべて解除します。
- ④ **【編集】ボタン**
ジョブボタンの新規登録と編集を行います。
- ⑤ **【詳細情報】ボタン**
ジョブボタンの詳細情報を表示します。

- ⑥ **ジャンプキー**
ジョブボタンの数が多く、ジョブボタン画面に表示されていないジョブボタンを表示させるときに使用し、指定したキーワードでジョブボタンを検索して表示します。

□ ジョブボタンの新規登録

新しいジョブボタンを登録します。
新規登録の方法については、管理者設定の「[ジョブボタンの新規登録](#)」（→ P.116）を参照してください。

□ ジョブボタンのコピー

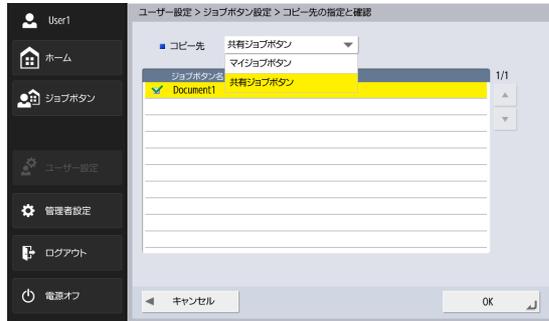
ジョブボタンをコピーして、新しいジョブボタンとして登録します。

コピーの方法については、管理者設定の「[ジョブボタンのコピー](#)」(→ P.119) を参照してください。



ヒント

ユーザー設定のジョブボタン設定の場合、「コピー先の指定と確認」画面で、コピー先のジョブボタンの種類を選択できます。



□ ジョブの編集

登録されているジョブボタンの内容を編集します。

編集の方法については、管理者設定の「[ジョブの編集](#)」(→ P.120) を参照してください。

□ ジョブボタンのエクスポート

ジョブボタンのデータを、指定したフォルダーに dat 形式のファイルで保存します。

エクスポートの方法については、管理者設定の「[ジョブボタンのエクスポート](#)」(→ P.121) を参照してください。

□ ジョブボタンのインポート

エクスポートしたジョブボタンのデータを ScanFront にインポートします。

インポートの方法については、管理者設定の「[ジョブボタンのインポート](#)」(→ P.122) を参照してください。

第7章 ScanFront Administration Tool for SF400

1. ScanFront Administration Tool for SF400 について	159
2. ScanFront Administration Tool for SF400 のインストール	160
動作条件	160
インストール方法	160
3. ScanFront Administration Tool for SF400 の初期設定	162
ScanFront Administration Tool for SF400 を起動する	162
ScanFront を登録する	162
4. ScanFront の管理	164
ScanFront を選択する	164
ScanFront の状態を確認する	164
パスワードを入力する	165
IP アドレスまたはデバイス名を変更する	166
ScanFront の詳細情報を確認する	166
Web メニューを表示する	167
一括処理	167
管理データのエクスポート／インポート	169
メイン画面の表示 / 非表示	170

1. ScanFront Administration Tool for SF400 について

ScanFront Administration Tool for SF400 は、複数の ScanFront をまとめて管理するためのソフトウェアです。ScanFront が接続されているネットワーク上にあるコンピューターにインストールして使用します。

重要

ScanFront Administration Tool for SF400 を使用する際は、「リモート操作を許可する。」を [ON] に設定してください。(→ P.146)

ScanFront Administration Tool for SF400 を使用すると、同じネットワーク上にある ScanFront に対して次の操作ができます。

- ScanFront の現在の状態や、ネットワーク設定情報の確認
- ScanFront の設定
- 接続の確認
- ソフトウェアの更新
- 設定データのバックアップ／リストア
- ユーザーデータのインポート／エクスポート

ヒント

ScanFront Administration Tool for SF400 を使用する際は、PC と ScanFront 400 の「日付 / 時刻の設定」を一致させてください。PC と ScanFront の「日付 / 時刻の設定」をグリニッジ標準時に変換したときに、一致するように設定してください。

2. ScanFront Administration Tool for SF400 のインストール

□ 動作条件

ScanFront Administration Tool for SF400は、ScanFront が接続されているネットワーク上にある、下記の要件を満たすコンピュータにインストールします。

OS :

- Microsoft Windows Server 2016 (64 ビット)
- Microsoft Windows Server 2019 (64 ビット)
- Microsoft Windows Server 2022 (64 ビット)
- Windows 10 (32 ビット /64 ビット)
- Windows 11 (64 ビット)

2023 年 12 月現在の環境です。

最新のソフトウェアサポート状況はキヤノンホームページの製品ページをご参照ください。

その他 :

- .NET Framework 4.5 以降

□ インストール方法

1. 取扱説明書 / アプリケーションディスクをコンピューターの CD/DVD/BD ドライブにセットします。

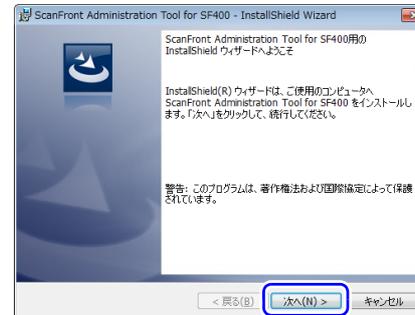
2. ScanFront Administration Tool for SF400 のインストーラーを起動します。

WindowsエクスプローラーなどでCD-ROMの下記のフォルダーにあるインストーラーを参照し、ダブルクリックして起動してください。

Q: ¥AdministrationTool¥setup.exe

(「Q:」は CD-ROM ドライブのドライブ文字)

3. [次へ] をクリックします。



4. 「使用許諾契約の条項に同意します」を選択してから [次へ] をクリックします。

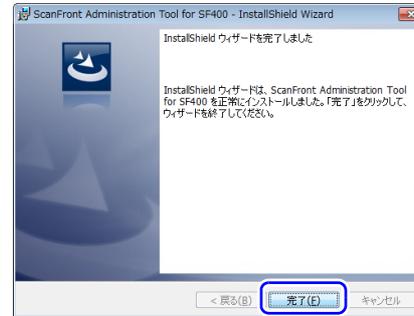


5. [インストール] をクリックします。



インストールが開始します。インストール処理が終わると、インストールが完了したことを知らせる画面が表示されます。

6. [完了] をクリックします。



3. ScanFront Administration Tool for SF400 の初期設定

□ ScanFront Administration Tool for SF400 を起動する

スタートボタンをクリックし、[すべてのプログラム] – [ScanFront Administration Tool for SF400] – [ScanFront Administration Tool for SF400] をクリックします。ScanFront Administration Tool for SF400 が起動します。



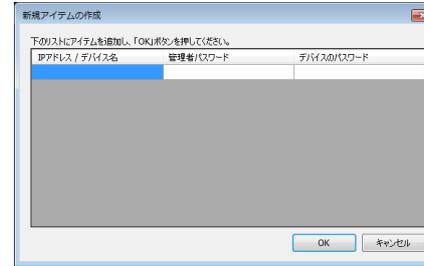
ScanFront Administration Tool for SF400 を終了するには

[ファイル] メニューの [閉じる] をクリックします。

□ ScanFront を登録する

ScanFront Administration Tool for SF400 で ScanFront を管理できるように、次の手順で ScanFront を ScanFront Administration Tool for SF400 の一覧に追加します。

1. [編集] メニューの [追加] をクリックします。
[新規アイテムの作成] ウィンドウが表示されます。



2. 登録する ScanFront の情報を入力します。

- [IP アドレス / デバイス名] に、ScanFront の IP アドレスを入力します。
- ScanFront に管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを [管理者パスワード] に入力します。
- ScanFront にデバイスのパスワードを設定している場合は、デバイスのパスワードを [デバイスのパスワード] に入力します。
- ScanFront の IP アドレスを入力した時点で、入力欄が下に 1 つ追加されます。複数の ScanFront の情報を入力できます。



ヒント

製品背面ラベルにパスワード欄があるデバイスは初期状態でパスワードが設定されています。デバイスごとに異なるパスワードが設定されていますのでご注意ください。

3. [OK] をクリックします。

ScanFront Administration Tool for SF400 の一覧に、登録した ScanFront が追加されます。



デバイスのパスワードが間違っって入力された場合、「他のユーザーが使用中です」のエラーメッセージが表示されることがありますのでご注意ください。

登録されている ScanFront を削除するには

ScanFront Administration Tool for SF400 の一覧で、削除する ScanFront の行の先頭のチェックボックスをオンにしてから、[編集]メニューの[削除]をクリックします。

4. ScanFront の管理

ScanFront Administration Tool for SF400 に登録されている ScanFront に対して、管理者パスワードとデバイスのパスワードの変更や接続の確認、ユーザー管理などの操作ができます。



□ ScanFront を選択する

ScanFront Administration Tool for SF400 で ScanFront を管理するときは、管理の対象となる ScanFront を選択します。一覧に表示されている ScanFront の行頭のチェックボックスをオンにすることで、ScanFront の選択ができます。[すべて選択] ボタンをクリックすると、一覧上のすべての ScanFront を一度にまとめて選択できます。逆にすべての選択を解除するには、[すべて選択解除] ボタンをクリックします。

□ ScanFront の状態を確認する

一覧で ScanFront を選択してから、[接続を確認する] ボタンをクリックすると、選択された ScanFront の接続状態や情報が、以下のように表示されます。

【状態】

正常に接続された場合、「通信可能」と表示されます。

【ローラーカウンター】

ローラーを交換し、カウンターをリセットしてから原稿を搬送した枚数が表示されます。

【総スキャン枚数】

原稿をスキャンした総数が表示されます。

【サーバーアドレス】

ScanFront の動作モード（標準モード、Web アプリモード、未接続）が表示され、Web アプリモードで動作している場合は接続先のサーバーのアドレスが表示されます。サーバーのアドレスをダブルクリックすると、[プロキシサーバー] ダイアログボックスが表示され、プロキシサーバーのアドレスと現在の設定内容を確認できます。

【ディスプレイオフまでの待ち時間】

ディスプレイオフになるまでの待ち時間が表示されます。

【ローパワーモードまでの待ち時間】

ローパワーモードに切り替わるまでの待ち時間が表示されます。

【Web アプリケーション】

Web アプリケーションのバージョンが表示されます。ScanFront から一度も接続を確認していない場合は「未接続」と表示されます。

Web アプリモードでの動作時は、Web アプリケーションのバージョンを取得できないため、以下のように表示されます。

バージョン取得後に Web アプリモードに切り替わった場合：「最後に取得したバージョンの数値 (Web アプリモード)」

バージョンを取得する前に Web アプリモードに切り替わっていた場合：「未接続 (Web アプリモード)」

【OS】

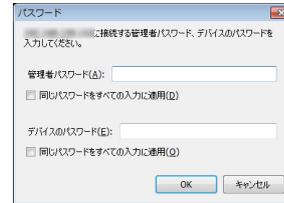
OS のバージョンが表示されます。

【Web サービス】

Web サービスのバージョンが表示されます。

□ パスワードを入力する

一覧に表示されている ScanFront の行頭のチェックボックスをオンにしてから、[パスワードを入力する] ボタンをクリックすると、[パスワード] ダイアログボックスが表示され、ScanFront Administration Tool for SF400 に登録されている管理者パスワードとデバイスのパスワードを変更できます。



新しい管理者パスワードとデバイスのパスワードを入力してから [OK] をクリックすると、[パスワード] ダイアログボックスが閉じ、ScanFront Administration Tool for SF400 に登録されている管理者パスワードとデバイスのパスワードが変更されます。

💡 ヒント

複数の ScanFront を選択していたときは、一覧上の最初の ScanFront のパスワードを変更するダイアログボックスが表示され、[OK] をクリックすると次の ScanFront のパスワードを変更するダイアログボックスが表示されます。すべての ScanFront に対して同じパスワードを設定するには、[同じパスワードをすべての入力に適用] チェックボックスをオンにしてから [OK] をクリックします。

□ IP アドレスまたはデバイス名を変更する

一覧の ScanFront をダブルクリックすると、[IP アドレス / デバイス名] ダイアログボックスが表示され、ScanFront の IP アドレスまたはデバイス名を変更できます。



IP アドレスまたはデバイス名を入力してから [OK] をクリックすると、ダイアログボックスが閉じ、指定した IP アドレスまたはデバイス名が適用されます。

□ ScanFront の詳細情報を確認する

一覧に追加された ScanFront ごとに表示されている [詳細情報を見る] ボタンをクリックすると、[詳細情報] ウィンドウが表示されます。

重要

この操作は、ScanFront Administration Tool for SF400 が接続できない ScanFront に対して行うことはできません。

ヒント

[詳細情報を見る] ボタンは、Web アプリモードでは使用できません。



[詳細情報] ウィンドウには、ScanFront に登録されているユーザーの一覧が表示されます。

ウィンドウ上の次のボタンで、ScanFront に登録されているユーザーを操作できます。

- 各ユーザーの行頭のチェックボックスをオンにすることで、操作の対象となるユーザーを選択できます。[すべて選択] (または [すべて選択解除]) をクリックすると、すべてのユーザーを一度にまとめて選択 (または選択解除) できます。
- [バックアップ] をクリックすると、一覧で選択されているユーザーの設定データをコンピューターの任意の場所にバックアップできます。
- [削除] をクリックすると、一覧で選択されているユーザーが削除されます。
- [バージョン情報] をクリックすると、ScanFront のバージョン情報やカウンター枚数を表示できます。
- [閉じる] をクリックすると、[詳細情報] ウィンドウが閉じます。

□ Web メニューを表示する

一覧で ScanFront を選択してから、[Web メニューを開く] ボタンをクリックすると、ウェブブラウザが起動し、選択された ScanFront の Web メニューが表示されます。

! 重要

- Internet Explorer の互換表示は動作保証外です。互換表示で Web メニューにアクセスすると、画面が正しく表示されない、または操作が終了しないなどの現象が発生します。Internet Explorer で Web メニューにアクセスする場合は、Web メニューの URL が互換表示に設定されていないかご確認ください。
- Web メニューに SSL 通信でアクセスする際、ScanFront が例外サイトに登録されていても、エラーが発生してアクセスできないことがあります。この場合は、アクセスする URL と同じ CN や SAN を持つサーバー証明書を ScanFront にインポートし、同じ証明書またはサーバー証明書を発行したルート証明書のルート証明書を、ウェブブラウザの [信頼されたルート証明機関] (Internet Explorer の場合) にインポートしてください。

ヒント

[Web メニューを開く] ボタンは、Web アプリモードでは使用できません。

□ 一括処理

一覧で ScanFront を選択してから、[処理] メニューの各コマンドをクリックすることで、選択された ScanFront に対して同じ操作を一括処理できます。

[処理] メニューには、次のコマンドがあります。

[全ての設定のリストア]

● 一つのファイルをリストア

コンピューターに保存されている 1 つのバックアップデータを読み込み、選択されたすべての ScanFront をリストアします。

● 複数ファイルをデバイスごとにリストア

個々の ScanFront のバックアップデータをコンピューターの 1 つのフォルダーにあらかじめまとめておき、フォルダーを指定することで、フォルダー内のバックアップデータのファイル名に含まれる IP アドレスまたはデバイス名に一致する ScanFront をリストアします。

[複数ファイルをデバイスごとにリストア] を実行するとダイアログボックスが表示され、選択された ScanFront に対応するバックアップデータが一覧表示されます。[OK] をクリックするとリストアを実行します。

ヒント

- 一覧中のバックアップデータのチェックを外すと、リストア対象から除外されます。
- バックアップデータは次の名前のファイルに作成されます。
allsettings_<IP アドレスまたはデバイス名>_<日付>.dat
同じ IP アドレスまたはデバイス名をファイル名に持つバックアップデータが複数存在する場合は、日付が最新のバックアップデータがリストアに使用されます。
- [全ての設定のリストア] は、Web アプリモードでは使用できません。
- バックアップデータには管理者パスワードが含まれていますが、デバイスパスワードは含まれていません。

！ 重要

- バックアップデータは、必ず ScanFront Administration Tool for SF400 の [全ての設定をバックアップする] で作成してください。ScanFront 本体や Web メニューで作成したバックアップデータはファイル名の命名規則が異なるため、本機能でのリストアには使用できません。
- バックアップデータのファイル名は変更しないでください。
- ScanFront のバックアップデータは、1 つのフォルダーの同一階層に置いてください。
- IP アドレスをベースにデバイス管理を行っているため、DHCP サーバーによって IP アドレスが変更されている場合、別の ScanFront のバックアップファイルと取り違えることがありますので、注意してください。

[全ての設定をバックアップする]

選択されている ScanFront のバックアップデータを、コンピューターの任意の場所に保存します。

💡 ヒント

- 設定可能なすべての項目がバックアップ、リストアされますが、下記の項目はバックアップ、リストアされません。
 - 「デバイスのネットワーク設定」画面の全設定項目
 - 日付 / 時刻
 - 「デバイス動作設定」画面の全設定項目
 また、[全ての設定をバックアップする] は、Web アプリモードでは使用できません。
- ScanFront のバージョンアップ後は、最新の ScanFront Administration Tool for SF400 を使用しないと、バックアップ / リストア機能が動作しません。最新バージョンにアップデートしてご使用ください。
- バックアップデータには管理者パスワードが含まれていますが、デバイスパスワードは含まれていません。

[ユーザーデータのインポート]

コンピューターに保存されている ScanFront のユーザーデータを読み込み、選択されたすべての ScanFront に登録します。

💡 ヒント

[ユーザーデータのインポート] は、Web アプリモードでは使用できません。

[ユーザーデータをエクスポート]

選択されている ScanFront のユーザーデータを、コンピューターの任意の場所に保存します。

💡 ヒント

[ユーザーデータをエクスポート] は、Web アプリモードでは使用できません。

[サーバー証明書のインポート]

- ScanFront の証明書 (Web アプリモードの機能)
 - リモート操作などに使用される ScanFront の SSL 証明書をインポートします。リモート操作を SSL 通信で実施する場合、信頼された証明書を ScanFront にインポートしてください。
 - SSL 証明書の形式 : pfx
- Web アプリの証明書
 - ScanFront Web SDK を使用する際に使用する証明書をインポートします。
 - 証明書の形式 : pem, der, cer

[バージョンアップ実行]

コンピューターに保存されている ScanFront のファームウェアを読み込み、選択されたすべての ScanFront のバージョンを更新します。

! 重要

ネットワークの通信速度が遅い場合、タイムアウトによってバージョンアップに失敗する場合があります。

【再起動】

ScanFront を再起動します。

【デバイス詳細設定】

ディスプレイオフ、ローパワーモードまでの待ち時間を設定できます。

! 重要

バージョン 2.0 以降の ScanFront Administration Tool for SF400 では、エナジースター 3.0 に対応しているため、ローパワーモードの上限は 120 分です。移行時間を長くすると、消費電力が多くなります。

【ポート番号と LXC の状態を変更する】(Embedded SDK の機能)

Web アプリ、カスタム LXC のポート番号と、カスタム LXC の ON/OFF を指定できます。

【カスタム LXC】(Embedded SDK の機能)

- **カスタム LXC を使用する**
カスタム LXC の ON を指定できます。
- **カスタム LXC を使用しない**
カスタム LXC の OFF を指定できます。
- **内部 Web アプリを使用する**
内部 Web アプリの ON を指定できます。
[内部 Web アプリを使用する] を実行し、表示されるダイアログボックスで ScanFront が参照する先の内部サーバーアドレスを入力し、[OK] をクリックします。
- **内部 Web アプリを使用しない**
内部 Web アプリの OFF を指定できます。

! 重要

Web アプリのポート番号を変更すると、外部の端末のウェブブラウザから ScanFront にアクセスする URL も変更されます。詳しくは「[外部の端末のウェブブラウザからのアクセス](#)」(→ P.148)をご覧ください。

【外部 Web アプリを使用する】

標準モードで動作している ScanFront を Web アプリモードに切り替えます。

[外部 Web アプリを使用する] を実行し、表示されるダイアログボックスで ScanFront が参照する先のサーバーアドレスを入力し、必要に応じてプロキシサーバーアドレスを入力してから、[OK] をクリックします。

! 重要

誤った URL を設定すると、設定したすべての機械で操作不能に陥る場合があります。十分なテストの上で実施してください。

【外部 Web アプリを使用しない】

Web アプリモードで動作している ScanFront を標準モードに切り替えます。

□ 管理データのエクスポート／インポート

ScanFront Administration Tool for SF400 の管理データをコンピューターの任意の場所にエクスポートしたり、エクスポートされた管理データをインポートできます。

管理データをエクスポートするには

[ファイル] メニューの [エクスポート] をクリックし、表示されるダイアログボックスで管理データの保存先とファイル名を指定してから [保存] をクリックします。

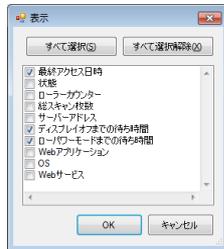
管理データをインポートするには

[ファイル] メニューの [インポート] をクリックし、表示されるダイアログボックスで管理データの保存先とファイル名を指定してから [開く] をクリックします。

□ メイン画面の表示 / 非表示

[ウィンドウ] メニューの [表示] をクリックし、表示されるダイアログボックスで、メイン画面の項目の表示 / 非表示を切り替えることができます。表示する項目をチェックして [OK] をクリックすることでメイン画面に反映されます。

ただし「IP アドレス / デバイス名」、「詳細情報」、「Web メニューを開く」は非表示にできません。



第 8 章 メンテナンス

1. 日常のお手入れ	172
本体の清掃	172
タッチパネルの清掃	172
読み取りガラスとローラーの清掃	173
分離ローラーの清掃	175
給紙ローラーの清掃	177
2. 搬送ローラーの交換	179
交換ローラーキットについて	179
搬送枚数の確認とカウンターのリセット	180

1. 日常のお手入れ

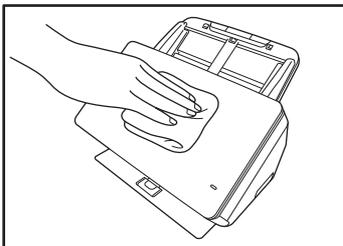
読み取り性能を維持するために、以下のような日常の清掃を行ってください。

⚠ 注意

- 本機を清掃する際は、水や中性洗剤を直接スプレーしないでください。光源などの精密機器が破損する恐れがあります。
- タッチパネルの清掃には、シンナーやアルコールなどの有機溶剤はけっして使用しないでください。タッチパネルが変形、変色したり溶解する恐れがあり、故障の原因になります。

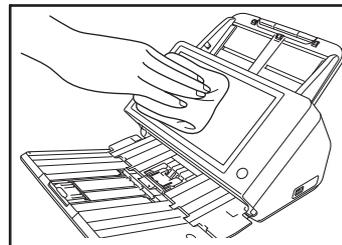
□ 本体の清掃

本体表面は、水を染み込ませ固くしぼった布で汚れを落としたあと、きれいな乾いた布で拭きます。



□ タッチパネルの清掃

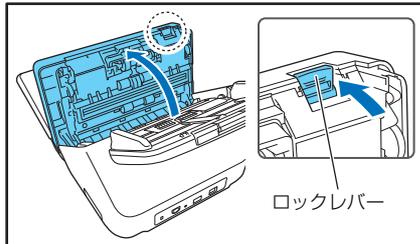
タッチパネルの清掃は、柔らかい乾いた布でパネルの表面に圧力を加えないように軽く拭いてください。



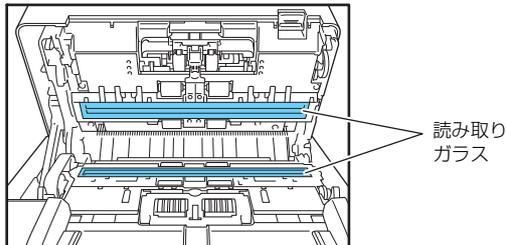
□ 読み取りガラスとローラーの清掃

スキャンした画像にすじが入ったり、スキャンした原稿が汚れていたりする場合には、本体内部にある読み取りガラスやローラーが汚れている可能性があります。以下の手順にしたがって定期的に清掃をおこなってください。

1. ロックレバーを手前に引いて、パネルユニットを止まるところまで開きます。



2. ブロアーなどを使って、本体内部にたまったほこりや紙粉を取り除きます。
3. きれいな乾いた布で読み取りガラスの汚れを拭き取ります。



💡 ヒント

読み取りガラスは表面用と裏面用に二つあります、両方ともきれいに拭いてください。

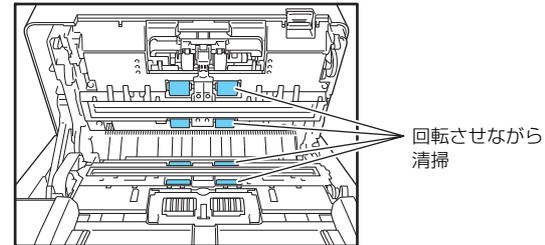
⚠️ 注意

水や中性洗剤を直接スプレーしないでください。光源などの精密機器が破損する恐れがあります。

❗ 重要

読み取りガラスにキズがあるとスキャンした画像にすじが入ったり、搬送エラーの原因になります。読み取りガラスにキズがあるようなときは、お買い求めの販売店にご相談ください。

4. 水を含ませて固くしぼった布で搬送ローラーの汚れを拭き取ります。



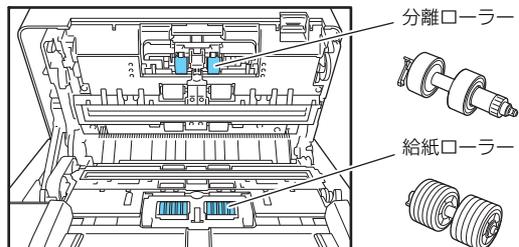
❗ 重要

搬送ローラーは回転させながら汚れを拭き取ってください。

5. 分離ローラーと給紙ローラーを取り外して汚れを拭き取ります。

→ P.175 「分離ローラーの清掃」

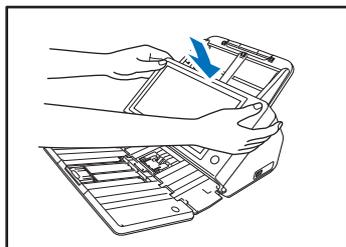
→ P.177 「給紙ローラーの清掃」



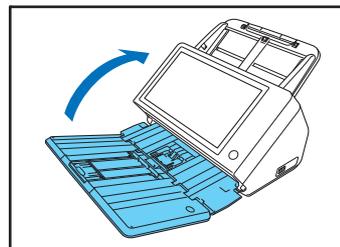
! 重要

分離ローラーと給紙ローラーは、本体から取り外して清掃し、清掃が終わったら本体に戻してください。

6. パネルユニットをゆっくり閉じます。そして、ユニットの両側を押し、カチッと音がしてロックされたことを確認します。



7. 排紙トレイを静かに閉じます。



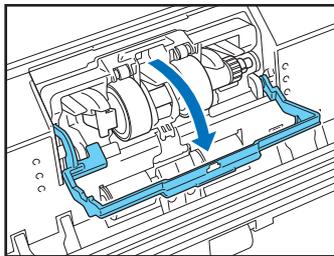
□ 分離ローラーの清掃

分離ローラーの清掃および交換の際は、以降の手順にしたがってローラーの取り外し、取り付けを行ってください。

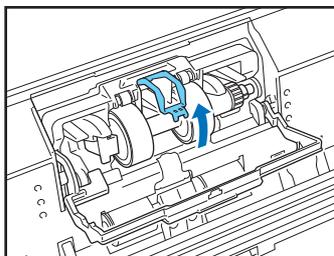
! 注意

分離ローラーの取り外し、取り付けを行うときには、ローラーに無理な力を加えないでください。ローラーの変型による搬送エラーの原因になります。

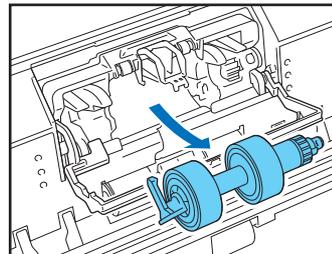
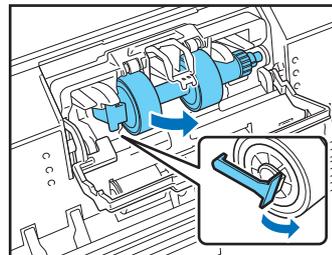
1. ローラーカバーを開きます。



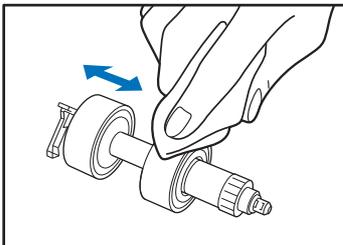
2. 原稿検知レバーを持ち上げます。



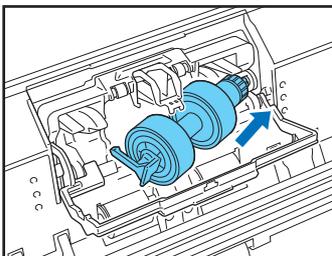
3. 分離ローラーをスキャナーに固定している左側のレバーを引いて分離ローラーを取り外します。



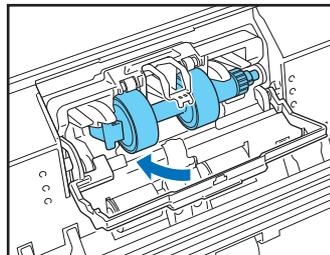
4. 水を含ませて固くしぼった布で、取り外したローラーの汚れを拭きとります。



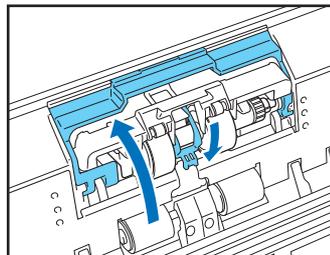
5. 清掃した分離ローラーの右側を先にスキャナーに取り付けます。



6. 分離ローラーの左側を押して、スキャナーに固定します。



7. 原稿検知レバーを下げ、ローラーカバーを閉じます。



□ 給紙ローラーの清掃

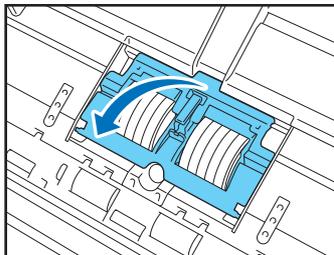
給紙ローラーの清掃および交換の際は、以降の手順にしたがってローラーの取り外し、取り付けを行ってください。



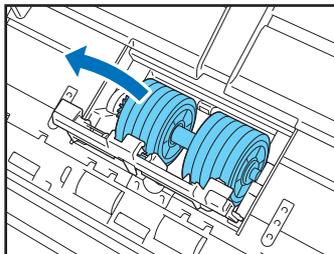
注意

給紙ローラーの取り外し、取り付けを行うときは、ローラーに無理な力を加えないでください。ローラーの変型による搬送エラーの原因になります。

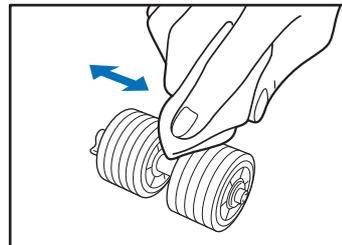
1. ローラーカバーを開きます。



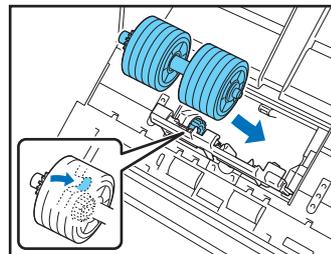
2. 給紙ローラーを取り出します。



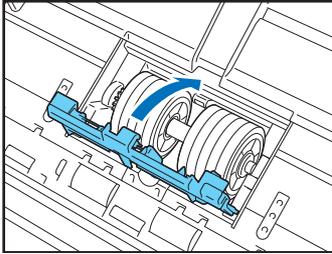
3. 水を含ませて固くしぼった布で、取り外したローラーの汚れを拭きとります。



4. 給紙ローラーを取り付けます。



5. ローラーカバーを閉じます。



2. 搬送ローラーの交換

搬送ローラーが磨耗してくると、紙詰まりなど原稿の搬送エラーが起きやすくなります。

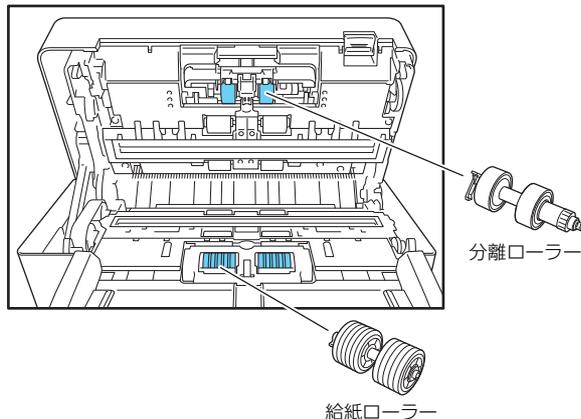
ローラーの清掃を行っても原稿の搬送エラーの発生が改善されないようなときは、交換ローラーキットをお買い求めになり搬送ローラー（給紙ローラー、分離ローラー）を交換してください。

□ 交換ローラーキットについて

交換ローラーキットは、給紙ローラーと分離ローラーの交換用キットです。詳細についてはお買い求めの販売店または担当サービスにお問い合わせください。

商品名：交換ローラーキット

商品コード：5595C001



! 重要

- 搬送ローラーは消耗品です。搬送枚数（スキャナーで給紙した原稿の総ページ数）が耐用枚数を超えた場合は、交換ローラーキットをお買い求めのうえ、キットに含まれる消耗品（給紙ローラーと分離ローラー）に交換してください。（→ P.180 「搬送枚数の確認とカウンターのリセット」）
- ローラーが磨耗してくると紙詰まりや原稿が正しく給紙されないなどの不具合が起きやすくなります。このようなときはスキャン枚数に関わらず、ローラーの交換を行ってください。
- 搬送ローラーの交換後は、ローラーカウンターをリセットしてください。
- ローラーの交換は、ローラーの清掃手順を参考に行ってください。（→ P.175、P.177）

□ 搬送枚数の確認とカウンターのリセット

搬送枚数の確認は ScanFront 本体の管理者設定画面の「ローラーカウンターリセット」画面で確認します。

! 重要

ローラーカウンターは、交換したローラーの搬送枚数をカウントします。ローラーを交換したときは、カウンターのリセットを必ず行ってください。

1. 「管理者設定」画面にログインします。



2. [デバイス設定] - [ScanFront メンテナンス] - [ローラーカウンターリセット] ボタンを押して[ローラーカウンターリセット] 画面を表示します。



ローラーカウンターリセット画面



総スキャン枚数

ScanFront が原稿を搬送したトータルカウンター

前回のローラー交換からのスキャン枚数

ローラーを交換し、カウンターをリセットしてから原稿を搬送した枚数

3. [リセット]ボタンを押して、カウンターをリセットします。



4. [閉じる]を押して、管理者設定画面からログアウトします。

第9章 こんなときは

- 1. 困ったときは 183
- 2. エラーメッセージ 188
- 3. ScanFront の初期化 192

1. 困ったときは

以下のようなときは、それぞれの対処方法に合わせて処理を行ってください。

ネットワーク、その他の設定		
LDAP アドレス帳が使えない (特定のユーザーのみ)	原因	管理者により LDAP アドレス帳の使用が制限されている。
	対処方法	ScanFront の管理者にお問い合わせください。
LDAPs、SMTPS、FTPS、WebDAV over SSL などのサーバーと、接続設定が正しいにも関わらず通信できない	原因	証明書がインポートされていない。
	対処方法	サーバー管理者に問い合わせて対応する証明書をインポートしてください。
	原因	ScanFront の時計がずれている。
	対処方法	時計を合わせてください。
共有フォルダーにアクセスできない	原因	共有フォルダーのある PC と ScanFront で時計がずれている。
	対処方法	時計を合わせてください。
設定が更新できない	原因	ScanFront を使用中または、ユーザーがログアウトしていない。
	対処方法	ScanFront 本体の状態を確認してからやり直してください。
新しいフォルダーを作成できない。(共有フォルダー / FTP サーバー)	原因	入力したユーザー名、パスワードに共有フォルダーへの書き込み権限がない。
	対処方法	共有フォルダーの管理者にお問い合わせください。
宛先にメールアドレスを指定してスキャンを開始するとエラーになる	原因	メールサーバーの設定が未登録または、メールサーバーの設定が削除されている。
	対処方法	ScanFront の管理者にお問い合わせください。
電子メールが送信できない	原因	1 回の送信で 10MB 以上の画像ファイルを送信しようとしている。
	対処方法	画像ファイルが 10MB 以下になるように、スキャンする原稿を減らしてください。
FTP サーバーにファイルを送信できない	原因	パッシブモードを使用せずに送信している。
	対処方法	FTP の登録画面でパッシブモードに設定してください。(→ P.75)
アドレス帳 / ジョブボタンが編集できない (特定のユーザーのみ)	原因	管理者によりアドレス帳 / ジョブボタンの編集が制限されている。
	対処方法	ScanFront の管理者にお問い合わせください。

アドレス帳の表示が正しくソートされない	原因	アドレスの「ふりがな」が正しく登録されていない。
	対処方法	アドレス帳の表示はふりがなでソートされます。宛先に登録されている「ふりがな」を確認してください。
共有フォルダーのみなど、特定の送信先しか選択できない（特定のユーザーのみ）	原因	管理者により使用できる送信先が制限されている。
	対処方法	ScanFront の管理者にお問い合わせください。
社外からアクセスできる FTP サーバーに接続できない	原因	ファイアウォールが原因です。
	対処方法	ファイアウォールの設定を変更して外部の FTP サーバーにアクセス可能にするか、FTP プロキシサーバーを使用してください。(→P.138)
電子メールの送信先で受け取ったメールの送信時間がずれている	原因	(1) 日時の設定が間違っている (2) タイムゾーンの設定が他国の設定になっている。
	対処方法	管理者に連絡して「言語 / タイムゾーン」の設定を確認してください。(→P.123)
電子メールの送信先で送信元のアドレスが表示されない	原因	ユーザーと管理者のメールアドレスが未登録。(→P.101、P.142)
	対処方法	管理者に連絡してメールアドレスを登録してください。
ネットワークに接続できない (IP アドレスの競合)	原因	設定した IP アドレスがすでに他のデバイスで使用されている。
	対処方法	ネットワークのシステム管理者に連絡して IP アドレスの設定を変更してください。
ネットワークに接続できない (LAN ケーブルの配線)	原因	LAN ケーブルの配線ミス。
	対処方法	LAN ケーブルの接続を確認してください。
ネットワークに接続できない (デバイス名の競合)	原因	設定したデバイス名がすでに他のデバイスで使用されている。
	対処方法	ネットワークのシステム管理者に連絡してデバイス名の設定を変更してください。ScanFront を 2 台以上導入したときはデバイス名を重複させないように注意してください。
フォルダーが削除できない	原因	フォルダーにデータが保存されている。
	対処方法	共有フォルダーの管理者にお問い合わせください。
	原因	入力したユーザー名、パスワードに共有フォルダーを変更する権限がない。
	対処方法	共有フォルダーの管理者にお問い合わせください。
ホーム画面からスキャンできない (特定のユーザーのみ)	原因	管理者により「ジョブボタンのみ使用する」に制限されている。
	対処方法	ScanFront の管理者にお問い合わせください。

ログインできない	原因	大文字、小文字が正しく入力されていない。(→ P.56)
	対処方法	ユーザー名、パスワードの大文字、小文字を正しく入力してください。
	原因	認証サーバーの「認証方法」で [Active Directory] を選択し、「ホスト名」に IP アドレスや PC 名を設定している。
	対処方法	「ホスト名」に FQDN を指定し (→ P.135)、「デバイスのネットワーク設定」で、指定された FQDN が登録されている DNS サーバーを設定してください。(→ P.30)
	原因	認証サーバーの「認証方法」で [Active Directory] を選択し、「ドメイン」に NetBIOS ドメイン名を使用している。
	対処方法	「ドメイン」に DNS ドメイン名を指定し (→ P.135)、「デバイスのネットワーク設定」で、指定された DNS ドメイン名が登録されている DNS サーバーを設定してください。(→ P.30)
デバイスにネットワークから接続できない	原因	「リモート操作を許可する。」が [OFF] になっている。
	対処方法	「リモート操作を許可する。」を [ON] にしてください。(→ P.146)
共有フォルダーに PC 名でアクセスできない	原因	WINS サーバーによる名前解決を用いている。
	対処方法	IP アドレスを使用してください。
接続テストには成功するが、フォルダーやサーバーにアクセスできない	原因	接続テストは、指定されたホストに PING コマンドを発行したときの結果と同等です。
	対処方法	その他の設定 (ユーザー名、パスワード、ドメイン、フォルダーへのパス、ポート番号など) が正しいか確認してください。
スキャン		
画像にスジが入る	原因	読み取りガラスの汚れ。
	対処方法	読み取りガラスの清掃を行ってください。(→ P.173) 読み取りガラスにキズが付いているときは、担当サービスに連絡してください。
紙詰まりになる	原因	搬送ローラーの汚れ。
	対処方法	ローラーの清掃を行ってください。(→ P.173)
	原因	原稿の紙種による給紙エラー。
	対処方法	「詳細設定」画面の「原稿の種類」で [非常に薄い紙] を選択してください。または、原稿をセットする枚数を 10 枚程度に減らしてください。(→ P.48)

紙詰まりが多発する	原因	搬送ローラー（消耗品）の磨耗。
	対処方法	交換ローラーキットをお買い求めの上、搬送ローラーを交換してください。（→P.179）
原稿が重送する	原因	静電気による原稿の密着。
	対処方法	原稿の束をセットする前に、よくさばいてからセットしてください。
	原因	原稿の紙種による給紙エラー。
	対処方法	「詳細設定」画面の「原稿の種類」で「非常に薄い紙」を選択してください。または、原稿をセットする枚数を10枚程度に減らしてください。（→P.48）または、分離OFFで1枚ずつスキャンしてください。
	原因	分離ローラーと給紙ローラーの汚れ。
	対処方法	分離ローラーと給紙ローラーの清掃を行ってください。（→P.174）
原稿がまとまって搬送される	原因	「非分離給紙」の設定が「ON」になっている。（→P.38）
	対処方法	「非分離給紙」の設定を「OFF」にしてください。
ジョブボタンを押すとスキャンがすぐに開始される（特定のジョブボタンのみ）	原因	ジョブボタンの設定で「読取設定画面をスキップする」が設定されている。（→P.117）
	対処方法	ジョブボタンの設定を変更または、ジョブボタンを押す前に必ず原稿をセットしてください。
パスポートがうまくスキャンできない	原因	小さな用紙サイズが設定されている。
	対処方法	「読取/送信設定」画面で「用紙サイズ」を大きな用紙サイズ（A4など）に設定してスキャンしてください。（→P.81）
	原因	紙厚による搬送エラー。
	対処方法	「読取/送信設定」画面で「解像度」を300dpi以下に設定してスキャンしてください。（→P.82）
ハードウェア		
電源が入らない	原因	ACアダプターの接続ミス、電源プラグの抜け。
	対処方法	ACアダプター、電源コードの接続を確認してください。接続を確認しても電源が入らないときはお買い求めの販売店に連絡してください。
電源ボタンを押しても正常に起動しない	原因	USBメモリーがScanFrontに挿入されている。
	対処方法	USBメモリーを抜き、電源を入れ直してください。

正しいパスワードを入力しても「無効なパスワード」エラーと表示される	原因	PCとScanFront 400の「日付/時刻の設定」が一致していない。
	対処方法	PCとScanFront 400の「日付/時刻の設定」を一致させてください。PCとScanFrontの「日付/時刻の設定」をグリニッジ標準時に変換したときに、2分以上ずれていると、「無効なパスワードエラー」と表示されます。
タッチパネルの調整画面が表示される	原因	デバイスを完全に初期化した。
	対処方法	画面の指示に従ってタッチパネルの調整を行ってください。(→ P.145)

2. エラーメッセージ

以下のエラーメッセージが表示されたときは、それぞれの対処方法に合わせて処理を行ってください。
 その他表示されるメッセージについて不明なときは、サポート窓口にお問い合わせください。

FTP サーバーへの接続に失敗しました	原因	登録した FTP サーバーの設定が間違っている。
	対処方法	FTP サーバーの設定を確認してください。(→ P.74)
SMTP サーバーのアドレスを設定してください	原因	FTP サーバーとして使用しているコンピューターが起動していない。
	対処方法	FTP サーバーとして使用しているコンピューターを確認してください。
アドレスに制限がかかっています	原因	メールサーバーの設定が未登録または、メールサーバーの設定が削除されている。
	対処方法	ScanFront の管理者に連絡し、「メールサーバー」の設定を確認してください。(→ P.133)
同じユーザー名が存在しています。ユーザー名を変更して登録しなおしてください。	原因	選択したアドレスが管理者により送信制限されている。(→ P.108)
	対処方法	ScanFront の管理者にお問い合わせください。
紙詰まりです。原稿を取り除いてください	原因	登録するユーザー名と同じユーザー名がすでに登録されている。
	対処方法	ユーザー名を確認してから登録してください。
紙詰まりです。原稿を取り除いてください	原因	搬送ローラーの汚れまたはローラーの磨耗。
	対処方法	(1) ローラーが正しく取付られているかを確認し、必要に応じてローラーを清掃してください。(→ P.173) (2) 原稿が静電気などにより密着すると正常にスキャンできません。よくさばいてからセットしてください。 (3) 紙詰まりが繰り返し起きるようなときは、「詳細設定」画面の「原稿の種類」で「非常に薄い紙」を選択してください。または、セットする原稿の枚数を 10 枚程度に減らしてください。(→ P.48)
空の項目があります	原因	アドレス帳 / ジョブボタンのインポート、リストア、バージョンアップ時など、ScanFront へ取り込む設定ファイルを指定しないで実行した。
	対処方法	設定ファイルを指定してから実行してください。

原稿が重送しました 原稿とスキャンした画像を確認してスキャンをやり直してください。	原因	静電気などによる原稿の密着、原稿の積載過多、搬送ローラーの汚れなど。
	対処方法	(1) ローラーが正しく取付られているかを確認し、必要に応じてローラーを清掃してください。(→P.173) (2) 原稿が静電気などにより密着すると正常にスキャンできません。よくさばいてからセットしてください。 (3) 重送が繰り返し起きるときは、「詳細設定」画面の「原稿の種類」で「非常に薄い紙」を選択してください。または、セットする原稿の枚数を10枚程度に減らしてください。(→P.48)
コピーした宛先と、現在選択されている宛先タイプが異なるため、貼り付けることができません	原因	コピー元と貼り付けるアドレスの種類が違っている。
	対処方法	コピーしたアドレスと貼り付けるアドレスの種類を同じにしてください。
制限されたアドレスが含まれています	原因	ジョブボタンに管理者により制限されている宛先が含まれている。(→P.108)
	対処方法	ScanFrontの管理者にお問い合わせください。
設定の変更や登録ができません。 ユーザーがデバイスにログインしている可能性があります。デバイスの状態を確認してください。	原因	ユーザーがログインしているため設定の変更や登録ができません。
	対処方法	ユーザーがログオフしてしてからやり直してください。
登録できるアドレス数を超えました。これ以上登録できません。	原因	アドレス登録数の制限。
	対処方法	使用していないアドレスを整理してからやり直してください。
登録できるジョブ数を超えました。これ以上登録できません。	原因	ジョブボタン登録数の制限。
	対処方法	使用していないジョブボタンを整理してからやり直してください。
登録できるユーザー数を超えました。これ以上登録できません。	原因	ユーザー登録数の制限。
	対処方法	使用していないユーザーを整理してからやり直してください。
認証サーバーが見つかりません。	原因	ログイン時に指定したユーザーが認証サーバーに存在しない。
	対処方法	ユーザー名とパスワードを正しく入力してください。問題が解決しないときは、ScanFrontの管理者にお問い合わせください。

認証サーバが利用不可の状態です。サーバの接続および設定を確認してください。	原因	認証サーバの設定が間違っている。
	対処方法	認証サーバの設定を確認してください。
	原因	認証サーバとして使用しているコンピューターが起動していない。
	対処方法	認証サーバとして使用しているコンピューターを起動してください。
パスに使用できない文字が含まれています。	原因	使用できない文字を指定して、パスを設定している。
	対処方法	パスの文字列に、次の文字を使用しないでください。 /:?*<>
パスワードが一致しません	原因	新しいパスワードと確認用のパスワードが一致していない。
	対処方法	新しいパスワードと確認用のパスワードは同じパスワードを入力してください。
パスワードが登録されていません。よろしいですか。	原因	登録するユーザーにパスワードが設定されていない。
	対処方法	パスワードを確認してから登録してください。
パスワードが間違っています	原因	入力したパスワードが間違っている。
	対処方法	パスワードは、大文字、小文字を正しく入力してください。
ファイル名が設定されていません。ファイル名を入力するか、「自動的にファイル名をつける」設定を有効にしてください。	原因	ファイル名を入力しないで、「自動的にファイル名をつける」を [なし] にした。
	対処方法	ファイル名を入力するか、「自動的にファイル名をつける」設定を [なし] 以外にしてください。(→ P.92)
ファイルの送信に失敗しました。	原因	宛先が正しくない、または、宛先に接続できない。
	対処方法	宛先に登録されているホスト名/FTP サーバー/電子メールアドレス/フォルダーパスが正しいこと、また、宛先に接続できることを確認してください。
	原因	1 回の送信で 10MB 以上の画像ファイルを送信しようとしている。
	対処方法	画像ファイルが 10MB 以下になるように、スキャンする原稿を減らしてください。
	原因	パッシブモードを使用せずに FTP 送信している。
	対処方法	FTP の登録画面でパッシブモードに設定してください。(→ P.75)
ファイル名に使用できない文字が含まれています。	原因	使用できない文字を使用してカスタムファイル名を設定している。
	対処方法	カスタムファイル名に、次の文字を使用しないでください。 /:?*<>

フォルダを作成できません。	原因	USB メモリーが正しく接続されていない。
	対処方法	USB メモリーの接続を確認してください。
ホスト名に使用できない文字が含まれています。	原因	使用できない文字を指定して、ホスト名を設定している。
	対処方法	ホスト名に、次の文字を使用しないでください。 /:?*"<>
モードが白黒のときには JPEG を選択できません。	原因	選択したモードとファイル形式の組み合わせでは使用できません。
	対処方法	使用できるモードとファイル形式の組み合わせを確認してください。(→ P.81)
モードが文字強調の時には裏写り除去は選択できません。	原因	選択したモードと設定の組み合わせでは使用できません。
	対処方法	使用できるモードと設定の組み合わせを確認してください。(→ P.81)
文字列に不正文字が含まれています。	原因	使用できない文字を使用してインデックスファイルを設定している。
	対処方法	インデックスファイルの文字列に、次の文字を使用しないでください。 & " ' < >
ログファイルが書けませんでした。送信処理を中止します。	原因	ログファイルの保存先に指定した共有フォルダーに書き込み権限がない。
	対処方法	共有フォルダーの設定とアクセス権を確認してください。
ユーザーを選択してください。	原因	ユーザー設定画面で、ユーザーを 1 つも選択せずにデバイスからのエクスポートを実行しようとしている。
	対処方法	エクスポートするユーザーを選択してください。
値を設定できません	原因	内部 Web アプリを使用する場合は予めカスタム LXC がインストールされている必要があります。
	対処方法	内部 Web アプリを使用する機能を利用する際にはお買い求めの販売代理店にお問い合わせください。

3. ScanFront の初期化

ScanFront の初期化は、ScanFront を修理依頼する際のユーザー情報の保護や、使用場所の変更などによりユーザー情報を消去するときに実行します。「ScanFront の初期化」では、ユーザー情報、アドレス帳、ジョブボタンなど ScanFront に登録されているすべての情報が初期化されます。

! 重要

- ScanFront の初期化を行うと登録したすべての情報が消去されます。初期化を行う前には必ずバックアップを実行してください。
- 初期化が終了するまで絶対に電源を切らないでください。（終了するとホーム画面を表示します。）

1. 「管理者設定」画面にログインします。



2. [デバイス設定] - [ScanFront の初期化] ボタンを押します。



3. メッセージを確認し、[はい] を押すと初期化を実行して ScanFront を再起動します。

第10章 付 録

1. 仕 様.....	194
本体仕様.....	194
ネットワーク仕様.....	195
送信先.....	196
AC アダプター（100～240V 型）.....	196
消耗品.....	196
オプション.....	196
フラットベッドスキャナーユニット102に ついて.....	196
外形寸法図（単位：mm）.....	197
2. 索引.....	198

1. 仕 様

□ 本体仕様

形式

卓上型ネットワーク対応シートスルースキャナー

操作パネル

タッチパネル式 10.1 インチ TFT 液晶パネル
WSGVA (1024 x 600 ドット) 表示

読み取り原稿サイズ

普通紙

幅： 50 - 216mm

長さ： 54 - 356mm

(長尺モード時は最大 3,048 mm)

紙厚： 分離給紙：

27 - 209g/m² (0.04mm - 0.25mm)

非分離給紙：

27 - 255g/m² (0.04mm - 0.30mm)

最大積載枚数：

85 枚

サイズ：A4 サイズ以下、紙厚：70 -

100g/m²、温度：15℃ - 27.5℃、湿

度：25% - 75%

原稿の総厚みが 10mm を超えないこと

混載条件：A4 サイズ以下の原稿：60 枚

(80g/m² 以下)

A4 サイズを超える原稿：40 枚

(80g/m² 以下)

原稿の総厚みが 10mm を超えないこと

名刺

サイズ： 幅 50 mm × 長さ 85mm 以上

紙厚： 380g/m² (0.35mm) 以下

カード

サイズ： 54mm×86mm (ISO/JIS 規格準拠)

カード厚： 1.4mm 以下

挿入方向： 横送りのみ

エンボス付き：

可能

最大積載枚数：

10 枚 (エンボスなし)、

1 枚 (エンボス付き)

パスポート

サイズ： 88mm×125mm (ISO 規格準拠)

スキャン時はパスポートを開き、オプ
ションのキャリアシート (パスポート用)
に入れて搬送のこと

紙厚： 6mm 以下 (キャリアシート込み)

読み取りセンサー

コンタクトイメージセンサー

光源

LED

読み取り面

片面 / 両面

読み取りモード

白黒、誤差拡散、文字強調、256 階調グレースケール、24 ビットカラー、カラー白黒検知

読み取り解像度 (主走査 × 副走査)

100×100dpi / 150×150dpi

200×200dpi / 240 × 240dpi

300×300dpi / 400×400dpi
600×600dpi

読み取り速度 (条件: 原稿サイズ A4)

白黒	片面	200×200dpi	45 枚 / 分
		300×300dpi	45 枚 / 分
		両面	90 面 / 分
グレー	片面	200×200dpi	45 枚 / 分
		300×300dpi	45 枚 / 分
		両面	90 面 / 分
カラー	片面	150×150dpi	45 枚 / 分
		200×200dpi	45 枚 / 分
		両面	90 面 / 分

ネットワークコネクタ

RJ-45 (10Base-T/100Base-TX/
1000Base-T)

インターフェース

Hi-Speed USB2.0 ポート (3)
(Scan to USB Memory の対応ファイルシステム:
FAT16/FAT32/exFAT)

その他

重送検知機能、斜行補正、半折リスキャン、長尺紙
スキャン、白紙スキップ、画像回転、背景スムージ
ング、裏写り除去、影消し、孤立点除去、ノッチ除
去、文字 / 線の太さ補正、カラードロップアウト、
色強調

外形寸法 (給紙トレイと排紙トレイを閉じた状態)

305 (幅) × 282 (奥行き) × 230 (高さ) mm

最大外形寸法 (給紙トレイと排紙トレイを開いた状態)

305 (幅) × 629 (奥行き) × 366 (高さ) mm

質量

約 4.5kg (AC アダプターを除く)

電源

DC24V 1.6A

消費電力

動作時 (最大): 36W

ローパワーモード時: 2.0W

電源 OFF 時: 0.2W

騒音

42dB 以下

使用環境

温度: 10 °C -32.5 °C

湿度: 20%-80%RH

□ ネットワーク仕様

プロトコル

TCP/IP

IP アドレス

自動取得 (DHCP) または固定アドレス (IPv4)

その他

Active Directory (ケルベロス認証) または
OpenLDAP (Simple 認証) 対応

□ 送信先

電子メール
FAX (インターネット FAX サービス経由)
FTP サーバー
共有フォルダー
USB メモリー
プリンター

□ AC アダプター (100 ~ 240V 型)

型番
MG1-5039
入力
AC100 ~ 240V 50/60Hz 1.06 ~ 0.6A
出力
DC24V 2.0A
質量
約 0.3kg (電源コード含まず)

製品改良のため仕様は予告なく変更することがあります。

□ 消耗品

交換ローラーキット (商品コード: 5595C001)
搬送ローラー (給紙ローラー、分離ローラー) の交換用キットです。(→ P.179 「交換ローラーキットについて」)

! 重要

- 搬送ローラーは消耗品です。ローラーが磨耗してくると紙詰まりや原稿が正しく給紙されないなどの不具合が起きやすくなります。このようなときは搬送枚数にかかわらず、ローラーの交換を行ってください。

- 交換ローラーキットについての詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

□ オプション

フラットベッドスキャナーユニット 102 (商品コード: 2152Cxxx)
スキャナーに取り付けて使用するフラットベッドスキャナーユニットです。本機に取り付けることで、ADF 付きフラットベッドスキャナーとして本機を活用できます。

□ フラットベッドスキャナーユニット 102 について

本機は、オプションのフラットベッドスキャナーユニット 102 を接続して使用できます。

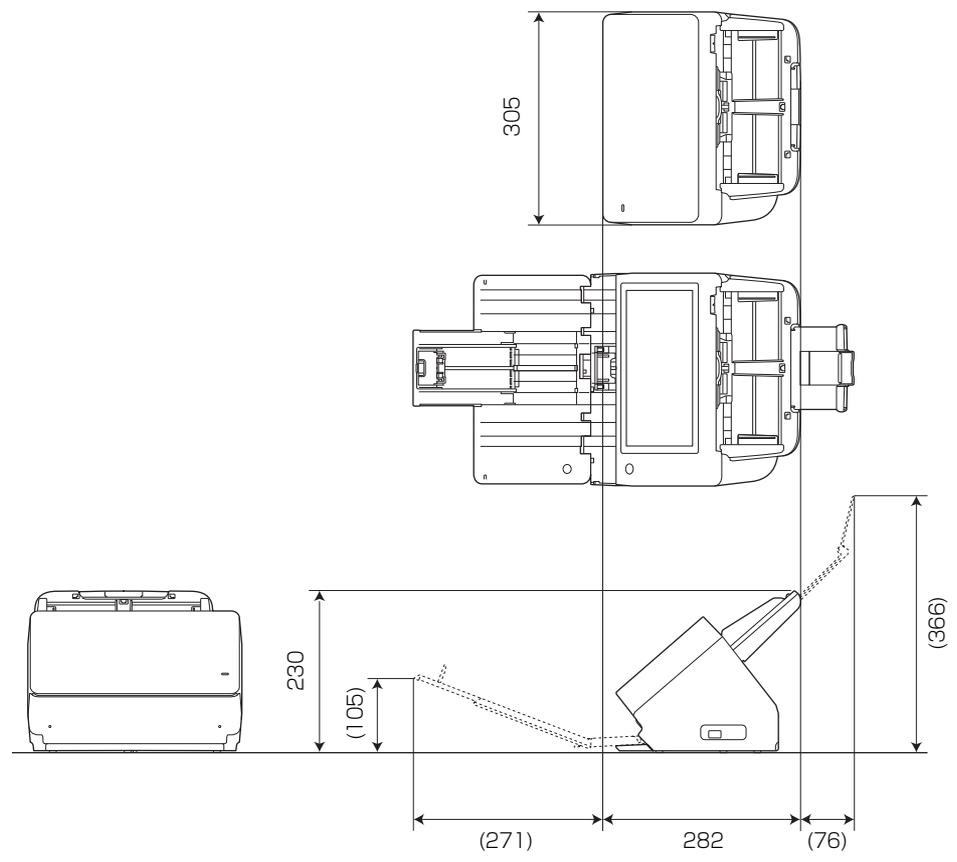
動作環境

フラットベッドスキャナーユニット 102 の必要システム要件に準じます。

! 重要

ScanFront との接続には、フラットベッドスキャナーユニットに同梱されている USB ケーブルを使用してください。

□ 外形寸法図 (単位 : mm)



2. 索引

あ

宛先	
コピー	78, 112, 155
新規登録	72, 155
変更	77, 112, 155
宛先タイプ	
共有フォルダ	73
グループ	76
メール	72
FTP	74
アドレス選択画面	63
アドレス帳サーバ	136
安全にお使いいただくために	11

い

インデックス設定	104
----------	-----

か

カード	36
カードのセット	42
外形寸法図	197
各部の名称と機能	17
カスタムファイル名設定	103, 118
紙詰まり	46
管理者設定	27
管理者設定へのログイン	29
管理者パスワード	31
設定情報のバックアップ/リストア	31
ネットワーク設定	30
ローラーカウンターリセット	32, 145

ログインタイプ選択	32
ScanFront 400の初期化	33, 123
管理者パスワード	142

き

給紙トレイ	37
給紙ローラー	177

け

原稿積載マーク	41
原稿について	35
原稿のセット	40

こ

交換ローラーキット	179
困ったときは	183

さ

サーバ認証	54
-------	----

し

重送	46
仕様	194
詳細設定	82
消耗品	196
ジョブボタン画面	58
ジョブボタンのエクスポート/インポート	121
ジョブボタンのコピー	119, 157
ジョブボタンの新規登録	116, 156

す

スキャナーの移動	12
スキャナーの準備	37
スキャン	66

スキャン設定	81
基本条件設定	81
詳細設定	82
せ	
清掃	
タッチパネル	172
本体	172
読み取りガラス	173
ローラー	173
セキュリティ設定	91
設置場所	11, 22
セットアップ	27
そ	
送信設定	92
送信までの流れ	50
ち	
長尺紙のセット	42
つ	
通信設定	132
て	
ディスプレイオフ	146
デバイス認証	54
電源のオフ	26, 52
電源のオン	25, 51
と	
特長	14
に	
日常のお手入れ	172
日常の取り扱い	12
認証サーバ	135

ね	
ネットワークケーブル	24
ネットワークケーブルの接続	24
は	
バージョン情報	141
廃棄	13
排紙トレイ	37
はじめに	3
半折り原稿のセット	41
ひ	
非分離給紙	38
ふ	
ファイル形式	89
普通紙	35
分離ローラー	175
ほ	
ホーム画面	57
も	
文字入力型ログイン	55
ゆ	
ユーザー設定画面	59
パスワード変更	60
ユーザの機能制限	108
ユーザの新規登録	101
ユーザの機能制限	
編集制限	109
ユーザ編集	107
よ	
読み取りガラス	173
読取 / 送信設定	80

b	
リストア	31
リスト選択型ログイン	54
ろ	
ローパワーモード	146
ローラーカウンタリセット	180
ログイン画面	
サーバー認証	54
文字入力型	53
リスト選択型	53
ログ設定	137
ロックレバー	47, 173
A	
AC アダプター	18
AC アダプターの接続	23
AC アダプタの接続	23
S	
ScanFront Administration Tool for SF400	159
インストール	160
初期設定	162
ScanFront の管理	164
ScanFront の初期化	192
U	
USB ポート	38
USB メモリー	65
USB メモリー画面	65

Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南 2-16-6 CANON **S**TOWER

PUB. CE-IJ-0985-11

© CANON ELECTRONICS INC. 2016